



呉市総合計画審議会第4回会議の開催

「第5次長期総合計画」の策定に向けた呉市総合計画審議会第4回会議を開催します。

- 1 日 時 令和2年12月7日(月) 18時30分から20時30分
- 2 場 所 呉市役所7階752～754会議室
- 3 委 員 別紙のとおり
- 4 内 容 令和3年度からの10年間を見据えた、長期的かつ総合的な市政運営の指針となる「第5次長期総合計画」の策定にあたり、資料を基に基本計画について審議します。
- 5 審議会資料 資料1 第5次呉市長期総合計画(第2編 基本構想まで)最終案
パブリックコメント結果の報告
資料2 第5次呉市長期総合計画(第3編 基本計画)素案

第5次呉市長期総合計画

(第2編 基本構想まで)

最終案

呉 市

目次

第1編 序論

第1章 はじめに

| | |
|--------------|---|
| 1 総合計画策定の趣旨 | 2 |
| 2 総合計画の役割 | 3 |
| 3 総合計画の構成と期間 | 3 |

第2章 呉市の特性

| | |
|--------|---|
| 1 自然環境 | 5 |
| 2 沿革 | 5 |

第3章 呉市を取り巻く環境

| | |
|------------|----|
| 1 人口動向 | 6 |
| 2 少子高齢化の進展 | 9 |
| 3 経済の動向 | 12 |
| 4 災害への備え | 15 |
| 5 行財政改革の取組 | 16 |

第4章 市政運営の振返り

| | |
|-----------------------------|----|
| 1 第4次呉市長期総合計画の計画期間における取組と課題 | 18 |
| 2 市民意見（意識調査） | 23 |

第2編 基本構想

第1章 将来都市像

第2章 目指すべき姿

| | |
|----------------------|----|
| 政策分野1：子育て・教育分野 | 30 |
| 政策分野2：福祉保健分野 | 31 |
| 政策分野3：市民生活・防災分野 | 32 |
| 政策分野4：文化・スポーツ・生涯学習分野 | 33 |
| 政策分野5：産業分野 | 34 |
| 政策分野6：都市基盤分野 | 35 |
| 政策分野7：環境分野 | 36 |
| 政策分野8：行政経営分野 | 37 |

第3章 土地利用の方針

| | |
|-----------|----|
| 1 基本的な考え方 | 38 |
| 2 基本方針 | 38 |

| | |
|--------|----|
| 【用語解説】 | 39 |
|--------|----|

第 1 編 序論

第1章 はじめに

1 総合計画策定の趣旨

呉市では、長期的かつ総合的な市政の計画的運営の指針であり、分野ごとの個別計画の最上位計画となる長期総合計画を、昭和48年（1973年）に策定した「呉市長期総合計画（第1次）」以降、平成23年（2011年）策定の「第4次呉市長期総合計画」に至るまで策定し、これに基づいて市政運営を行ってきました。

また、平成23年（2011年）には、地方自治法の一部を改正する法律（平成23年法律第35号）が施行され、総合計画のうち基本構想について、議会の議決を経て策定することを義務付けていた規定が廃止されましたが、呉市では、呉市議会の議決すべき事件に関する条例において、基本構想の策定等を議会が議決すべき事項としています。

こうした経緯を踏まえて、本計画は、市政運営の根幹となる計画として、また、将来の呉市の姿を見据えた新しいまちづくりの指針として策定するものです。

2 総合計画の役割

この総合計画は、次のような役割を担っています。

- (1) 呉市の各種計画の最上位計画であり、長期的かつ総合的な市政の計画的運営の指針となるもの
- (2) 市民や企業・団体などの活動の指針となるもの
- (3) 国・県等が各種地域計画の策定や事業を実施する際に、最大限尊重されるべき指針となるもの

なお、この総合計画は、次の個別計画を包含しています。

- ・旧軍港市転換法（昭和25年法律第220号）に基づく旧軍港市転換計画
- ・まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に基づく第2期呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法（平成25年法律第95号）に基づく国土強靱化地域計画

3 総合計画の構成と期間

この総合計画は、「基本構想」「基本計画」と、基本計画に基づき実施する事業をまとめた「構成事業集」で構成されます。

(1) 基本構想

基本構想は、令和12年度（2030年度）末における呉市の「将来都市像」と、その実現に向け令和3年度（2021年度）からの10年間で取り組む「目指すべき姿」を政策分野ごとに示すものです。

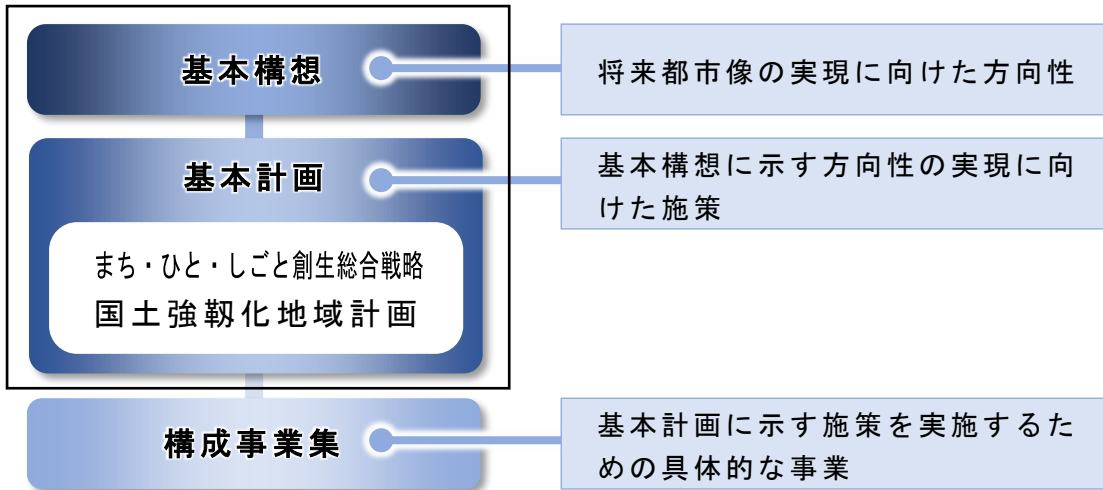
(2) 基本計画

基本計画は、基本構想の計画期間を前期（令和3年度（2021年度）～令和7年度（2025年度））・後期（令和8年度（2026年度）～令和12年度（2030年度））に分け、将来都市像の実現に向けた八つの政策分野ごとに施策をまとめるとともに、国の政策や全市的に取り組まなければならない課題などへの対応を示した「横断的な視点」を示すものです。

(3) 構成事業集

構成事業集は、基本計画に示す施策を実施するための具体的な事業の名称や事業費、事業内容、進捗管理のための指標等を示すものです。

【図表1-1 総合計画の構成】



【図表1-2 計画期間】

| | R 3 (2021) | R 4 (2022) | R 5 (2023) | R 6 (2024) | R 7 (2025) | R 8 (2026) | R 9 (2027) | R 10 (2028) | R 11 (2029) | R 12 (2030) |
|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|
| 基本構想 | ●—————▶ | | | | | | | | | |
| 基本計画 | ●————▶ 前期基本計画 | | | | | ●————▶ 後期基本計画 | | | | |
| まち・ひと・しごと創生総合戦略 | ●.....▶ | | 第2期 | | | ●.....▶ | | 第3期 | | |
| 国土強靱化地域計画 | ●.....▶ | | 第1期 | | | ●.....▶ | | 第2期 | | |
| 構成事業集 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

※構成事業集は毎年度更新

第2章 呉市の特性

1 自然環境

呉市は、瀬戸内海のほぼ中央部、広島県の南西部に位置し、瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島しょ部で構成される気候温和で自然環境に恵まれた都市です。

面積は352.83km²で、陸地部と島しょ部（倉橋島、鹿島、下蒲刈島、上蒲刈島、豊島及び大崎下島）は、架橋により陸続きとなっています。また、市域は東西方向に約38.1km、南北方向に約33.1kmと広がっており、約300kmの海岸線を有しています。

市域全体を通じて平たん地が少なく、野呂山、灰ヶ峰、七国見山、火山を始め、標高300mから800m前後の山が連なり、地域が分断された地形となっています。一方、こうした地形から山と海の風光明媚な自然に恵まれ、瀬戸内の美しい島々や多彩な峡谷美の景観は、貴重な観光資源として、また、市民の憩いとレクリエーションの場としても親しまれています。

2 沿革

呉市では、明治22年（1889年）の呉鎮守府開庁を契機として、本格的な市街地の形成が進められました。明治35年（1902年）10月1日に、全国で55番目に市制を施行し、最盛期の昭和18年（1943年）には人口が40万人を超え、日本一であり世界でも有数の海軍工廠を擁するまちとなりました。当時の海軍が築いた水道施設や港湾施設、病院などの都市基盤は、市民生活に欠かせないものとして現在も活用されています。

その後、終戦による海軍の解体とともに、人口も15万人に激減しましたが、昭和25年（1950年）の平和産業港湾都市への再生を目指す「旧軍港市転換法」の制定により、造船、鉄鋼、機械金属、パルプ産業等の企業が進出し、瀬戸内有数の臨海工業地帯としての基盤を確立し、広島県の産業をけん引してきました。また、昭和29年（1954年）に海上自衛隊呉地方総監部が置かれて以来、海上自衛隊と呉市は、市民・地域との交流、観光、災害時の支援などで密接につながっており、共存共栄をモットーに今日に至っています。

平成15年（2003年）から平成17年（2005年）にかけての近隣8町との合併により、美しい自然や歴史、文化、地域産業など、特色ある多くの地域資源を有することとなりました。平成8年（1996年）に広島呉道路（クレアライン）、平成14年（2002年）に休山トンネル、平成27年（2015年）に東広島・呉自動車道が開通するなど、幹線道路の強化・充実や高速交通網へのアクセス向上などにより、医療、教育、文化や企業が集積した広島県の主要都市のひとつとして発展しています。また、平成28年（2016年）には中核市へ移行しました。

第3章 呉市を取り巻く環境

1 人口動向

(1) 全国的な動向

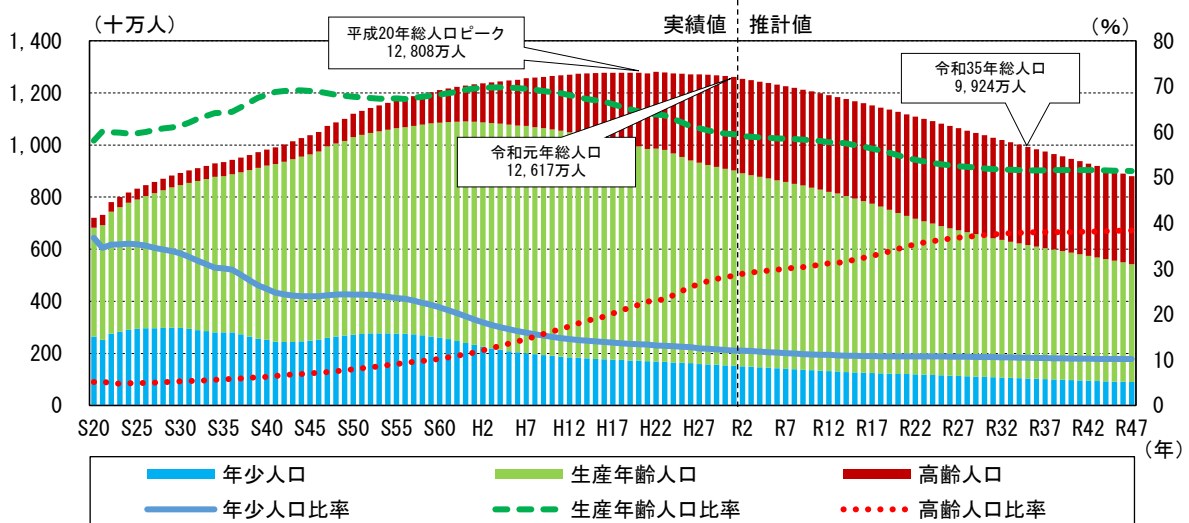
日本の総人口は、これまで、2度のベビーブーム世代という大きな人口の塊があったことや平均寿命の延伸による死亡数の抑制により、長らく増加を続けてきましたが、平成20年（2008年）の1億2,808万人をピークに減少局面に入っており、令和元年（2019年）10月1日時点で1億2,616万7千人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後は、長期的に人口減少が進み、令和35年（2053年）には、9,924万人と1億人を割ることが予測されています。

一方で、東京圏では、20年以上にわたり転入数が転出数を上回る転入超過が続いており、平成30年（2018年）には、13万6千人の転入超過となっています。転入者の大半は、15歳から29歳までの若年層（12.5万人）となっており、若年層の東京圏への転入超過が続いていることから人口の一極集中が拡大する傾向にあります。

こうしたことから、地方では、若年層を中心とする大都市への人口流出による転出超過と、若年層の減少による出生数の減少により、大都市に比べ数十年も早く人口減少が進行しています。人口減少がもたらす社会への影響として、働き手の減少や個人消費の減少などによって地方の経済が縮小するなど社会的・経済的な課題が生じており、こうした状況が続くと国全体の経済規模の縮小を招くことが懸念されています。

【図表1-3 国の人口の推移と長期的な見通し（全国）】



(注) 1 令和元年（2019年）までは実績値。令和2年（2020年）以降は推計値
 2 推計値は出生中位（死亡中位）の数値
 資料：総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」

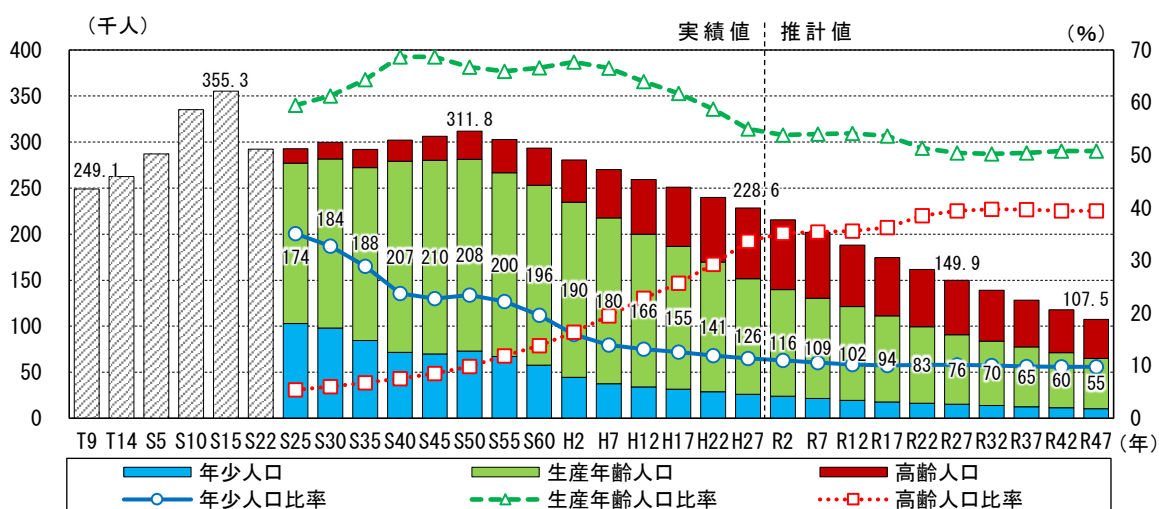
(2) 呉市の動向

呉市の人口は、明治以降、海軍の拡張とともに全国から人々が集まり、最盛期の昭和18年（1943年）には、当時の市域（中央、宮原、吉浦、警固屋、阿賀、広、仁方地区）で人口40万人を超えていました。

戦後においては、昭和50年（1975年）の31万人（平成15年（2003年）から平成17年（2005年）に合併した近隣8町を含む。）をピークに人口減少が続いており、国や広島県と比べて早い時期に人口減少への転換期を迎え、令和元年（2019年）10月1日時点の人口は22.2万人となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、呉市の総人口は令和27年（2045年）には15万人まで減少し、令和47年（2065年）には現在の半分以下まで減少することが予測されています。

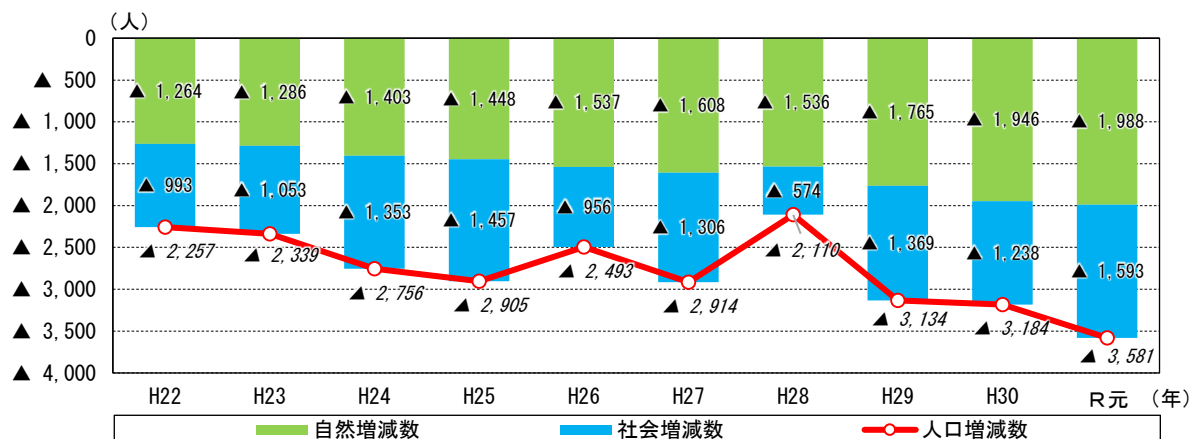
直近10年間の人口動態を見ると、年ごとの増減はあるものの、全体として減少傾向が拡大しています。また、直近10年間の地区別人口の推移を見ると、広地区や郷原地区では減少率が低く、合併した島しょ部などでは減少率が高くなっています。出生数と死亡数の差を示す自然動態は、20歳代・30歳代の若年層の減少や未婚化・晩婚化による出生数の減少、死亡数の増加で、自然減が拡大傾向であり、令和元年（2019年）は1,988人減少しています。また、市外との転入と転出の差を示す社会動態も、毎年1,200人前後の社会減が続き、平成30年（2018年）は1,238人の減少となり、自然動態との合計は3,184人の減少となっています。また、年齢別に見ると20歳代・30歳代の若年層の減少が多くなっています。

【図表1-4 呉市の人口推移と長期的な見通し】



(注) 人口は、現在の市域で算出。平成27年（2015年）までは実績値（年齢不詳は按分）。ただし、昭和22年（1947年）以前は年齢区分不明のため総数のみ記載。令和2年（2020年）以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018年）推計）」に準拠した推計値
資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018年）推計）」

【図表1-5 呉市の人口動態の推移（外国人住民を除く。）】



(注) 平成23年(2011年)までは年度データ。平成24年(2012年)以降は年データ
資料: 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

【図表1-6 呉市の地区別人口の推移】

| 年 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | H22→R元 増減数 | H22→R元 増減率 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------------|---------------|
| 呉市全体 | 248,291 | 245,906 | 243,515 | 240,968 | 238,014 | 235,592 | 232,925 | 231,008 | 227,965 | 224,922 | ▲23,369 | ▲9.4% |
| 中央 | 54,868 | 54,231 | 53,776 | 53,262 | 52,487 | 52,178 | 51,614 | 51,314 | 50,372 | 50,054 | ▲4,814 | ▲8.8% |
| 吉浦 | 11,495 | 11,417 | 11,232 | 11,113 | 10,971 | 10,772 | 10,666 | 10,527 | 10,397 | 10,210 | ▲1,285 | ▲11.2% |
| 警固屋 | 5,726 | 5,599 | 5,468 | 5,301 | 5,216 | 5,069 | 4,916 | 4,800 | 4,712 | 4,536 | ▲1,190 | ▲20.8% |
| 阿賀 | 17,013 | 16,724 | 16,503 | 16,360 | 16,233 | 16,027 | 15,857 | 15,859 | 15,675 | 15,399 | ▲1,614 | ▲9.5% |
| 広 | 47,033 | 47,091 | 47,094 | 47,032 | 46,820 | 46,836 | 46,875 | 47,154 | 47,098 | 46,913 | ▲120 | ▲0.3% |
| 仁方 | 7,393 | 7,259 | 7,171 | 7,020 | 6,919 | 6,758 | 6,681 | 6,513 | 6,413 | 6,292 | ▲1,101 | ▲14.9% |
| 宮原 | 8,588 | 8,367 | 8,242 | 8,122 | 8,034 | 7,836 | 7,691 | 7,483 | 7,358 | 7,190 | ▲1,398 | ▲16.3% |
| 天応 | 4,538 | 4,495 | 4,441 | 4,405 | 4,371 | 4,318 | 4,273 | 4,184 | 4,120 | 3,918 | ▲620 | ▲13.7% |
| 昭和 | 35,792 | 35,640 | 35,469 | 35,223 | 34,919 | 34,751 | 34,393 | 34,238 | 33,815 | 33,513 | ▲2,279 | ▲6.4% |
| 郷原 | 4,986 | 5,044 | 5,060 | 5,025 | 5,002 | 4,991 | 4,991 | 4,962 | 4,896 | 4,836 | ▲150 | ▲3.0% |
| 下蒲刈 | 1,857 | 1,813 | 1,775 | 1,734 | 1,652 | 1,596 | 1,531 | 1,494 | 1,452 | 1,425 | ▲432 | ▲23.3% |
| 川尻 | 9,692 | 9,592 | 9,443 | 9,264 | 9,105 | 8,933 | 8,786 | 8,590 | 8,511 | 8,348 | ▲1,344 | ▲13.9% |
| 音戸 | 13,678 | 13,448 | 13,188 | 12,979 | 12,732 | 12,527 | 12,332 | 12,069 | 11,892 | 11,626 | ▲2,052 | ▲15.0% |
| 倉橋 | 6,761 | 6,617 | 6,458 | 6,320 | 6,125 | 5,968 | 5,733 | 5,522 | 5,373 | 5,232 | ▲1,529 | ▲22.6% |
| 蒲刈 | 2,292 | 2,216 | 2,158 | 2,090 | 1,992 | 1,902 | 1,819 | 1,758 | 1,694 | 1,667 | ▲625 | ▲27.3% |
| 安浦 | 12,254 | 12,148 | 11,955 | 11,802 | 11,660 | 11,445 | 11,228 | 11,128 | 10,917 | 10,612 | ▲1,642 | ▲13.4% |
| 豊浜 | 1,851 | 1,788 | 1,735 | 1,673 | 1,626 | 1,588 | 1,529 | 1,482 | 1,426 | 1,350 | ▲501 | ▲27.1% |
| 豊 | 2,474 | 2,417 | 2,347 | 2,243 | 2,150 | 2,097 | 2,010 | 1,931 | 1,844 | 1,801 | ▲673 | ▲27.2% |

資料: 呉市「呉市の世帯数と人口(住民基本台帳)」

2 少子高齢化の進展

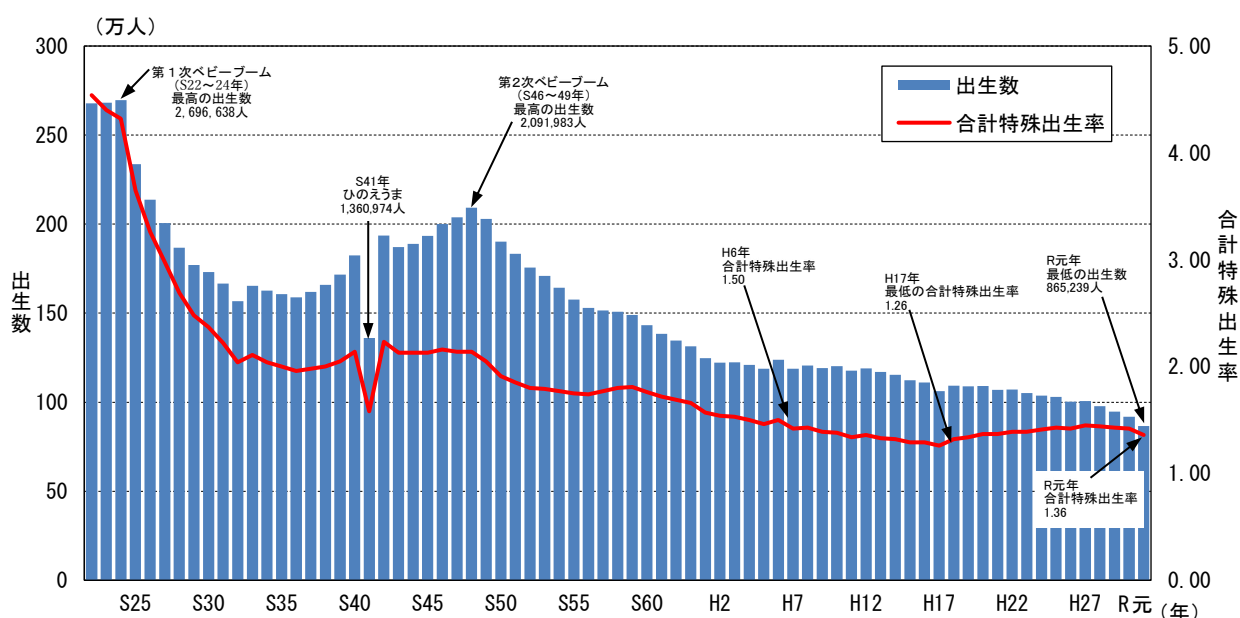
(1) 全国的な動向

年齢区分による動向では、昭和25年（1950年）の2,943万人だった14歳以下の人口は、令和元年（2019年）には1,521万人まで減少しています。合計特殊出生率^{*}を見ると、平成17年（2005年）に最低の1.26を記録し、平成27年（2015年）には1.45まで上昇したものの、その後は微減が続いています。同様に、年間の出生数は、平成28年（2016年）に初めて100万人を割り、令和元年（2019年）には86万5千人と、明治32年（1899年）の調査開始以来、過去最少の人数となっています。

65歳以上の人口は、医療の進歩などで平均寿命が延びたことにより増加が続き、平成25年（2013年）に3,189万9千人で、国民の四人に一人が高齢者となり、令和24年（2042年）には3,935万2千人でピークを迎えることが予測されています。

その後は、総人口の減少とともに65歳以上の人口も減少していきませんが、高齢化率は上昇を続け、令和42年（2060年）には38%を超える水準まで高まることが推計されています。多様な知識と経験を有する高齢者が増加し、就業や地域社会で活躍する機会が増えた一方で、少子化が進むことにより、人口構造の変化を招くだけでなく、就業者数の減少等による経済成長の低下など、社会・経済活動に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

【図表1-7 出生数・合計特殊出生率の動向（全国）】



(注) 合計特殊出生率とは、一人の女性が生涯に何人の子どもを産むかを表す数値。15～49歳の女性の年齢別出生率を合計したもの。

資料：厚生労働省「人口動態統計」

(2) 呉市の動向

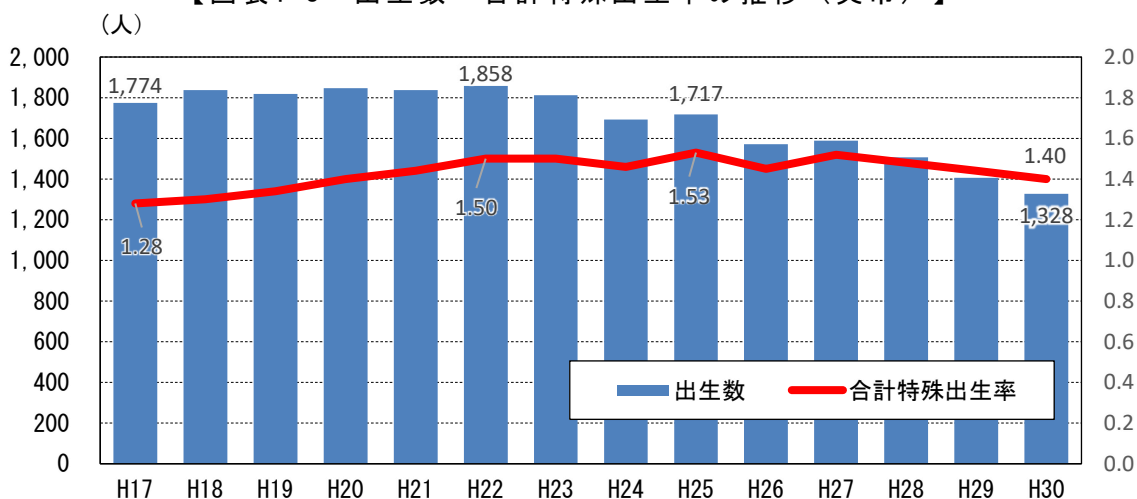
呉市の年齢区分人口は、昭和50年（1975年）には14歳以下の人口が7.3万人、65歳以上の人口が3.1万人でしたが、14歳以下の人口は、昭和50年（1975年）をピークに減少が続き、平成2年（1990年）には65歳以上の人口が14歳以下の人口を上回っています。

平成27年（2015年）時点の呉市の人口構成を見ると、全国と比較して、全人口の中で40歳未満の年齢層が占める割合が男女ともに低く、将来的な生産年齢人口の減少とそれに伴う年少人口の減少が予想されます。令和47年（2065年）の推計を見ると、呉市は男女比で男性の方が約千人多くなっており、全国の男女比と逆転していることと、全国と比較して男性の高齢者の割合が高くなっています。

合計特殊出生率を見ると、平成17年（2005年）に1.28を記録し、平成25年（2013年）には1.53まで上昇したものの、平成27年（2015年）からは減少する傾向にあります。同様に、年間の出生数は、平成22年（2010年）の1,858人から平成30年（2018年）には1,328人となっており、減少傾向が続いています。

また、昭和50年（1975年）から増加傾向であった65歳以上の人口は、平成27年（2015年）の7.7万人を境に減少に転じ、総人口に対する割合も令和27年（2045年）以降、横ばいに推移していくことが見込まれています。

【図表1-8 出生数・合計特殊出生率の推移（呉市）】



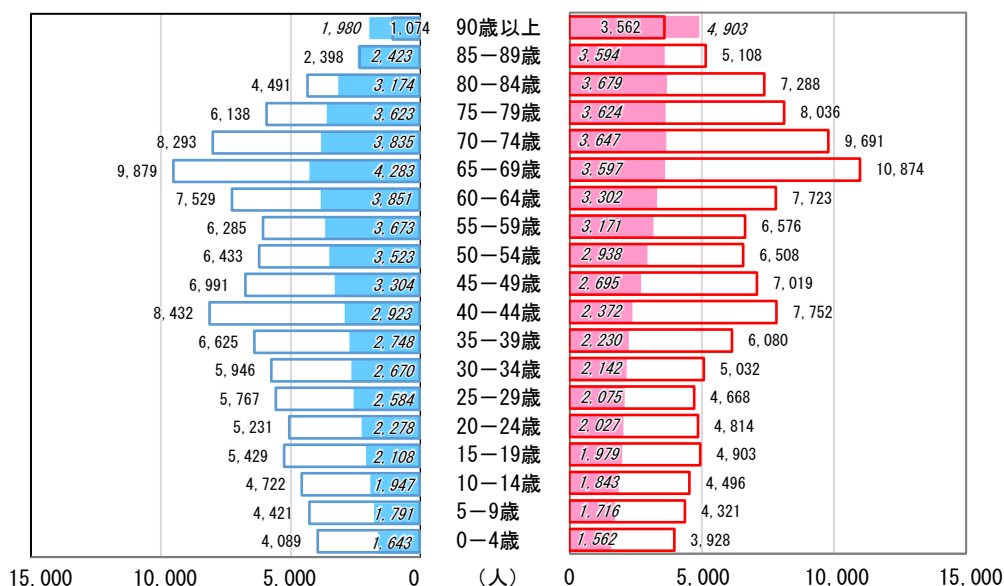
(注) 合計特殊出生率とは、一人の女性が生涯に何人の子どもを産むかを表す数値。15～49歳の女性の年齢別出生率を合計したもの。

資料：厚生労働省「人口動態統計」、呉市「呉市の保健衛生」

【図表1-9 呉市と全国の人口構成の比較】

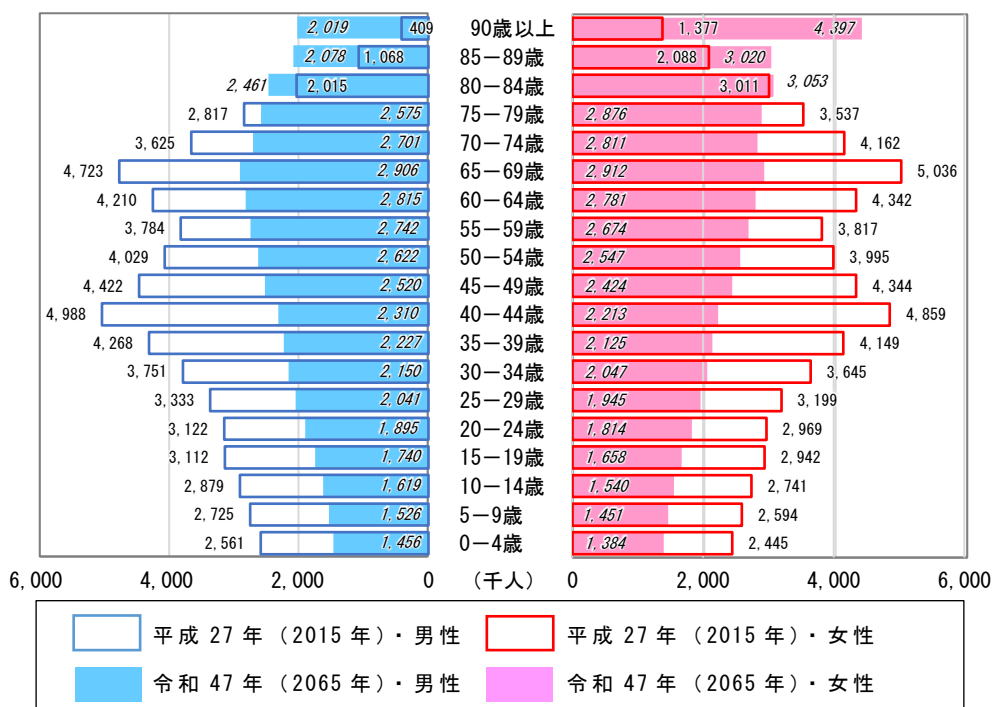
○呉市の人口 H27：228,554人→R47：107,460人

(男性) 呉市 (女性)
(H27：110,175人→R47：54,362人) (H27：118,379人→R47：53,098人)



○日本の総人口 H27：127,095千人→R47：88,076千人

(男性) 全国 (女性)
(H27：61,842千人→R47：42,402千人) (H27：65,253千人→R47：45,674千人)



(注) 1 平成27年(2015年)は実績(グラフ中は通常字体。年齢不詳は按分)。令和47年(2065年)は推計値(グラフ中は斜字体)
 2 推計値は出生中位(死亡中位)の数値
 3 年齢別人口は小数点第1位を四捨五入しているため、合計は総人口と一致しない。
 資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」、「日本の地域別将来推計人口(平成30年(2018年)推計)」

3 経済の動向

(1) 全国的な動向

世界では、貿易や投資の拡大を背景として、産業構造の変化やアジア諸国の急速な経済成長により、国境を越えた資本や労働力の移動が活発化しており、経済のグローバル化が進展しています。

一方で、平成20年（2008年）には、リーマンショックによる世界同時不況の影響により輸出産業の収益が大幅に悪化しました。また、平成30年（2018年）の名目GDP^{*}（国内総生産）は世界3位を維持しているものの、世界で我が国が占める比率は、5.7%と年々下がっていることや、一人当たりの名目GDPは、OECD加盟国の中で20位となるなど、経済における日本の存在感が低下しています。

こうした中、金融緩和や経済対策などによるデフレからの脱却と経済再生に向けた取組により、企業の収益改善が雇用の増加や賃金上昇につながり、消費や投資の増加に結び付くなど、新型コロナウイルス感染症の影響が出てきた令和2年（2020年）2月まで緩やかな景気の回復が続いていました。

また、日本を訪れる外国人観光客は、平成25年（2013年）に初めて年間1,000万人を超えて以降、急速に増加を続け、平成30年（2018年）には3,119万人に達しましたが、現在は、新型コロナウイルス感染症の影響により外国人観光客は激減しています。国は、ポストコロナ時代においても、観光産業が今後の日本経済の主要な産業として役割を果たすよう、日本人観光客の需要喚起や外国人観光客の受入促進に、官民一体となって取り組むこととしています。

さらには、IoT^{*}（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、AI^{*}（人工知能）やロボット技術等が活用されることにより、共有化された様々な知識や情報が自動的に分析され、今までにない新たな価値を生み出すことで、社会に存在する課題や困難を克服することが可能となる新たな時代、Society5.0^{*}へ向けて、日本の社会全体が発展することが求められています。

こうした社会が実現されれば、新たなビジネスチャンスが拡大し、新産業が創出されるとともに、AIやロボット技術により、人口減少社会においても一定の労働力を確保しつつ経済成長を実現していくものと期待されています。

(2) 呉市の動向

呉市は、自動車・航空機部品、半導体・発電用設備、造船、鉄鋼、木材、パルプなどを生産する企業が立地し、独自技術や全国的、世界的に高いシェアを持つ企業を有する「ものづくり」のまちです。近年は、内陸部の工業団地や阿賀マリノポリス地区、天応第2期埋立地への製造業や物流企業等の誘致を進め、地域産業の活性化や雇用創出に取り組んでおり、第2次産業の生産額は微増傾向であるものの、就業者数は、減少傾向となっています。

第3次産業では、「卸・小売業」に次いで「医療・福祉」「公務」の従業者数が多いことが特徴となっています。なお、事業所数、従業者数が多い「卸・小売業」では、後継者不足による廃業などにより空き店舗が増加し、事業者数、就業者数ともに減少傾向となっていますが、空き店舗などの遊休不動産のリノベーション*による新規出店や、民間団体等が道路や公園等の公共空間を利活用したイベントを実施するなど、新たな気運が生まれています。

観光分野では、平成17年（2005年）の大和ミュージアムの開館を契機として、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるまでは観光客が増加してきました。平成30年7月豪雨災害の影響を除くと、入込観光客数は、毎年300万人程度で推移していますが、日帰り観光客が多く、一人当たりの観光消費額が約6千円程度となっています。

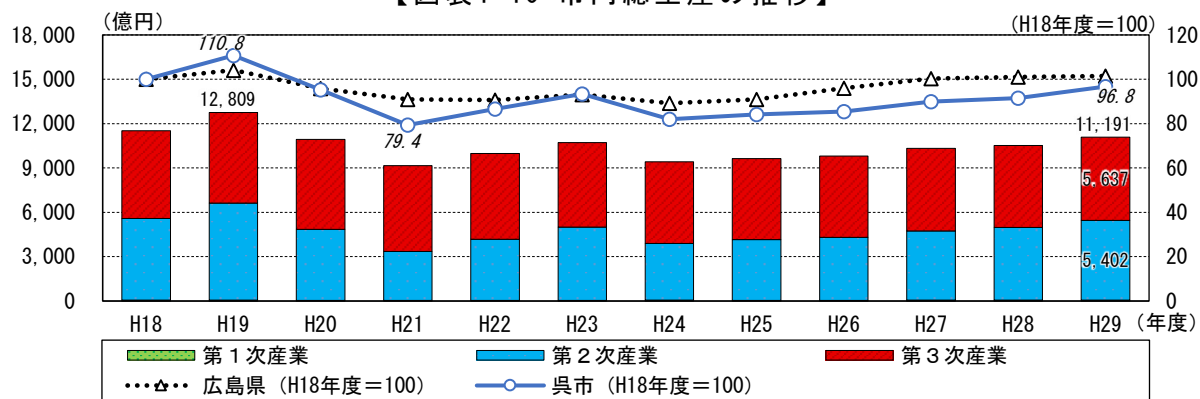
また、地域経済の基盤であり、市内企業数の99%を占める中小企業・小規模企業では、事業承継や従業員の確保、人材の育成、売上の停滞・減少などが経営上の課題となっています。

第1次産業では、農業分野は、島しょ部での柑橘、野菜、花き等の園芸農業と内陸部での水田農業に大別されます。農業者の高齢化や担い手不足により耕地面積の減少が進んでいますが、付加価値の高い農産物の大規模生産に取り組む生産者もあります。

また、漁業分野では、漁業者数・保有漁船数は県内で最も多く、国内有数の生産量を誇る牡蠣養殖や、シラス漁が盛んに営まれています。一方で、漁業者の高齢化や担い手不足と天然資源の減少により漁獲量、漁獲高が減少していますが、それを補うべく新たにワカメなどの養殖に取り組む漁業者も増えています。

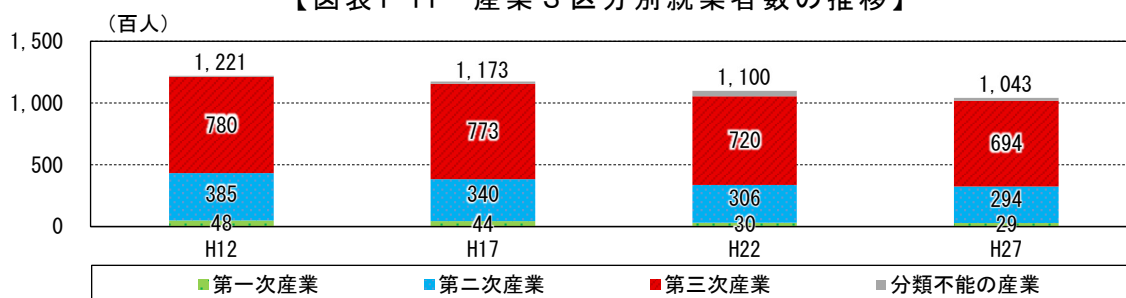
このような状況の中、全国的な新型コロナウイルス感染症の流行や、国際的な鉄鋼市場の低迷により、長きにわたり地域の経済発展をけん引してきた日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止が発表されたことは、消費活動の低迷や雇用環境の悪化など呉市の経済に多大な影響を与えるものであり、既に様々な対策に取り組んでいるところです。

【図表1-10 市内総生産の推移】



資料：広島県「市町村民経済計算」

【図表1-11 産業3区分別就業者数の推移】



資料：総務省「国勢調査」

4 災害への備え

(1) 全国的な動向

近年、全国各地で、台風や集中豪雨などによる甚大な被害が発生しています。また、大規模な地震も多発しており、今後30年以内に南海トラフにおけるマグニチュード8～9クラスの地震が発生する確率が70～80%と予想されるなど、自然災害への懸念が高まっています。

こうした中、国においては、平成26年（2014年）6月に「国土強靱化基本計画」を策定し、人命の保護や国家・社会の重要な機能の維持、国民の財産や公共施設に係る被害の最小化、迅速な復旧復興を目標に、ハード対策とソフト対策の適切な組合せや既存社会資本、民間資金の活用等による防災・減災の取組を推進しています。

また、広域的な大規模災害が発生した場合には、地域における自主的な防災活動や自助・共助が重要であり、災害の被害を最小限に食い止めるためには、住民や企業を始めとする地域全体で連携し、災害に強いまちづくりを推進することが求められています。

(2) 呉市の動向

呉市は、市域全体を通して平坦地が少なく、野呂山や灰ヶ峰などの山々によって地域が分断された形となっており、明治22年（1889年）の呉鎮守府開庁以降、海軍の拡張に伴う人口の急増により、中央地区を始めとする斜面地に家屋が密集するといった特徴的な市街地を形成しています。

こうした地理的条件にある呉市では、戦後、昭和20年（1945年）9月の死者1,000人以上の大きな被害となった枕崎台風を始め、昭和42年（1967年）7月の豪雨、平成11年（1999年）6月の豪雨、平成13年（2001年）の安芸灘を震源とするマグニチュード6.7、最大震度6弱の芸予地震などの風水害や地震等により多くの被害がもたらされました。

また、平成30年7月豪雨では、市内で182件の土砂災害が発生し、死者29名（関連死を含む。）・負傷者22名（令和2年9月末時点）と、近年まれにみる大きな被害を受けました。この災害では、各地で道路や鉄道など物流機能が寸断され、経済活動にも大きな影響を及ぼしました。

現在も、平成31年（2019年）3月に策定した「呉市復興計画」に基づき、道路・河川・農地などの災害復旧や被災者に寄り添った切れ目のない支援を進めるとともに、令和元年（2019年）9月に策定した「呉市復興計画（地区計画）」に基づく取組を一層推進し、本格的な復興に向けて取り組んでいます。

こうした幾度にわたる災害の経験や被害が拡大しやすい地形的な特性を踏まえて、平成30年7月豪雨以前から、これまで長い年月を掛けて、砂防ダム等の整備や道路の拡幅などの防災・減災対策を進めており、今後も災

害に備え、ハード、ソフトの両面で計画的に強靱化に向けた取組を進めて行く必要があります。

5 行財政改革の取組

(1) 全国的な動向

日本の財政は、急速な高齢化の進展により、社会保障費などの歳出が増加する一方で税収が伸び悩み、歳出が歳入を上回る状況が続いています。特に、平成20年度（2008年度）以降、景気の悪化に伴う税収減により歳出と歳入の差額が広がり、その差額を借金である国債の発行で賄っているため、その残高は年々増加し、令和元年度（2019年度）末には897兆円、国債以外の借入金や地方債残高などを含めた長期債務残高は、国・地方を合わせ、1,122兆円に達しています。

そのため、国は、今後も増加が見込まれる社会保障費等に対応するため、消費税収を社会保障財源化するなど、持続可能な社会保障の安定財源の確保と財政健全化を目指し、社会保障と税の一体改革に取り組んでいます。

また、日本の道路、上下水道、公園、施設等の社会資本は、その多くが高度経済成長期に建設され、耐用年数を迎えつつあるため、その老朽化に伴う維持管理・更新に要する費用の増大が懸念されています。

そのため、限られた財源の中で、今後も効果的に社会資本を提供できるよう、国や地方公共団体においてファシリティマネジメント*に関する取組が進められています。

(2) 呉市の動向

呉市の財政は、歳入面では人口減少等により市税収入の大幅な増加が見込めない状況が続いており、歳出面では、職員の人件費は減少するものの、引き続き、社会保障費の増加が見込まれており、今後の社会経済情勢の変化が財政運営に及ぼす影響等も考慮し、柔軟に対応していくことが求められています。

こうした状況にあっても、時代の変化に伴う新たな行政需要に的確に対応していくためには、健全な財政運営を確保していくことが大切であり、財政構造の弾力性を確保すること、財政運営の安定性・継続性を確保することの二つの視点を念頭に置き、健全で持続可能な財政運営に取り組んでいく必要があります。

職員の適正配置では、平成18年度（2006年度）からの「第2次呉市定員適正化計画」や平成25年度（2013年度）からの「呉市職員体制再構築計画」等の実施により、正規職員数の適正化や年齢構成の平準化に取り組むことで、近隣8町との合併により職員数が大幅に増加した平成17年度（2005年度）の2,653人から、令和2年度（2020年度）には1,671人まで削減しています。人口減少や少子高齢化が進む中で、今後の様々な行政需要に的確に

対応できるよう，引き続き職員数の適正化を進めていく必要があります。

また，平成27年度（2015年度）には「呉市公共施設等総合管理計画」を策定し，公共施設等の更新，統廃合，長寿命化などを計画的に進めています。今後は，呉市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の実施により，施設の安全性，利便性及び快適性の確保並びに保有量の適正化を進めていく必要があります。

第4章 市政運営の振返り

1 第4次呉市長期総合計画の計画期間における取組と課題

平成23年（2011年）に、令和2年度（2020年度）を目標年次として策定した第4次呉市長期総合計画では、市民との協働によるまちづくりを基本に据え、市民が安心して、安全・快適に暮らしていくことができる「心身ともに活力あふれる社会」の構築に向けて、様々な取組を行ってきました。

また、平成27年度（2015年度）から「呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生の実現に取り組むとともに、平成30年度（2018年度）から「くれワンダーランド構想」の考え方を後期基本計画に盛り込み、一体的に推進してきました。

一方で、今後のまちづくりに向けて新たな課題も浮き彫りとなってきました。それらの課題を、主な政策分野ごとに整理しました。

(1) 子育て・教育分野

ア これまでの取組

- (ア) 子育て世代包括支援センター※えがおを開設し、母子保健や育児相談への対応など、妊娠から子育てまでの包括的な支援を行いました。
- (イ) 子育て家庭を地域で支える取組として、地域子育て支援拠点※事業を市内全7地区、11施設で実施し、乳幼児及びその保護者の相互交流や、子育て相談、各種情報の提供、助言その他の援助を行い、子育ての孤立感、負担感の解消を図りました。
- (ウ) 小学校から中学校へのスムーズな移行を実現するため、小中一貫教育を推進し、中1ギャップ※の解消と自尊感情の向上のための取組を基盤とした資質・能力の育成を図りました。
- (エ) 学校施設の耐震化や空調設備の設置により、児童・生徒等の安全・安心で快適な学習環境の確保に取り組みました。

イ 課題

- (ア) 雇用や収入の不安定さや、仕事と子育ての両立の難しさ、家事や育児への時間的、精神的な負担の増大などの様々な要因が、若い世代の結婚から妊娠、出産、子育てまでの希望の実現を難しくしており、少子化が進行しています。また、児童虐待の相談対応件数が増加の一途をたどっており、虐待予防のための早期対応や虐待事案発生時の迅速な対応、虐待を受けた子どもの継続的な支援が必要となっています。
- (イ) グローバル化や情報化、少子化などの社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する教育上の課題への対応が求められています。また、いじめや不登校への対応、特別支援教育の充実、ICT※を活用した教育の推進などが課題となっています。

(2) 福祉保健分野

ア これまでの取組

- (ア) 「健康寿命日本一」を目指して、運動習慣の定着、食育の推進や、特定健診・がん検診の受診促進などに取り組みました。また、全国に先駆けてレセプトや健診情報等をデータベース化し、糖尿病性腎症の重症化予防などのデータヘルス^{*}に取り組み、市民の健康維持・増進を図りました。
- (イ) 地域包括ケアシステム^{*}を構築し、住民同士が支え合う地域づくりや地域包括支援センター^{*}の支援強化、医療・介護関係者等による多職種連携の強化、認知症対策等に取り組むことにより、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくための環境を整備しました。

イ 課題

呉市においては、人口のボリュームゾーンの高齢側へのシフトなどにより、全国に先駆けて高齢化が進行し、高齢化率30%台半ばの高い水準が続いています。そのため、必要に応じて医療や介護サービスなどが提供され、住み慣れた地域で安心して生活できることが求められています。

(3) 市民生活・防災分野

ア これまでの取組

- (ア) 地域おこし協力隊^{*}の受入れやまちづくりサポーター^{*}などの市民公益活動^{*}を支援する人材の育成、ゆめづくり地域交付金^{*}などの財政的支援を行い、地域住民による主体的なまちづくり活動の推進を図りました。
- (イ) 防災分野では、呉市の地理的特性から、これまで、平成30年7月豪雨災害を始めとする多くの災害を経験してきたことから、市民の生命・財産等を守るため、道路や河川等のハード面での対策に加え、気象や避難に関する情報伝達方法の見直しや情報の充実、避難行動の喚起などに取り組んできました。
- (ウ) 消防・救急体制についても、消防局・西消防署新庁舎の整備や高度救助隊の編成、消防団の装備品の拡充などに取り組んできました。

イ 課題

- (ア) 地域の課題解決に対する市民ニーズは多様化しており、市役所だけで対応していくことは難しくなっています。
- (イ) 地域の人口減少や高齢化などにより、まちづくり活動の担い手や参加者が減少しています。
- (ウ) 防災分野では、平成30年7月豪雨災害で多くの市民が避難指示後も避難行動を起こさなかったことや、気象情報や避難情報の周知、避難所の在り方などが課題となりました。今回の災害を教訓として、引き続き、地域の防災力の向上や消防力の強化を図る必要があります。

(4) 文化・スポーツ・生涯学習分野

ア これまでの取組

- (ア) 日本遺産^{*}（鎮守府・北前船）の認定や朝鮮通信使関連資料のユネスコ（国際連合教育科学文化機関）『世界の記憶^{*}』の登録を受け、普及啓発や情報発信に取り組んできました。また、豊町御手洗地区の町並みや旧澤原家住宅などの文化財の保存と活用、音戸の舟唄、神楽、やぶ^{*}などの地域に根付いた伝統文化の周知、継承等に取り組んできました。
- (イ) スポーツ分野では、生涯スポーツや健康づくりの推進、トップアスリートの小中学校での指導、日本体育大学との連携、拠点スポーツ施設の整備などに取り組んできました。

イ 課題

- (ア) 文化芸術に参加（鑑賞）する機会の拡充や文化財の適正な保存と活用、祭りなどの地域の伝統文化の継承が課題となっています。
- (イ) スポーツ分野においては、子どもから高齢者までそれぞれのライフステージに応じたスポーツ活動のニーズの多様化や、指導者の高齢化・後継者不足による指導者の不足、トップアスリートの育成などが課題となっています。

(5) 産業分野

ア これまでの取組

- (ア) 地域産業の活性化に向けて、阿賀マリノポリス地区や天応第2期埋立地、苗代工業団地を整備し、企業立地を進め、雇用の創出に取り組んできました。また、呉市中小企業・小規模企業振興基本条例を制定し、中小企業等の事業活動の支援や創業の促進に向けて取り組んできました。
- (イ) 観光面においては、二つの日本遺産等の観光資源を活用した呉市の魅力を発信するとともに、観光資源のブラッシュアップを進めてきました。
- (ウ) 農水産業においては、農水産物の販路拡大やブランド化の推進、産地育成・地産地消、新規就業者の確保・育成等に取り組んできました。

イ 課題

- (ア) 市内の中小企業・小規模企業は、人口減少と海外との競争激化、令和元年度末頃から始まった全国的な新型コロナウイルス感染症の流行などにより、厳しい状況が続いています。
- (イ) 人材の確保が難しい状況が続いており、経営基盤の強化や事業承継が課題となっています。また、大学等の卒業者の就職先が少ないことも課題となっています。
- (ウ) 観光面においては、滞在型や繰り返し訪れる観光客、一人当たりの消費額を増加させることなどが課題となっています。

- (エ) 農水産業においては、生産者等の減少などによる生産基盤の脆弱化や価格の低迷などによる収益力の低下などが課題となっています。

(6) 都市基盤分野

ア これまでの取組

- (ア) 東広島・呉自動車道の全線開通や休山新道の4車線化等を進めることにより、渋滞緩和や定時性の向上など、幹線道路の強化・充実に図るとともに、高速交通網へのアクセスを強化してきました。
- (イ) 基幹バスや路線バス、生活バス等の公共交通機関の運行を支援し、市民の移動手段の確保に努めました。呉駅周辺地域においては、次世代モビリティ^{*}やMaaS^{*}などの先端技術の導入を見据えながら、鉄道やバス・航路の総合交通拠点となる駅前広場の再整備を中心とした総合開発を進めています。
- (ウ) 公共インフラにおいては、緊急輸送道路等の機能強化や、河川や砂防・急傾斜、治山施設等の災害対策、道路や橋梁、トンネル、港湾施設や上下水道施設等の整備や適切な維持管理に取り組んできました。

イ 課題

- (ア) 人口が減少する中で、市街地においても人口密度の低下が懸念されています。高齢化の進行により、交通弱者が増加していますが、利用者が総体的に減少しているため、生活交通を始めとした公共交通の維持が困難になっています。
- (イ) 平成30年7月豪雨災害では、主要道路や公共交通機関が被害を受け、市民生活や経済活動に大きな影響を及ぼしました。あわせて、道路や橋梁など、老朽化する公共インフラの維持管理も課題となっています。

(7) 環境分野

ア これまでの取組

- (ア) 家庭での太陽光発電設備や家庭用燃料電池（エネファーム）^{*}導入への支援、企業によるメガソーラー^{*}級の大規模発電所の設置等に対する税制面での優遇措置を行うことにより、再生可能エネルギーの普及促進や省エネルギーの推進を図ってきました。
- (イ) 出前環境講座や自然観察会を開催し、地球温暖化やごみ、自然等の環境問題について体験的に学習する機会を提供するなど、環境教育・環境学習に取り組んできました。
- (ウ) 農道や水路など農業を行う環境を守る活動への支援や、森林経営管理制度^{*}の導入による森林の適切な管理に取り組むことにより、農村部や森林が有する、国土の保全や水源の涵養、災害防止等の多面的機能を維持し、地球環境や自然環境に配慮したまちづくりを進めてきました。廃棄物処理においては、安定的で効率的な運営を行うため、ごみ処理施設及びし尿処理施設の集約化を進めています。

イ 課題

- (ア) 呉市の温室効果ガス排出量は、平成25年度（2013年度）の5,291千トンに対して平成28年度（2016年度）は5,287千トンと、▲0.1%の削減に留まっており、中期目標である令和12年度（2030年度）までの削減目標（26%）を大きく下回っています。
- (イ) ごみの減量化については、平成16年度（2004年度）の指定ごみ袋制度（ごみの有料化）導入以降は、減少傾向にありましたが、近年はおおむね横ばいが続いており、大きな効果が期待できないことから新たな施策が必要となっています。
- (ウ) 市民や企業などが一体となった温室効果ガスの排出削減に向けた取組の推進や、家庭や職場、地域などで環境に配慮した行動ができる人材を育成するための環境教育・環境学習を充実していく必要があります。

(8) 行政経営分野

ア これまでの取組

- (ア) 呉市は平成28年（2016年）に中核市に移行し、これまで広島県が担ってきた民生や都市計画・建設などに関する事務や権限が移譲され、広島県と呉市に関連する事務が一元化されたことにより、行政サービスをより迅速に、身近に提供できるようになりました。
- (イ) 平成18年度（2006年度）からの「第2次呉市定員適正化計画」や平成25年度（2013年度）からの「呉市職員体制再構築計画」等の実施により、正規職員数の適正化や年齢構成の平準化に取り組むとともに、平成27年度（2015年度）に「呉市公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設等の更新、統廃合、長寿命化などを計画的に進めてきました。

イ 課題

- (ア) 人口減少や少子高齢化が進む中で、新たな行政需要に的確に対応していくためには、健全な財政運営や職員数の適正化、公共施設等の更新、統廃合、長寿命化などを進めていく必要があります。
- (イ) ICTが急速に進歩する中で、高速通信網が未整備の地域があり、市民生活や企業活動等に影響が出ています。

2 市民意見（意識調査）

市民の呉市に対するイメージや生活に関わる様々な分野についての意見・評価を確認するとともに、「結婚・出産・子育て」や「若者（高校生）の定住志向」に関する実態や意向などを把握し、今後の市政運営の参考とするため調査を行いました。

(1) 呉市民意識調査

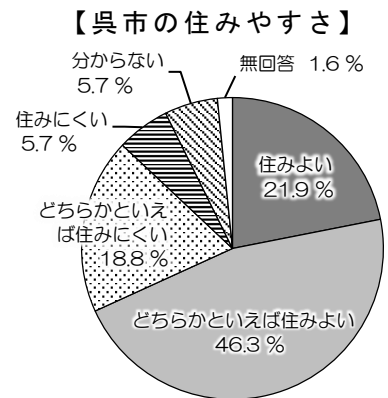
ア 調査の概要

- (ア) 調査対象 呉市に居住する満20歳以上の男女4,000人
- (イ) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (ウ) 調査実施期間 令和元年12月9日～12月27日
- (エ) 有効回収数 1,577票（回収率：39.4%）

イ 調査結果の主な概要

(ア) 呉市の住みやすさ

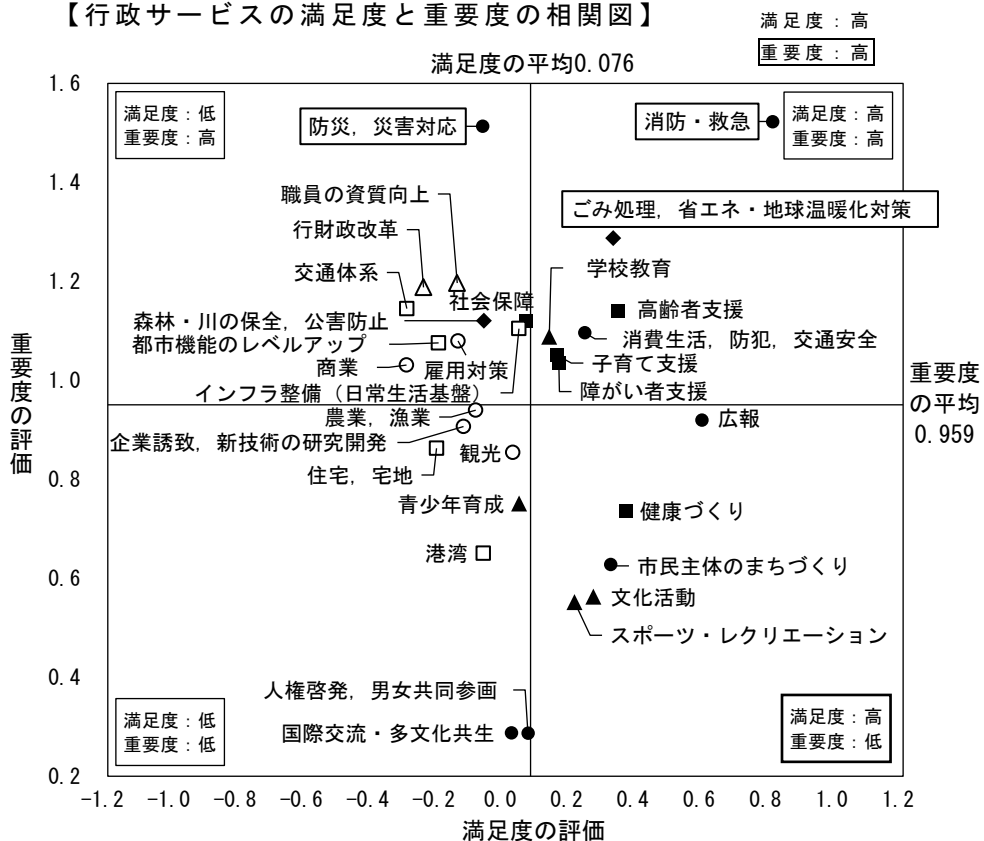
呉市を「住みよい」と感じている人は68.2%で、前回調査（69.5%）より1.3ポイント減少しています。



(イ) 市役所が提供している様々なサービスについての満足度・重要度

| 順位 | 満足度 | 重要度 |
|-----|-------|------------------|
| 第1位 | 消防・救急 | 消防・救急 |
| 第2位 | 広報 | 防災，災害対応 |
| 第3位 | 健康づくり | ごみ処理，省エネ，地球温暖化対策 |

【行政サービスの満足度と重要度の相関図】



(2) 結婚・出産・子育てに関する意識調査

ア 調査の概要

- (ア) 調査対象 呉市に居住する満18歳から満49歳までの男女2,000人
(イ) 調査方法 郵送配布・インターネットによる回答
(ウ) 調査実施期間 令和元年12月13日～令和2年1月17日
(エ) 有効回収数 434票（回収率：21.7%）

イ 調査結果の概要

(ア) 理想とする欲しい子どもの数（結婚している人）

| | | |
|---------|----------|----------|
| 1人：6.7% | 2人：48.6% | 3人：30.6% |
|---------|----------|----------|

欲しい子どもの数 2.11人

現在の子どもの数 1.70人

- ・この回答結果を基に、市民希望出生率^{*}を計算すると、1.85となっています。（国民希望出生率^{*}：1.79）

(イ) 子育てを支援するために必要な取組

| 順位 | 割合 |
|--------------------------|-------|
| 1位 保育料や教育費などの負担軽減 | 67.4% |
| 2位 医療費補助や扶養控除などの優遇措置 | 58.7% |
| 3位 長時間保育や病児保育が可能な保育施設の拡充 | 46.3% |

(ウ) 子育てと仕事の両立のために、企業に期待すること

| 順位 | 割合 |
|-------------------------------|-------|
| 1位 子どもが病気するときなどに休暇が取れる職場環境の整備 | 80.2% |
| 2位 育児休業が取得しやすい職場環境・雰囲気づくり | 51.2% |
| 3位 労働時間の短縮やフレックスタイムの導入 | 46.3% |

(3) 若者（高校生）の定住志向に関するアンケート調査

ア 調査の概要

- (ア) 調査対象 呉市内の高等学校3年生（1,532人）
- (イ) 調査方法 学校において配布・回収
- (ウ) 調査実施期間 令和元年12月～令和2年1月
- (エ) 有効回収数 1,464票（回収率：95.6%）

イ 調査結果の概要

(ア) 希望の進路

| 順位 | 全体 | 男性 | 女性 |
|--------------|-------|-------|-------|
| 1位 4年制大学 | 55.1% | 57.6% | 53.2% |
| 2位 就職 | 20.6% | 27.6% | 13.8% |
| 3位 専修学校・各種学校 | 16.7% | 11.1% | 22.2% |

- ・2位と3位は性別で異なり、女性は「専修学校・各種学校（22.2%）」が多く、男性は「就職（27.6%）」が多くなっています。

(イ) 進学を希望する地域

| 順位 | 全体 | 男性 | 女性 |
|---------------|-------|-------|-------|
| 1位 広島県内（呉市以外） | 53.2% | 49.9% | 56.4% |
| 2位 広島県以外の中国圏 | 9.2% | 12.1% | 6.8% |
| 3位 大阪圏 | 8.8% | 7.4% | 9.7% |

- ・呉市内を希望する7.2%と合わせると、広島県内を希望している人が60.4%となっています。

(ウ) 就職を希望する地域

| 順位 | 全体 | 男性 | 女性 |
|---------------|-------|-------|-------|
| 1位 呉市内 | 57.9% | 62.4% | 54.5% |
| 2位 広島県内（呉市以外） | 35.4% | 31.2% | 39.6% |
| 3位 東京圏 | 2.3% | 2.1% | 3.0% |

- ・広島県内を希望している人が93.3%となっています。

第 2 編 基本構想

第1章 将来都市像

呉市は、緑織りなす山々と滔々と流れる川、瀬戸内の穏やかな海などの豊かな自然に囲まれています。

古くから、遣唐使船の建造や、朝鮮通信使、北前船などによる大陸や日本海からの交易の地として栄え、戦前・戦中は、戦艦大和などの艦艇を建造し、航空機を開発するなど、世界最高水準の技術と人が集まる、日本一であり世界でも有数の海軍工廠を擁するまちとして発展してきました。

現在の呉市は、こうした歴史、海軍工廠の基盤と技術を生かしたものづくり産業、豊富な医療資源などを有する多様性に富んだ都市となっています。

一方、これからの呉市は、人口減少、少子高齢化が進行する中で、情報通信を始めとする様々な技術の急速な進歩や自然災害の脅威への対応とともに、新型コロナウイルス感染症を克服し「新たな日常」を構築することが求められています。さらには、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止発表に伴い、今後、地域の雇用や関連企業の経営等への極めて大きな影響が見込まれ、地域経済への対応も急務となっています。

このような転換期を迎えた今、私たちは、一人ひとりが危機感を持ちながら主役となって変化する社会や課題に正面から向き合い、柔軟に対応しながら、未来のあるべき呉市をしっかりと描き、その実現に取り組んでいきます。

私たちが描く未来の呉市は、

1 質の高い生活が実現されるスマートシティ※「くれ」

市内全域に張り巡らされた高速通信網を基盤として、先端技術を活用した新たな交通サービスや都市データプラットフォーム※などでスマート化されたまちが、コンパクトシティ※とネットワークの核である呉駅周辺から全市域に広がる形で、Society5.0が実現しています。

そこから生まれる人と人との出会いや交流、集まる情報などから、様々な分野でイノベーション※が起これり、ライフスタイルが大きく変化するなど、全国の地方都市のモデルとなり、新しい時代にふさわしい質の高い生活を楽しんでいます。

2 新たなチャレンジでビジネスチャンスを生み育てる「くれ」

多様な中小企業・小規模企業が自助努力と創意工夫を重ねて持続的に発展し、まちの財産となって呉市の産業を支えています。一方、Society5.0が実現している市内全域では、チャレンジ精神に富んだ女性や若者が創業や起業し、ICT等を活用した新たな事業が次々に生まれています。さらには、観光が基幹産業のひとつとなり、重厚長大な産業だけに頼らない強靱な産業構造が築かれています。ここでは、呉市が誇る歴史や、島、海、山などの自然の魅力が最大限に引き出されて、ニーズを重視した付加価値の高いサービスが提供され、市民の間には観光客の受入れ意

識が醸成されることと相まって、満足度が向上した観光客が呉市を繰り返し訪れ、地域内消費の循環が向上して生業と雇用が創出されています。

3 都会にはない心地よい暮らしが人々を惹きつける「くれ」

呉市の島しょ部等に、都会と変わらない通信環境が整備され、テレワーク*やワーケーション*、二地域居住*などの柔軟な働き方や暮らし方が浸透するとともに、オンラインによる行政サービス・診療・学習などがICTをフルに活用して行われています。また、スマート化による新たな農水産業が形成されるなど、働き学ぶ環境と豊かな自然がもたらす心地よい暮らしは多くの人を惹きつけ、呉市が大都市とつながって、移り住む人が増えています。

4 災害に屈しない強靱なまち「くれ」

豪雨や台風、地震などによる災害に備えて都市基盤が整備され、避難対策や市民一人ひとりの防災意識の向上を始めとして、多様な主体の協働により地域の防災力が充実するなど、災害に屈しない安全で安心なまちがつくられています。

5 SDGs*を通して豊かな未来を創る「くれ」

市民や企業などが、持続可能な未来を示すための羅針盤としてのSDGs（持続可能な開発目標）の理解を深め、その達成に向けて行動しています。

これらの未来の呉市の姿を市民や企業などと共有し、その実現に向けた取組を進めることで、豊かで安心な生活が実現し、若者、高齢者、女性、障害者、外国人など、全ての人々が住みたい、住み続けたい、行ってみたいと思う、人を惹きつける魅力的なまちを目指して、次のとおり将来都市像を定めます。

令和12年度（2030年度）末における呉市の都市像

**誰もが住み続けたい、行ってみたい、
人を惹きつけるまち「くれ」**

～イキイキと働き、豊かに安心して暮らし、ワクワク生きる～

第2章 目指すべき姿

将来都市像の実現に向けて、呉市が取り組む政策を八つの分野に分類し、それぞれの政策分野で、令和12年度（2030年度）末までに実現する「目指すべき姿」を掲げ、取組を進めていきます。

これらの取組の推進に当たっては、海軍の発展とともに世界最高水準の人や技術が集まった歴史や文化、ものづくり技術、島、海、山などの豊かな自然やその中で育まれた地域資源を生かした産業など、呉市ならではの特性と最先端のICTなどを融合させながら進めていきます。

政策分野1：子育て・教育分野

**若い世代が安心して子どもを産み育て、
未来を創る人材を育てるまち**

妊娠から出産・子育てまで、子ども一人ひとりの状況に応じた切れ目のない支援とともに、市民・地域・企業などが一体となって、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます。

また、幼稚園や保育所、家庭や地域社会における学びを通して、就学前の子どもの健康な心と体や、未来を創り出す力、小学校につながる教育の基礎を培い、全ての子どもの健やかな育ちを支えます。

学校教育においては、呉市が全国の先陣を切って取り組んできた小中一貫教育を基盤として、子どもたちが自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら、自ら学び、育つことで、チャレンジ精神を持ちながら自らの意思と力で生き方を選択し、新たな価値を創造することができる人材となるための教育を実施します。

また、支援を必要とする児童・生徒はもとより、全ての子どもたちが、安全・安心に学ぶことができる教育環境を整えます。

これらにより、若い世代が安心して子どもを産み育て、未来を創る人材を育てるまちを実現します。

政策分野 2 : 福祉保健分野

誰もが、住み慣れた地域で 健やかに安心して暮らし続けることができるまち

市民が主体となる健康づくりや高齢者のフレイル^{*}予防、さらには呉市が全国モデルとなった、健診・医療情報等の分析により抽出された健康課題に対して、効果的な保健事業を提供するデータヘルスなどを推進して、市民の健康寿命の延伸を図ります。あわせて、呉市の恵まれた医療資源を生かし、地域の医療関係者と連携して、新たな感染症への対策を含めて効率的な医療提供体制を確保していくことにより、市民の命と暮らしを守ります。

一方で、年齢や障害の有無にかかわらず、心身の状態に応じたケアを提供し、自分らしい暮らしを送ることができるよう、全ての市民が共に支え合いながら、自らの意思で社会活動に参加できる地域づくりを進めていきます。

これらにより、誰もが生涯にわたり、住み慣れた地域で心身ともに健やかに安心して暮らし続けることができるまちを実現します。

政策分野 3 : 市民生活・防災分野

多様な主体が協働し、
誰もが安心して笑顔で暮らせるまち

市民や公益活動団体、企業、地域外から様々な形で関わる「関係人口[※]」などの多様な人々がそれぞれの役割を分担しながら協働し、自主的で自立したまちづくりを進めます。また、性別、国籍にかかわらず、お互いの存在を理解して尊重しながら、全ての市民が安心して暮らし、活躍することができる地域社会を形成していきます。

過去の災害の教訓を継承しつつ、市民と地域や企業が一体となって防災意識を高め、地域の防災力を向上させます。さらに、地域や企業、ボランティア団体等が、それぞれの立場で防災・減災に向けた役割を担っていきます。また、迅速で的確な消防・救急体制を維持・確保していきます。

これらにより、市民を始めとする地域社会を構成する多様な主体が協働し、誰もが安心して笑顔で暮らすことができるまちを実現します。

政策分野 4 : 文化・スポーツ・生涯学習分野

文化芸術やスポーツに親しみ、 生涯を通じて学ぶことができるまち

多くの市民が、音楽や美術などの文化芸術に触れる機会を創出するとともに、地域の中で育まれた文化財や伝統文化等を後世に伝えていく取組を支援することにより、魅力ある文化芸術があふれるまちづくりを進めていきます。

スポーツ分野においては、一人ひとりのニーズやライフステージに応じて、誰もが趣味や健康づくりなどの目的をもって、スポーツに親しむことができる機会を創出していきます。あわせて、全国規模の大会などで活躍することができる選手が育つ環境を整えるなど、競技スポーツの振興を進めていきます。

また、子どもから大人まで、市民一人ひとりが自らの学ぶ意欲を満たし、あらゆる機会にあらゆる場所で学び、生き生きと活動できる環境を整えていきます。

これらにより、誰もが文化芸術やスポーツに親しむことができ、また、生涯を通じて学ぶことができるまちを実現します。

政策分野5：産業分野

誰もがチャレンジでき、 時代を先取る産業を創造できるまち

女性や若者を始めとして、新たなチャレンジをする個人や、自助努力と創意工夫あふれる中小企業・小規模企業を、市民の理解のもとに社会全体で応援することで、夢の実現に向けて人が集まり、イキイキと働くことができる、にぎわいあふれるまちづくりを進めていきます。その中で、旧海軍工廠で培われた技術や誇りを基礎とする「ものづくり」の企業を始めとした中小企業などの人材の確保や研究開発、販路拡大、事業転換、事業承継などを支援していきます。あわせて、企業誘致などをさらに進め、新型コロナウイルスによる社会の変化を踏まえた取組のひとつとして、サテライトオフィス^{*}やテレワーク、ワーケーションなど、新しい生活様式に対応した働き方を推進することにより、東京などの大都市から人を呼び込み、地域経済の持続的な発展につなげていきます。

また、朝鮮通信使との交流や北前船、鎮守府などの多様な歴史と瀬戸内の美しい景観などの魅力を体感してもらうことなど、観光客のニーズを重視した、付加価値が高く、継続的に質が向上するサービスが提供されることで、観光客が繰り返し訪れたいまちをつくっていきます。これにより、生業と雇用を生み出し、観光を新たな基幹産業のひとつとしていきます。

農水産業では、国内有数の生産量を誇るレモン・牡蠣等の農水産物のブランド化^{*}の推進や先端技術の活用により、若い世代や移住者を呼び込むことができるような、高い付加価値を生み出す農水産業を育成していきます。

これらにより、女性や若者など、誰もがチャレンジでき、時代を先取る産業が創造できるまちを実現します。

政策分野 6 : 都市基盤分野

誰もが安全・安心で快適に暮らせる持続可能なまち

商業・医療等の施設や住宅が集積するコンパクトなまちづくりを推進し、歩いて暮らすことができる「まちなか」を形成するとともに、様々な公共空間を使って、にぎわいを創出できる環境づくりを進めていきます。

また、公共交通体系の再編を進め、持続可能な公共交通ネットワークを形成するとともに、自動運転やMaaSなどのスマートモビリティ^{*}の取組を、国道、鉄道駅、港といった複数の交通モードが集積した呉駅周辺地域から市内全域に拡大していきます。あわせて、市民や高等教育機関、企業等が連携してまちづくりの課題解決に取り組む拠点を中心として、これらの主体が能動的に役割を担うまちづくりを推進することにより、世界が憧れる魅力的なまちをつくっていきます。

公共インフラにおいては、災害時の避難・救援活動などでも重要な役割を担う幹線道路や生活道路、港湾施設のほか、上下水道施設などの強靱化と効率的な維持管理を進めていきます。あわせて、防災対策として、地震対策や治水・土砂災害対策、高潮対策等のハード整備に取り組みます。

これらにより、災害時でも人命が最大限保護されるとともに、社会の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持される強靱な都市基盤を備え、誰もが安全・安心で快適に暮らすことができ、企業の立地も促進されて、将来にわたり持続可能なまちを実現します。

豊かな環境を次の世代につなぐまち

瀬戸内の美しい海や山に囲まれ、多様な生物が生息する自然と豊富な農水産物などを育む、健全で恵み豊かな環境を未来の子どもたちへ引き継ぐため、市民や企業が一体となって、地球温暖化対策と、温暖化によって生じる気候変動への適応や生物多様性の保全に取り組んでいきます。

また、市民が安全で快適に暮らせるよう、大気、水質、土壌などの地域環境の保全に取り組んでいきます。

あわせて、廃棄物等の発生の抑制、循環資源の循環的な利用などにより、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が低減された循環型社会の形成を企業等と一体となって進めるとともに、安定的で効率的な廃棄物処理に取り組んでいきます。

さらには、子どもも大人も学べる環境教育の実施などにより、環境問題に関心を持ち自主的に取り組む人材を育成していきます。

これらにより、呉市の豊かな環境を、次の世代につないでいくまちを実現します。

市民の視点に立った効率的な市政を運営するまち

健全な財政運営や組織の見直し、定員の適正化、公共施設の適正配置等により、市民のニーズに的確に対応できる市政運営に取り組むとともに、市民に開かれた透明性の高い市政を実現していきます。

また、先端技術を活用したスマートシティの推進により、全ての市民がスマート化による質の高い生活を享受できるよう、その基盤となる高速通信網を市内全域に整備し、地域が抱えている課題の解決や新たな事業の創出、民間のイノベーションの誘発等を促進するとともに、行政事務のデジタル化・オンライン化を進め、行政サービスと市民生活の質の向上を図ります。

あわせて、通勤、通学、買い物など生活面で密接につながっている広島都市圏を構成する都市として、また、広島中央地域連携中枢都市圏^{*}の中心都市として、圏域の持続的な発展や地域の活性化を進めていきます。

これらにより、多様化する市民のニーズに対し、市民の視点に立ち、効率的に市政を運営できるまちを実現します。

第3章 土地利用の方針

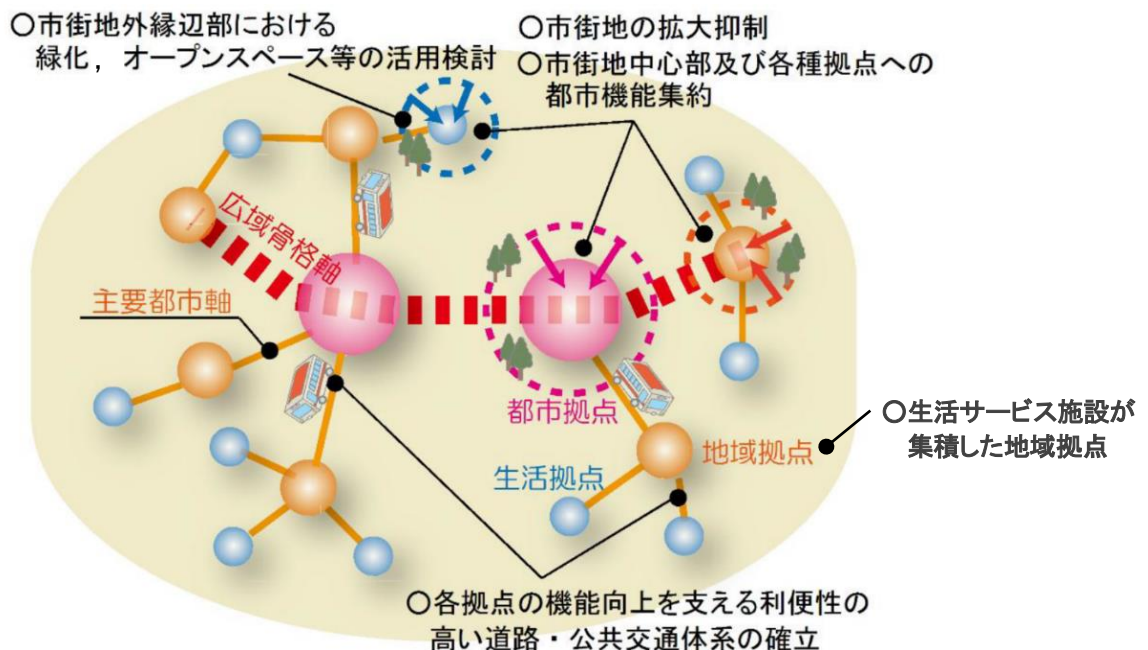
1 基本的な考え方

人口減少下においても，まちを持続させていくため，市内各所にいくつかの拠点を設け，それらの拠点にその地域の実情に応じた機能の集約を図りながら，拠点間を結ぶネットワークを整備します。これにより，それぞれが持つ機能を補完・連携させる「コンパクト+ネットワーク※」の都市構造を構築し，地域がつながり，にぎわい，住み続けられる，コンパクトで持続可能なまちを目指していきます。

2 基本方針

内陸部・沿岸部・島しょ部の多様な地理的条件の下で，誰もが便利で快適に暮らせるまちを実現するため，広域サービスを提供する行政施設，高次医療施設等の都市機能が集約された都市拠点と，まちの規模に応じた商業や医療・福祉等の生活サービス施設が集積した地域拠点や生活拠点を形成します。これらの各拠点間が道路・公共交通・情報通信などで連結された「コンパクト+ネットワーク」による都市構造を構築します。

【コンパクト+ネットワークを基本とする都市構造の概念図】



なお，より具体的な方針等については，呉市都市計画マスタープランにおいて示します。

【用語解説】

<あ行>

| | |
|---------|--|
| I o T | アイ・オー・ティー。Internet of Things（モノのインターネット）の略。自動車，家電，ロボット，施設などあらゆるモノがインターネットにつながり，情報のやり取りをすることで，モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し，新たな付加価値を生み出すというコンセプトを表した語 |
| I C T | アイ・シー・ティー。Information & Communications Technology（情報通信技術）の略。「I T（情報技術）」がハードウェアやソフトウェア，インフラなどコンピュータ関連技術そのものを意味するのに対し，「I C T」は，通信によりコンピュータ関連技術を応用・活用することに重きを置いた語 |
| イノベーション | これまでの発想や手法にとらわれることなく，新しいアイデアでモノや情報，仕組みなどを組み合わせることにより，新たな価値を創造していくこと |
| A I | エー・アイ。Artificial Intelligence（人工知能）の略。人工的な方法による学習，推論，判断等の知的な機能の実現及び人工的な方法により実現した当該機能の活用に関する技術 |
| S D G s | エス・ディー・ジーズ。Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された2030年までの国際目標 |

<か行>

| | |
|-----------------|--|
| 家庭用燃料電池（エネファーム） | 都市ガス・L Pガスから取り出した水素と，空気中の酸素を化学反応させて電気と熱を発生させるシステム |
| 関係人口 | 継続的な関心や交流などを通じて，特定の地域に多様な形で関わる人 |
| 合計特殊出生率 | 15歳から49歳までの女性の年齢別出生率の合計で，一人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均を指す。 |
| 国民希望出生率 | 結婚・出産・子育てに関する国民の希望が叶うとした場合に想定される出生率 |
| 子育て世代包括支援センター | 妊産婦及び乳幼児の実情を把握し，地域の特性に応じて，妊娠・出産・子育てに関する各種相談や健康の保持・増進に関する包括的な支援を行う場所。呉市では，すこやかセンターくれ内に「えがお」を設置している。 |
| コンパクトシティ | 公共交通にアクセスしやすい場所に，居住機能，医療・福祉等の生活サービス機能等を集積させる都市施策 |

| | |
|------------------|--|
| コンパクト＋ネット ワーク | 地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進める取組 |
|------------------|--|

<さ行>

| | |
|------------|---|
| サテライトオフィス | 企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィス |
| 次世代モビリティ | A I 技術等を活用した自動運転、通信機能等を備えた移動手段 |
| 市民希望出生率 | 市民の結婚・出産に関する希望を実現した場合の出生率。結婚・出産・子育てに関する意識調査（令和元年度実施）を基に算出 |
| 市民公益活動 | 市民及び事業者が、自主的かつ自発的に行う営利を目的としない活動で、社会や地域の人たちのために行う支援や社会貢献などの活動 |
| 森林経営管理制度 | 所有者に経営管理の意思がなく、かつ市が必要と判断した森林を対象に、市が主体となり所有者の同意に基づき経営管理権を集積し、林業に適した森林は林業経営者へ再委託、林業経営に適さない森林は市が直接管理を行う制度 |
| スマートシティ | 都市や地域が抱える様々な課題に対して、A I などの新技術を活用して計画、整備、管理・運営等のマネジメントが行われた持続可能な都市・地区 |
| スマートモビリティ | 利用者がより安全で便利に利用できるよう、A I などの新技術を活用することにより生まれる新たな交通サービス。自動運転やデマンド交通（予約型の運行サービス）などのほか、貨客混載やM a a S など、様々なサービスとの連携・融合を図るサービスの総称 |
| 世界の記憶 | 世界的に重要な記録物への認識を高め、保存やアクセスを促進することを目的としてユネスコ（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization：国際連合教育科学文化機関）が認定するもの |
| Society5.0 | ソサエティ5.0。「第5期科学技術基本計画」（平成28年1月22日閣議決定）において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱された、狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）を指す。 |

<た行>

| | |
|----------|---|
| 地域おこし協力隊 | 一定期間、地域に居住し、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組 |
|----------|---|

| | |
|---------------|---|
| 地域子育て支援拠点 | 乳幼児がいる子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みの相談、助言や援助を受けられる場所 |
| 地域包括ケアシステム | 医療、介護、予防、住まい、生活支援などのサービスが継続的・一体的に提供され、住み慣れた地域で安心した生活を送ることができる地域の支援体制 |
| 地域包括支援センター | 市内8か所に設置され、社会福祉士・保健師・主任介護支援専門員などの専門職員が在宅介護や高齢者福祉などのあらゆる相談に、保健・医療・福祉の面から総合的に応じ、支援を行っている。 |
| 中1ギャップ | 小学校6年生から中学校1年生に進学した際に、新しい環境での学習や生活にうまく適応できないこと |
| データヘルス | 健康・医療情報等を分析・活用して行う効果的かつ効率的な保健事業 |
| テレワーク | I C Tを利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方 |
| 都市データプラットフォーム | 多様な主体の垣根を越えて、公共や民間等の様々なデータを分野横断的に連携し、新たな価値やサービスを創出するためのシステム上の共通の土台 |

<な行>

| | |
|-------|--|
| 二地域居住 | 都市部と地方部にふたつの拠点をもち、定期的に地方部でのんびり過ごしたり、仕事をしたりするライフスタイル |
| 日本遺産 | 地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定し、国内外への魅力発信や地域活性化を図ることを目的とするもの |

<は行>

| | |
|---------------|---|
| 広島中央地域連携中核都市圏 | 呉市、竹原市、東広島市、江田島市、海田町、熊野町、坂町及び大崎上島町の4市4町で形成。「住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域社会の実現」を目指し、市町が連携し取組を推進している。 |
| ファシリティマネジメント | 企業、団体等が、組織活動のためにその施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動。土地、建物、設備などの資産を、全体最適化により最大限活用する経営活動をいう。 |
| ブランド化 | 特定の商品やサービスを、他のものと区別し、顧客や消費者にとっての価値を高め、品質を保証すること |
| フレイル | 高齢者の筋力や活動が低下している状態 |

<ま行>

| | |
|---------|---|
| M a a S | マース。Mobility as a Serviceの略。出発地から目的地まで、利用者にとっての最適経路を提示するとともに、複数の交通手段やその他のサービスを含め、予約や決済などを一括して提供するサービス |
|---------|---|

| | |
|------------|--|
| まちづくりサポーター | 地域コミュニティの自立経営を推進するため、市内各地区まちづくり委員会・協議会や各種地域コミュニティの活動支援を行う者 |
| 名目GDP | 実際に市場で取り引きされている価格に基づいて推計された付加価値の合計 |
| メガソーラー | 1,000kW以上の出力を持つ大規模太陽光発電 |

<や行>

| | |
|------------|---|
| ゆめづくり地域交付金 | 地域住民等が主体的に地域課題を解決するために行う活動を支援し、住民自治及び市民協働によるまちづくりを推進することを目的として交付する補助金 |
| やぶ | 鬼の面を被って、しめ縄を背負い、竹の棒を持つ神様の道案内と警護役で、呉のお祭りには欠かせない存在（出典：亀山神社ホームページ） |

<ら行>

| | |
|---------|---------------------------------|
| リノベーション | 建物が持つ元々の性能以上に新たな付加価値を付けて再生させること |
|---------|---------------------------------|

<わ行>

| | |
|---------|--|
| ワーケーション | 仕事（Work）と休暇（Vacation）を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、普段の職場や居住地から離れ、リゾート地などの地域で普段の仕事を継続しながら、その地域ならではの活動も行うもの |
|---------|--|

パブリックコメント結果の報告

第5次呉市長期総合計画（案）のうち「第1編 序論」及び「第2編 基本構想」部分の策定に当たり、令和2年10月1日（木）から令和2年10月30日（金）まで（30日間）意見募集を行い、4人の方から30件の意見が提出されました。

| 意見の内容 | 市の考え方 |
|--|---|
| 第1編 序論 | |
| <p>本総合計画に包含されている旧軍港市転換法と国土強靱化基本法等により政策の一部は達成が可能</p> | <p>「旧軍港市転換法」に基づく旧軍港市転換計画と「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」に基づく国土強靱化地域計画を包含した本総合計画を着実に推進することで、基本構想に掲げる将来都市像の実現を目指します。</p> |
| 第2編 基本構想 | |
| 第1章 将来都市像 | |
| <p>日本製鉄瀬戸内製鉄所呉地区が撤退した後の用地を払い下げて貰い、企業誘致を進めこれからの時代に向けて水素工場・物流関係・大型旅客船等を受け入れられるような工業団地の開発が可能となり明るい展望が開けるのではないか。</p> | <p>日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区が休止した場合の跡地の活用については、地域経済にとって大変重要であると認識しています。頂いた御意見は、今後の施策の取組を進める上で参考にさせていただきます。</p> |
| <p>日本製鉄瀬戸内製鉄所呉地区撤退後について構想が何ら説明されていないのはなぜか。総合計画に組み込まれていないことは計画期間も決まっていないうことになり具体的な事業にならないのではと推察するがいかがか。</p> | <p>日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止発表に関する影響や認識については、「第1編序論 第3章呉市を取り巻く環境 3 経済の動向 (2) 呉市の動向 (13 ページ)」及び「第2編 基本構想 第1章将来都市像 (28 ページ)」に記載しています。</p> <p>なお、基本構想では、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止発表の影響も含め、本市が抱える様々な課題の解決に向けて取り組む政策を示しています。</p> |
| <p>製造業出荷額の中で食品製造分野は著しく低く数パーセント以下となっている。これを改善する方策として、例えば、日新跡地に植物工場や柑橘類加工団地を誘致する。</p> | <p>「第2編 基本構想 第1章 将来都市像 (28 ページ)」の、私たちが描く未来の呉市の中で、地域経済を活性化させていくためには、鉄鋼業をはじめとした重厚長大な産業だけに頼らない多様性のある産業構造を築くことを記載しています。なお、日本製鉄株式会社瀬戸内製</p> |

| | |
|---|--|
| | <p>鉄所呉地区が休止した場合の跡地の活用については、地域経済にとって大変重要であると認識しています。頂いた御意見は、今後の施策の取組を進める上で参考にさせていただきます。</p> |
| <p>呉駅前旧そごう跡地の取得のために補正予算 2 億数千万円を計上して議会で可決されている件についての構想が何ら説明されていないのはなぜか。</p> | <p>基本構想は令和 1 2 年度末における呉市の「将来都市像」と、その実現に向けて 1 0 年間で取り組む「目指すべき姿」を政策分野ごとに示すものであるため、個別の案件である旧そごう呉店跡地の具体的な活用については示していません。</p> <p>なお、本件については、「総合交通結^{にぎ}節点の形成」, 「賑わいとまちなか居住を推進する複合施設の整備」など、将来ビジョンやロードマップを盛り込んだ「呉駅周辺地域総合開発基本計画」を、令和 2 年 4 月に策定・公表しています。</p> |
| <p>青山町の元自衛隊集会所青山クラブを購入した件についての構想が何ら説明されていないのはなぜか。呉軍港の日本遺産の関連として修復するべきなのに何ら手を打っていない。放置したままでは老朽化が進み莫大な予算を掛けることになる。構想があって購入したのではないか。</p> | <p>基本構想は令和 1 2 年度末における呉市の「将来都市像」と、その実現に向けて 1 0 年間で取り組む「目指すべき姿」を政策分野ごとに示すものであるため、個別の案件である青山クラブ等の具体的な活用については示していません。</p> <p>青山クラブ等につきましては、幸町エリアにおける、にぎわい創出拠点として活用することを目的に国から購入しましたが、活用については、今後の社会経済情勢や呉駅周辺地域総合開発の進捗、大和ミュージアムのリニューアルの検討状況を見ながら、慎重に検討する必要があると考えています。</p> |
| <p>第 2 章 目指すべき姿</p> | |
| <p>「政策分野 1 子育て・教育分野」では子育ての一步として企業に保育施設の設置を協力してもらおう。</p> | <p>企業が設置運営等に関わる保育施設については、市が認可した事業所内保育事業と認可外の企業主導型保育事業があります。</p> <p>呉市では「第 2 期呉市子ども・子育て支援事業計画」において、既存の認可施設のみで対応できない場合、事業所内保育事業等の認可事業の活用を進めることとしています。また、企業主導型保育施設については、多様な働き方に柔軟に応</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>じるための施設として、公益財団法人児童育成協会が実施する審査について、市として推薦や情報提供等の協力をしており、今後も保育の質の向上につながる必要な指導、助言を行っていきます。</p> |
| <p>教育では学校教育の充実を促進し目の行き届いた教育を目指す。小中一貫教育はやめる。校区内での小中校の連携で中1ギャップは解消できる。両城小・港町小・両城中の連携で既に実績がある。一貫教育で小中廃校により地域の衰退が進み過疎化となる。</p> | <p>小学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すことを目的としており（学校教育法第29条）、中学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すことを目的としています（学校教育法第45条）。これらの目的を達成する上で、小中一貫教育は有効な手段であると考えています。呉市では、小中連携にとどまらず、全ての中学校区で、義務教育9年間で目指す子どもの姿や教育方針を設定して取り組む小中一貫教育を進めることで、中1ギャップの解消などの成果を上げてきたと捉えています。また、小中学校の統廃合は、教育環境の整備のために行うものです。地域から学校がなくなることによる地域への影響については、関係課が連携し、呉市として地域振興に取り組んでいきます。</p> |
| <p>「政策分野4文化・スポーツ・生涯学習」では若者の都市離れしない対策としてスケートボード・自転車等の競技施設の設置で若者に夢を与える事も必要</p> | <p>スポーツは若者に夢を与えることができるものであると認識しています。頂いた御意見は、前期基本計画を策定する中で検討していきます。</p> |
| <p>「政策分野5産業分野」では序論で述べているように企業誘致をしっかりとやることではないか。就職を希望する地域では1位が呉市内、2位が広島県内となっている。地元で就職出来ることが呉市の発展につながるはずである。</p> | <p>企業誘致により雇用を確保することは、呉市の発展にとって重要であると認識し、これまでも誘致活動に取り組んできました。頂いた御意見は、今後の施策の取組を進める上で参考にさせていただきます。</p> |
| <p>「政策分野6都市基盤分野」ではコンパクトなまちづくりを推進しようとしているが、中央部に住んでいる市民は影響が少ないかもしれないが、高所部に住んでいる市民は、今住んでいる</p> | <p>人口減少の中にあっても、地域に必要な生活サービス施設や地域コミュニティが維持・確保されるよう、コンパクトなまちづくりの推進が必要と考えています。立地適正化計画は、安全で利便性が</p> |

| | |
|--|--|
| <p>住居を解体して中央部に移ることは出来ない。中央部に移るには解体費・固定資産税等の費用が掛かり過ぎる。高所部の住民の理解は得られない。高所部の住民（高齢者）のために良い知恵を出してほしい。</p> | <p>高い区域に時間をかけて、居住等を誘導していく計画ですが、区域外にお住まいの方々が、建替等を契機に、区域内への住み替えを選択肢として検討いただけるよう、区域内の利便性の向上等を図るとともに、住み替え等への支援についても、今後、検討していきます。</p> |
| <p>公共インフラでは災害時の停電・断水が発生しない都市を目指してほしい。</p> | <p>災害時に断水が発生しないよう、水道施設の改築更新に合わせて施設の強靱化を計画的に進めているところです。災害時のライフラインの機能の確保については、電気・ガス等のライフライン事業者と協力し、取り組んでいきます。</p> |
| <p>土砂災害や川の氾濫が起こらないためにも国土強靱化法にのっとり、森林管理だけでなく山林管理を含めた防災対策を講じていただきたい。</p> | <p>適切な森林管理については、森林環境譲与税を活用した森林整備等に取り組んでいます。治山事業については、広島県に対して事業の促進を要望するとともに、呉市において小規模崩壊地復旧事業を推進しているところです。今後もこれらの取組を実施し、防災・減災に向けて取り組んでいきます。</p> |
| <p>防災用として色々なハザードマップが発行されているが、ハザードマップを見て避難してくれと言う前に危険箇所をなくしていくことが本来の防災であるべき姿であるはず。 災害の起こらないまちづくりをしてください。災害弱者にならないためにも国土強靱化の推進をしてください。</p> | <p>国土強靱化を推進する上で、危険箇所の解消は着実に進めていかなければならない事業であると認識しています。なお、ハード対策には、多くの時間と費用を必要とすることから、ハード対策に加え、ハザードマップにより危険な場所を周知することなどのソフト対策を組み合わせ、防災対策を進めているところです。</p> |
| <p>教育分野で小中校のトイレを和式から洋式にするようご検討をお願いします。時代にマッチしていない。</p> | <p>小中学校トイレの洋式化については、子どもたちにとって快適な教育環境を実現するための一環として、整備を進めています。今後も洋式化率の向上に向けて取り組んでいきます。</p> |
| <p>その他</p> | |
| <p>空き家の多い居住地を再開発。例えば、自家用車でアクセスできない不便を解消するため、等高線帯状に幹線道路を設けて狭隘^{あい}道路を解消する。</p> | <p>空き家問題の解消に向け、危険な空き家の除却や空き家の利活用促進のため移住希望者住宅取得の支援にも取り組んでいます。また、住民の利便性向上や防災面からも、既存の狭隘道路の拡幅に向けた取組を進めており、これらの取組を実</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>施することで、より良い住環境の整備を推進していきます。</p> |
| <p>第4次呉市長期総合計画では、令和2年度末の目標人口を23万人としていたが、人口減少は続き、ここ数年の人口減少は毎年約3千人にもなり、その目標は達成できない状況にある。この状況をどのように捉え、目標を下回った原因をどう分析しているのか、ご教示願いたい。</p> | <p>平成23年に策定した「第4次呉市長期総合計画」では、令和2年度末の人口を23万人に設定し、さらには平成27年度以降、若年層の定着を目指して「呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、各種の取組を実施してきました。しかし、日本の人口減少・少子高齢化は進展しており、呉市においても人口減少は避けられない状況であると捉えています。こうしたことから、令和2年度末における目標達成は難しい状況となっており、その大きな要因を、次の2点と分析しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出生数の減少（自然減） 若者の結婚や出産に対する意識の変化（未婚・晩婚化）や若年層の人口減少 2 転出超過（社会減） 都市部（東京都・広島市など）への仕事を理由とする転出や近隣都市（広島市・東広島市など）への住宅事情・婚姻を理由とする転出 |
| <p>第5次呉市長期総合計画では、呉市を誰もが住み続けたいまちとするため、八つの政策分野で取組を進めることになっており、その将来都市像実現のためには、目標人口の設定が必要と思うが、令和12年度末の目標人口は、定めないのであるか。</p> <p>目標人口（あるいはそれに代わるもの）を基本計画等の中で定めるのであれば、どの程度の人口を想定しているのか、伺いたい。</p> | <p>第5次呉市長期総合計画では、目標人口は設定しない予定です。</p> <p>前期基本計画の中で、まち・ひと・しごと創生総合戦略と人口ビジョンも一体的に策定する方向で検討を進めており、その人口ビジョンの中で、将来の呉市の人口を展望することとしています。</p> <p>将来人口推計については、今後、前期基本計画の中でお示しする予定としています。</p> |
| <p>2030年までの計画で、2060年までの人口予測より30年人口予想。呉市人口減少問題は、日本の人口増加時代も急減。</p> | <p>呉市の人口予測については、国の人口ビジョンを踏まえ、今後基本計画とともに策定していく人口ビジョンにおいてお示しする予定です。</p> |
| <p>産業構造問題、二地域居住は無理難題。都市があまりに遠方。神戸大阪。東京。</p> | <p>二地域居住は、多様なライフスタイルを実現するための手段の一つとして注目されており、呉市においても、広島市など近隣の都市との二地域居住や東京との</p> |

| | |
|---|--|
| | <p>二地域居住をしながら、呉市でゲストハウスを運営している方などの事例があります。</p> |
| <p>呉市の温室効果ガス排出量の中期目標 2013 年比 26 パーセント減は達成可能。日本製鉄瀬戸内製鉄所呉が撤退。休止ではない。</p> <p>市役所等の公共建物における CO₂ 削減計画が記載されていない。</p> | <p>呉市の温室効果ガス排出量は、平成 25 年度と比較して平成 28 年度は 0.1 % の削減に留まっています。</p> <p>CO₂ 削減に向けた市役所の取組については、「呉市地球温暖化対策実行計画 事務事業編（くれエコアクションプラン）」を策定し、令和 4 年度を目標年度として取組を進めています。</p> <p>これまでも「呉市環境基本計画」を策定し、削減に向けた取組を進めておりますが、引き続き、目標達成に取り組んでいきます。</p> |
| <p>過疎地の交通手段は。生活バスも空気運送模様。</p> | <p>地域の特性や移動ニーズに応じて、公共交通サービスの見直しを進め、地域によっては新たな交通モードへの転換も図りながら、市民の移動手段の確保に取り組んでいきます。</p> |
| <p>水産業の効率化ならびブランド化。牡蠣の養殖は日本一。他は。陸上でも海の魚が養殖できる時代。休耕田などの活用。空き家対策と共に、休耕田などの対策を。</p> | <p>品質や付加価値の向上による水産物のブランド化等を推進するとともに、AI や I o t 等の先端技術を活用したスマート水産業や養殖漁業に取り組むなど経営の多角化を支援します。</p> <p>農地については、休耕田にならないよう、担い手の確保や有害鳥獣対策等を推進するとともに、休耕田については、農地集積による農地再生や農村環境の保全に取り組んでいきます。</p> |
| <p>中心市街地も空洞化。駐車場開発ばかり増加。新産業は何処に。</p> <p>CORONA で在宅勤務が主になる首都と呉市は産業構造が違う。</p> <p>新産業は大勢の人を活用しない産業が中心となるかも。高度人材。</p> | <p>誰もが安心して住み続けられる魅力あふれるまちを実現するため、呉市立地適正化計画に基づき、市民の暮らしを支える都市機能と居住機能の誘導等により、一定の人口密度を維持していくとともに、呉駅周辺地域総合開発を推進しているところです。</p> <p>本基本構想では、テレワークやワーケーションなど働き方や生活様式に対する社会の変化にも対応したサテライトオフィスなどの誘致にも取り組むこととし、重厚長大な産業だけに頼らない多様性の</p> |

| | |
|---|---|
| | ある産業構造を築いていくことを目指しています。 |
| <p>幼保からの教育が必要。ならび社会人の再教育。高度人材教育</p> | <p>幼稚園や保育所，家庭や地域社会における学びを通じて，就学前の子どもの健全な心と体や，未来を創り出す力，小学校につながる教育の基礎を培っていくこととしています。</p> <p>基本構想では，生涯学習について，市民一人ひとりが自ら学ぶ意欲を満たし，あらゆる機会にあらゆる場所で学び，生き生きと活動できる環境を整えることで，生涯を通じて学ぶことができるまちを実現することとしています。</p> <p>なお，新たな知識や技能，教養が取得できる大学などで行われるリカレント教育の促進については，前期基本計画を策定する中で検討していきます。</p> |
| <p>市役所における事務の合理化。DXの導入など。活用できる人材。</p> | <p>行政手続きのデジタル化などによるスマート自治体への転換を進め，市民サービスの向上と併せて内部事務の効率化を図るとともに，スマート自治体に適応した職員の技能育成と，市民のニーズに的確に対応した市政運営に取り組んでいきます。</p> |
| <p>呉市阿賀マリノポリス等の計画倒れにならないように。工業団地新設予定より，広大な空き地が誕生。公害急減。対策。</p> | <p>阿賀マリノポリスへの企業誘致・留置を積極的に進め，地域経済の活性化と雇用の創出を図ります。</p> <p>なお，日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区が休止した場合の跡地の活用については，地域経済にとって大変重要であると認識しています。</p> |
| <p>警固屋地区は，高潮対策が必要な個所が数か所。対策を。警固屋支所ならび渡船付近。大正橋や鍋棧橋付近。</p> <p>危険個所は急傾斜地ばかりではない。</p> | <p>高潮対策が必要な海岸は数多くあることから，広島県では平成16年の台風18号で大きな被害を受けた天応地区の護岸改修を優先して進めています。</p> <p>警固屋地区の要望箇所は高潮ハザードマップでも浸水区域となっていることから，海岸の整備計画への位置づけなど県と協議していきます。</p> |
| <p>呉市で小学校中学校の統廃合がさらに進むと思うが廃校の対策は。いつまでも，旧鍋小学校の雑草や清掃対応は</p> | <p>旧鍋小学校は跡地の活用方針が決定するまでの期間，暫定的な地元利用のため，警固屋地区社会福祉協議会に維持管</p> |

| | |
|--|--|
| <p>無理難題。</p> <p>警固屋には大きな巨大な空き建物ならび不潔なプールがあります。廃校になった旧鍋小学校。とても危険な危険建物になるようです。</p> | <p>理（草刈りを含む。）を条件に無償貸付をしています。また、建物等についても市職員による安全点検を実施するなど、適正な管理に努めています。</p> |
| <p>音戸の瀬戸公園は野犬とイノシシが活躍。観光客が危険。熊は出没しないので安心です。</p> | <p>公園を安全に利用できるよう、適切な維持管理と有害鳥獣対策等に引き続き取り組んでいきます。</p> |

第5次吳市長期総合計画

(第3編 前期基本計画)

素案

吳 市

第5次呉市長期総合計画（第3編 前期基本計画）素案

目次

第3編 前期基本計画

第1章 人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略

| | |
|-------------------|----|
| 1 人口ビジョン | 2 |
| 2 まち・ひと・しごと創生総合戦略 | 13 |

第2章 前期基本計画

| | |
|------------------|----|
| 政策体系図 | 16 |
| 1 施策推進のための横断的な視点 | 18 |
| 2 基本政策 | |
| 基本政策の構成 | 19 |

【政策分野1：子育て・教育分野】

| | |
|------------------|----|
| 1 妊娠・出産・子育て支援の充実 | 20 |
| 2 学校教育の充実 | 23 |

【政策分野2：福祉保健分野】

| | |
|------------|----|
| 1 健康づくりの推進 | 26 |
| 2 高齢者福祉の推進 | 29 |
| 3 障害者福祉の推進 | 32 |
| 4 生活困窮者の支援 | 36 |

【政策分野3：市民生活・防災分野】

| | |
|-------------------|----|
| 1 市民協働と多文化共生の推進 | 37 |
| 2 安全・安心な生活の確保 | 40 |
| 3 人権尊重と男女共同参画の推進 | 43 |
| 4 防災・減災に向けた体制の強化 | 45 |
| 5 消防・救急機能の強化 | 47 |
| 6 国内外との多様な交流機会の充実 | 48 |

【政策分野4：文化・スポーツ・生涯学習分野】

| | |
|-----------|----|
| 1 文化の振興 | 50 |
| 2 スポーツの振興 | 52 |
| 3 生涯学習の推進 | 55 |

【政策分野 5：産業分野】

| | | |
|---|--------------------|----|
| 1 | 地域産業の発展・チャレンジ環境の整備 | 57 |
| 2 | 企業誘致・雇用環境の整備 | 60 |
| 3 | 観光の振興 | 63 |
| 4 | 農水産業の振興 | 65 |

【政策分野 6：都市基盤分野】

| | | |
|---|---------------------|----|
| 1 | 安心して住み続けられるまちづくりの推進 | 69 |
| 2 | 移動しやすい交通環境の形成 | 71 |
| 3 | 道路の整備 | 73 |
| 4 | 河川，砂防・急傾斜，高潮対策の推進 | 76 |
| 5 | 公園・にぎわい空間の創出 | 78 |
| 6 | 港湾機能の充実・魅力向上 | 80 |
| 7 | 上下水道の整備 | 82 |

【政策分野 7：環境分野】

| | | |
|---|----------|----|
| 1 | 環境の保全 | 84 |
| 2 | 循環型社会の形成 | 87 |

【政策分野 8：行政経営分野】

| | | |
|---|-------------|----|
| 1 | 情報化の推進 | 89 |
| 2 | 行財政改革の推進 | 91 |
| 3 | 職員・組織の活性化 | 94 |
| 4 | 都市間交流・連携の推進 | 96 |

第 3 編 前期基本計画

第1章 人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略

1 人口ビジョン

(1) 位置付けと対象期間

ア 位置付け

国は、少子高齢化・人口減少に対応し、将来にわたって活力ある社会を維持していくため、平成26年(2014年)11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、同年12月に人口の現状と将来の人口目標等の展望を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」(以下「長期ビジョン」という。)を策定しました。また、令和元年(2019年)12月には、策定から約5年が経過したことから長期ビジョンを改訂しました。

呉市においても、平成28年(2016年)3月に策定した「呉市人口ビジョン」を、直近の動向を踏まえて改訂するものです。

イ 対象期間

国の長期ビジョンの趣旨等を踏まえ、令和27年(2045年)までとします。

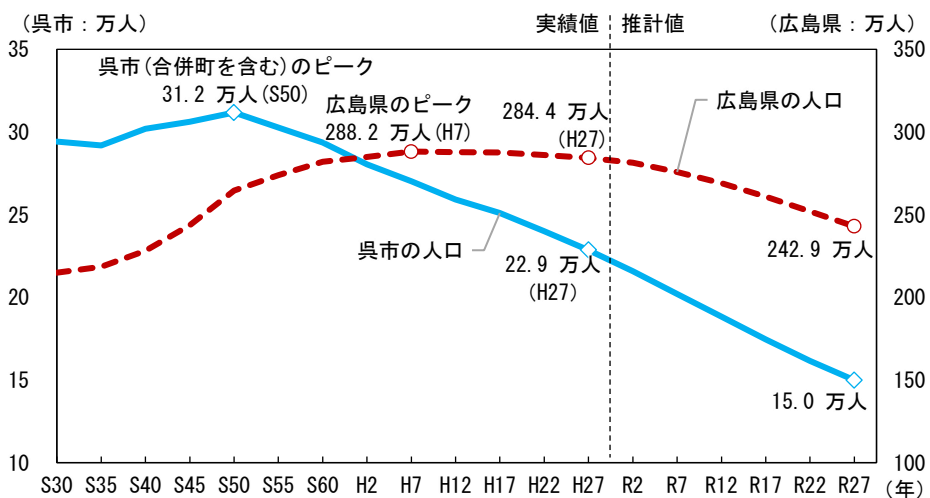
(2) 人口動向等の現状分析

ア 人口推移

呉市(旧合併町を含む)の総人口は、昭和50年(1975年)の約31.2万人をピークに減少へ転じており、人口のピークは国の平成20年(2008年)や広島県の平成7年(1995年)と比べて、早い時期に人口減少への転換期を迎えています。

平成27年(2015年)には約22.9万人となっていますが、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の「日本の地域別将来推計人口(平成30年(2018年)推計)」によると、今後も減少傾向は続き、令和27年(2045年)には、約15.0万人まで減少すると見込まれています。

図表3-1 広島県人口及び呉市人口の推移と見通し



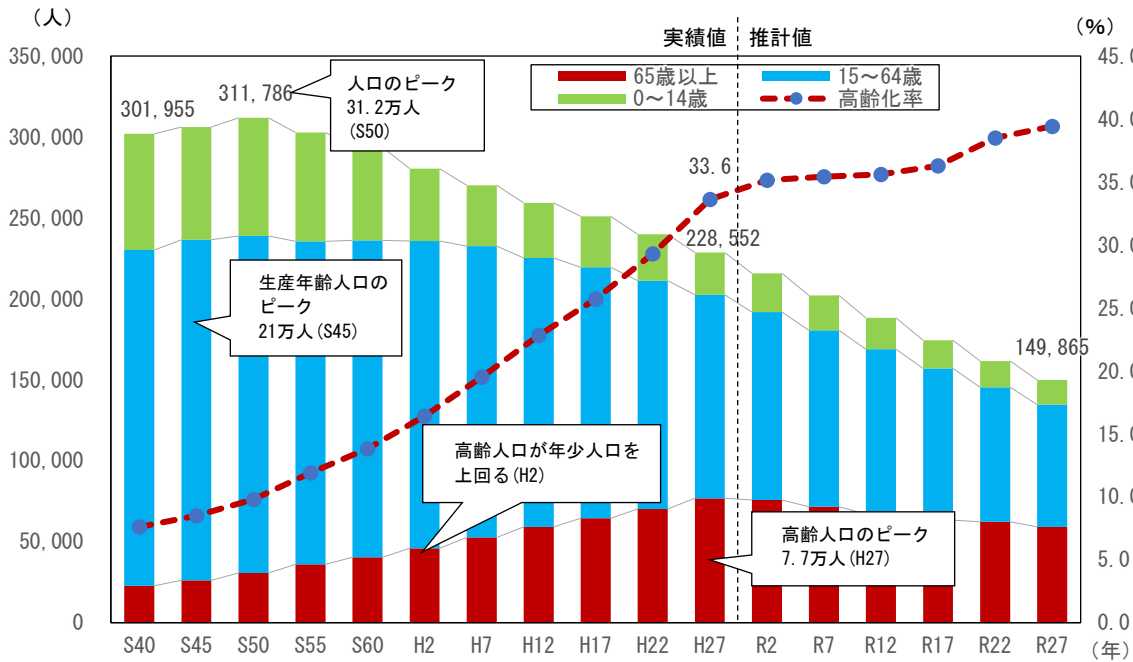
※平成27年(2015年)以前は、総務省統計局『国勢調査』(各年10月1日)、令和2年(2020年)以降は、社人研『日本の地域別将来推計人口(平成30年(2018年)推計)』

イ 年齢3区分別人口の推移

生産年齢人口（15～64歳）は、昭和45年（1970年）の約21万人をピークに減少に転じ、平成27年（2015年）には、約12.6万人まで減少しています。

また、平成2年（1990年）に高齢人口（65歳以上）が年少人口（14歳以下）を上回って以降、その傾向は続き、高齢人口は、平成27年（2015年）時点で約7.7万人となり、社人研の推計によると、令和2年（2020年）以降は減少に転じることが見込まれていますが、高齢化率は平成27年（2015年）時点で33.6%となっており、その後も上昇すると見込まれています。

図表 3-2 年齢3区分別人口推計と将来推計



(単位：人，%)

| 区分 | S40 (1965) | S45 (1970) | S50 (1975) | S55 (1980) | S60 (1985) | H2 (1990) | H7 (1995) | H12 (2000) | H17 (2005) | H22 (2010) | H27 (2015) | R2 (2020) | R7 (2025) | R12 (2030) | R17 (2035) | R22 (2040) | R27 (2045) |
|--------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|
| 年少人口 (0～14歳) | 71,668 23.7 | 69,718 22.8 | 72,956 23.4 | 67,168 22.2 | 57,538 19.6 | 44,638 15.9 | 37,684 13.9 | 34,066 13.1 | 31,559 12.6 | 28,670 11.9 | 25,977 11.4 | 23,802 11.0 | 21,375 10.6 | 19,269 10.2 | 17,558 10.1 | 16,370 10.1 | 15,181 10.1 |
| 生産年齢人口 (15～64歳) | 207,492 68.7 | 210,382 68.7 | 208,155 66.8 | 199,602 65.9 | 195,598 66.6 | 189,897 67.7 | 179,892 66.6 | 165,957 64.0 | 154,999 61.8 | 141,038 58.8 | 125,743 55.0 | 116,096 53.8 | 109,096 54.0 | 101,932 54.2 | 93,651 53.7 | 83,052 51.4 | 75,605 50.4 |
| 高齢人口 (65歳以上) | 22,795 7.5 | 26,122 8.5 | 30,675 9.8 | 35,996 11.9 | 40,448 13.8 | 45,894 16.4 | 52,603 19.5 | 59,201 22.8 | 64,445 25.7 | 70,265 29.3 | 76,832 33.6 | 75,785 35.1 | 71,566 35.4 | 66,979 35.6 | 63,319 36.3 | 62,226 38.5 | 59,079 39.4 |
| 合計 | 301,955 | 306,222 | 311,786 | 302,766 | 293,584 | 280,429 | 270,179 | 259,224 | 251,003 | 239,973 | 228,552 | 215,683 | 202,037 | 188,180 | 174,528 | 161,648 | 149,865 |

※平成27年（2015年）以前は、総務省統計局『国勢調査』（各年10月1日），令和2年（2020年）以降は、社人研『日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018年）推計）』

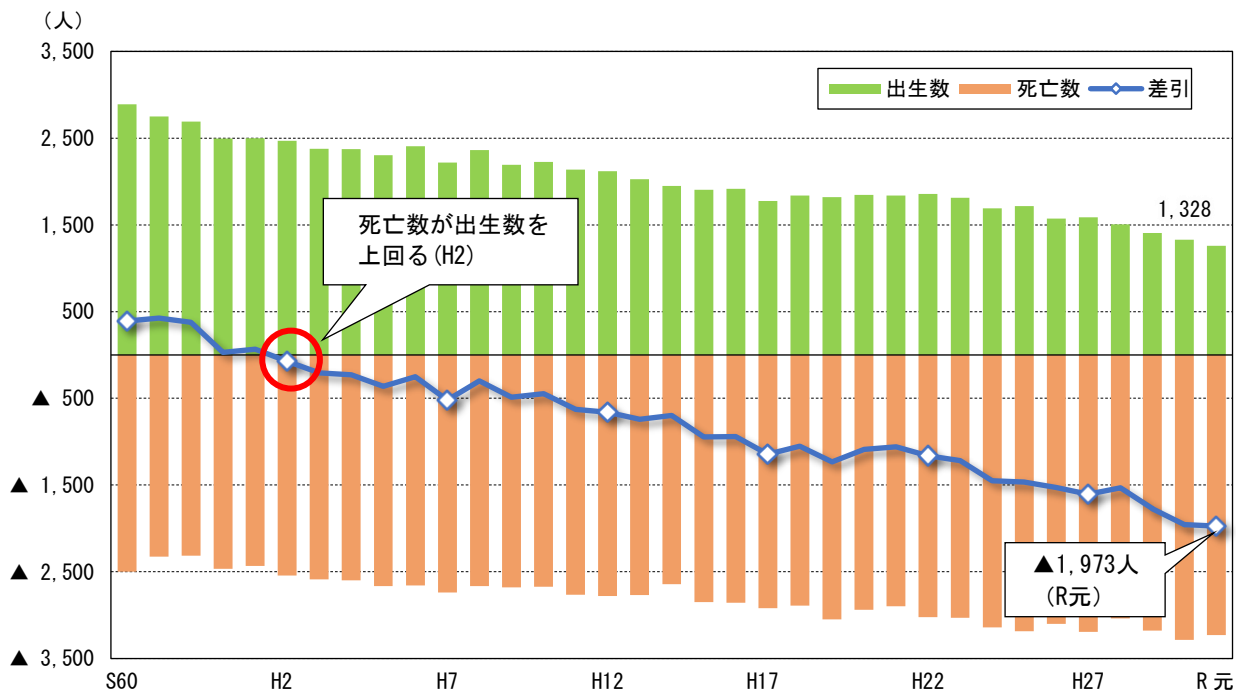
※平成27年（2015年）以前は、総人口と各年齢区分の合計を一致させるため、年齢不詳者を各年齢区分により按分し集計

※年齢三区分の構成比（下段）は小数点第二位で四捨五入しているため、合計が100.0にならない場合がある（以下構成比については同様）。

ウ 自然動態の推移

昭和 60 年（1985 年）以降の自然動態を見ると、減少傾向が続く出生数に対して、高齢化を背景とした死亡数の増加は続き、平成 2 年（1990 年）には、死亡数が出生数を上回る「自然減」の時代に入り、その後自然減で推移するとともに、減少数は拡大傾向にあります。

図表 3-3 自然動態と出生・死亡者の推移



(単位：人)

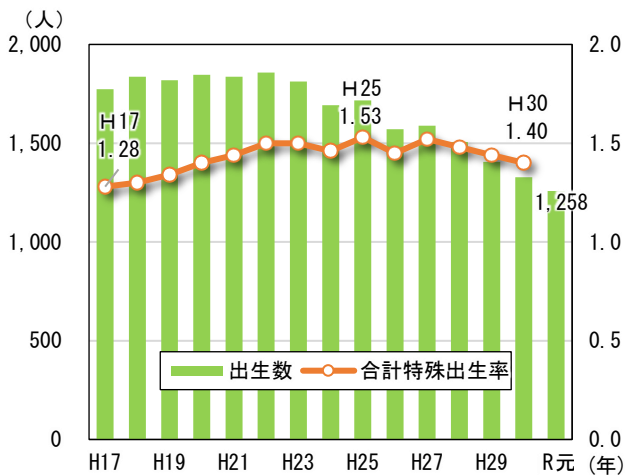
| | S60 (1985) | H2 (1990) | H7 (1995) | H12 (2000) | H17 (2005) | H22 (2010) | H27 (2015) | R元 (2019) |
|-----|---------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 出生数 | 2,891 | 2,469 | 2,218 | 2,120 | 1,774 | 1,858 | 1,588 | 1,258 |
| 死亡数 | 2,500 | 2,544 | 2,739 | 2,780 | 2,919 | 3,021 | 3,192 | 3,231 |
| 差引 | 391 | ▲ 75 | ▲ 521 | ▲ 660 | ▲ 1,145 | ▲ 1,163 | ▲ 1,604 | ▲ 1,973 |

※厚生労働省『人口動態調査』

また、呉市の合計特殊出生率（以下「出生率」という。）は、近年、若干の変化はあるものの、ほぼ横ばいで推移し、平成30年（2018年）は1.40となっていますが、出生数は、減少傾向が続いており、令和元年（2019年）は、1,258人と近年最も少なくなっています。

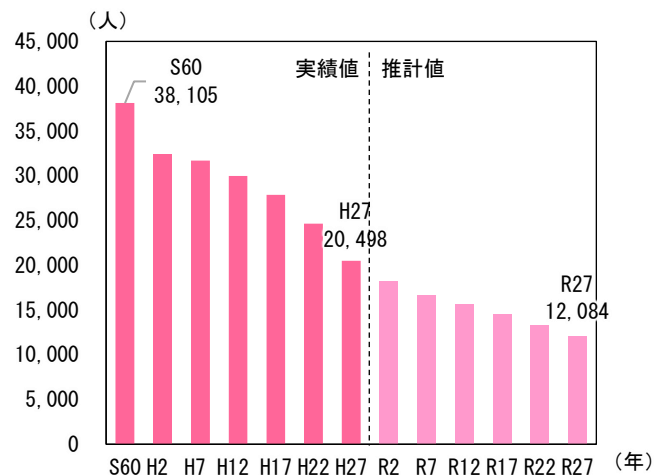
これは、「20～39歳」の女性人口（以下「若年女性人口」という。）の減少が影響していることに加えて、平成27年国勢調査によると、呉市における若年層（20～39歳）の未婚率は52%と、2人に1人は未婚であり、生涯未婚率も男性26%、女性15%と晩婚化、未婚化が進行していることも出生数減少の要因と考えられます。

図表 3-4 合計特殊出生率と出生数の推移



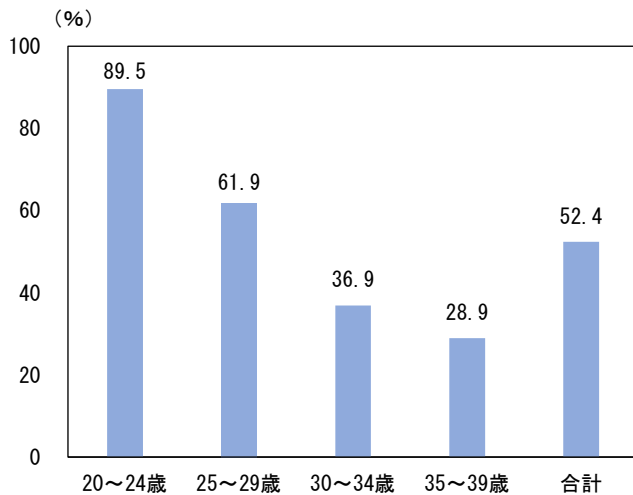
※厚生労働省『人口動態調査』、『呉市人口動態統計』

図表 3-5 若年女性人口の推移と推計



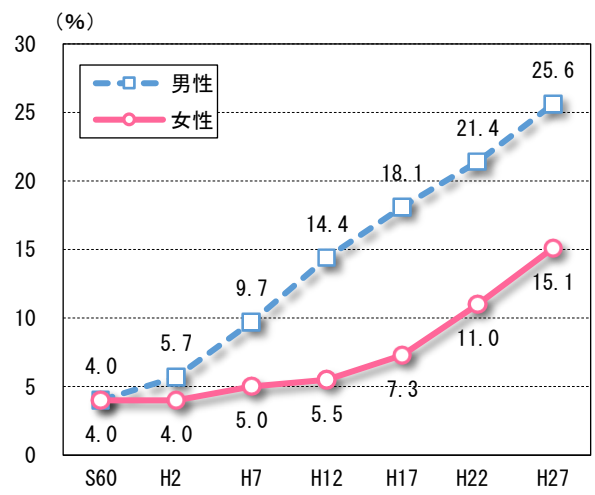
※S60年～H27年までは、総務省統計局『国勢調査』（各年10月1日）、R2年以降は、社人研『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』
 ※平成17年以前の人口は、合併町についても呉市に合算している。

図表 3-6 年齢別未婚率（20～39歳）



※総務省『平成27年国勢調査』を基に算出。合計は20～39歳までの未婚率

図表 3-7 生涯未婚率の推移

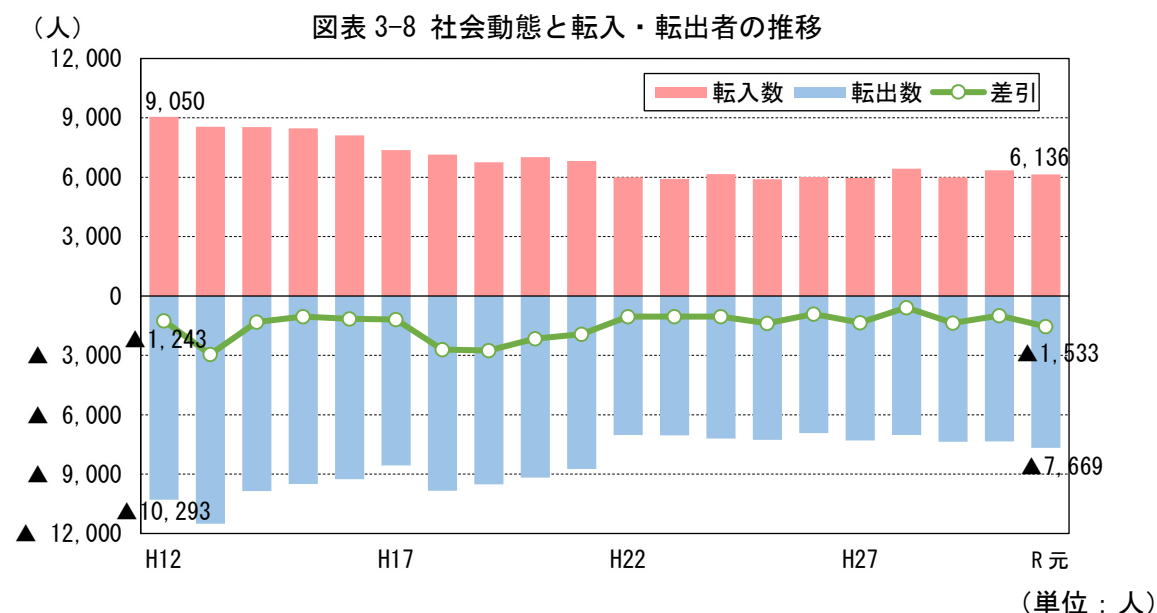


※総務省『平成27年国勢調査』を基に算出。45～49歳と50～54歳未婚率の平均であり、50歳時の未婚率

エ 社会動態の推移

平成12年（2000年）以降の社会動態を見ると、転入数、転出数ともに減少傾向にある中で、常に転出数が転入数を上回っており、令和元年（2019年）は1,533人の「社会減」となっています。

転出超過先となっている都市を見ると、広島市、東広島市、東京都特別区で全体の42%を占めています。



| | H12 (2000) | H17 (2005) | H22 (2010) | H27 (2015) | H28 (2016) | H29 (2017) | H30 (2018) | R元 (2019) |
|-----|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 転入数 | 9,050 | 7,367 | 5,996 | 5,960 | 6,441 | 5,996 | 6,358 | 6,136 |
| 転出数 | 10,293 | 8,556 | 7,031 | 7,305 | 7,025 | 7,357 | 7,349 | 7,669 |
| 差引 | ▲1,243 | ▲1,189 | ▲1,035 | ▲1,345 | ▲584 | ▲1,361 | ▲991 | ▲1,533 |

※総務省『住民基本台帳人口移動報告』

図表 3-9 転入超過先と転出超過先（上位10地区）

(単位：人)

| 転入超過先 | | 転出超過先 | |
|--------|-----|--------|------|
| 江田島市 | 256 | 広島市 | ▲569 |
| 出雲市 | 35 | 東広島市 | ▲191 |
| 福山市 | 34 | 東京都特別区 | ▲190 |
| 尾道市 | 27 | 横浜市 | ▲79 |
| 山陽小野田市 | 21 | 下関市 | ▲56 |
| 藤沢市 | 17 | 府中町 | ▲45 |
| 下松市 | 17 | 大阪市 | ▲44 |
| 米子市 | 14 | 坂町 | ▲43 |
| 柳井市 | 12 | 横須賀市 | ▲41 |
| 新居浜市 | 12 | 神戸市 | ▲37 |

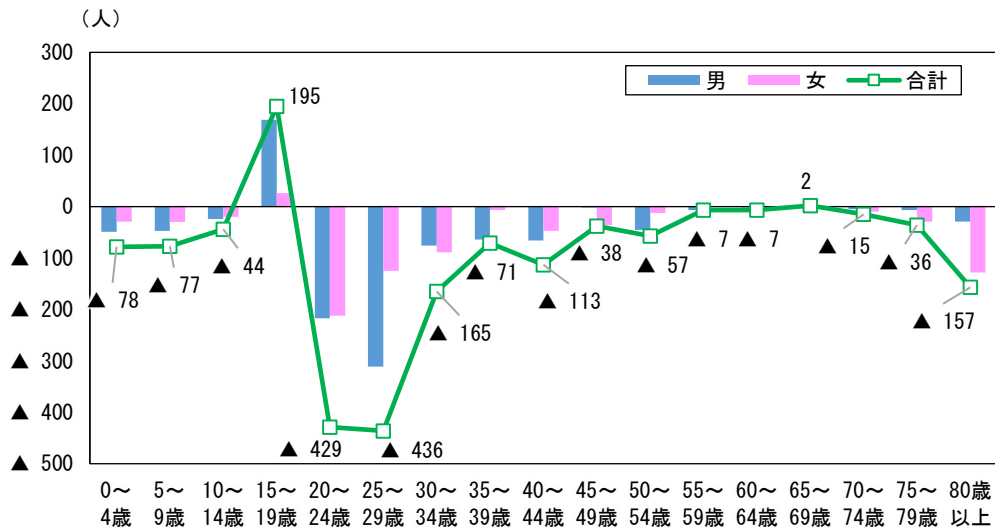
全体 の 42%

※総務省『住民基本台帳人口移動報告』（平成31年・令和元年）

年齢別の転出入の超過状況を見ると、20歳から29歳までの転出超過が顕著であり、また、10歳未満も転出超過となっていることから、子育て世代の転出も要因になっているものと推測されます。

転出超過が多い広島市、東広島市、東京都特別区は、男女ともに20～29歳の転出が多くなっています。

図表 3-10 年齢別転出入人口移動



※総務省『住民基本台帳人口移動報告』（平成31年・令和元年）

図表 3-11 年齢別転出超過先上位3地区

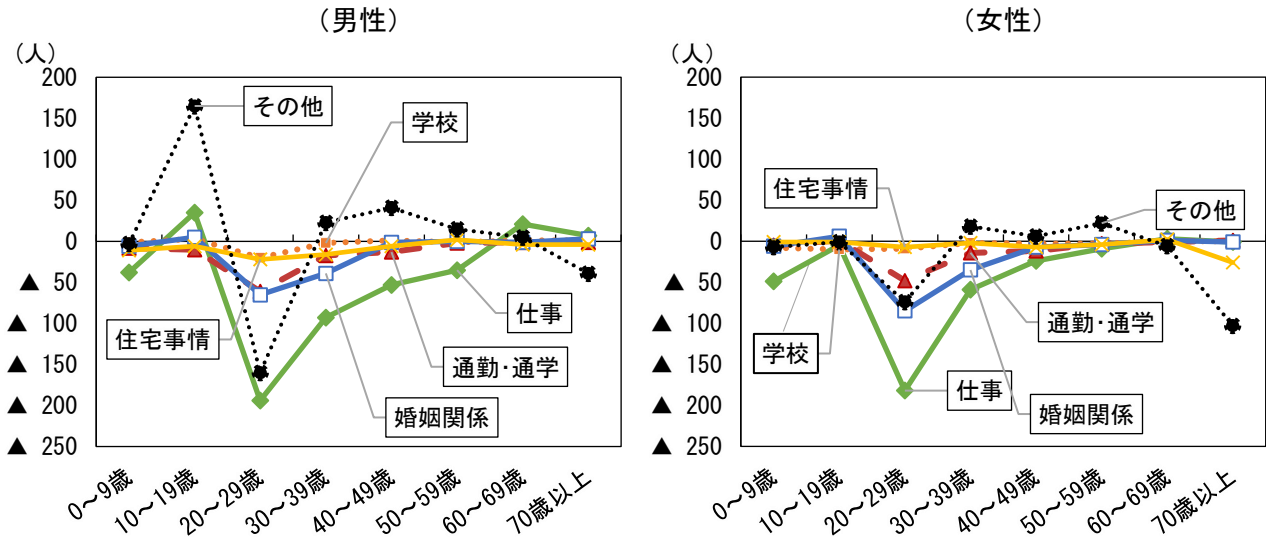
(単位：人)

| | 広島市 | | | 東広島市 | | | 東京都特別区 | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 |
| 総数 | ▲ 569 | ▲ 271 | ▲ 298 | ▲ 191 | ▲ 119 | ▲ 72 | ▲ 190 | ▲ 100 | ▲ 90 |
| 0～9歳 | ▲ 31 | ▲ 18 | ▲ 13 | 2 | 2 | 0 | ▲ 10 | ▲ 7 | ▲ 3 |
| 10～19歳 | ▲ 7 | ▲ 1 | ▲ 6 | 3 | ▲ 2 | 5 | ▲ 17 | ▲ 11 | ▲ 6 |
| 20～29歳 | ▲ 295 | ▲ 161 | ▲ 134 | ▲ 100 | ▲ 64 | ▲ 36 | ▲ 109 | ▲ 62 | ▲ 47 |
| 30～39歳 | ▲ 66 | ▲ 48 | ▲ 18 | ▲ 30 | ▲ 23 | ▲ 7 | ▲ 26 | ▲ 10 | ▲ 16 |
| 40～49歳 | ▲ 48 | ▲ 15 | ▲ 33 | ▲ 29 | ▲ 14 | ▲ 15 | ▲ 20 | ▲ 8 | ▲ 12 |
| 50～59歳 | ▲ 14 | ▲ 12 | ▲ 2 | ▲ 3 | ▲ 3 | 0 | ▲ 1 | 1 | ▲ 2 |
| 60歳以上 | ▲ 108 | ▲ 16 | ▲ 92 | ▲ 34 | ▲ 15 | ▲ 19 | ▲ 7 | ▲ 3 | ▲ 4 |

※総務省『住民基本台帳人口移動報告』（平成31年・令和元年）

性別・年齢別・理由別に令和元年度（2019年度）の転出超過状況を見ると、20歳から39歳までの男女で「仕事」を理由とする転出が顕著となっています。また、「婚姻関係」や「通勤・通学」を理由とする転出超過も多くなっています。

図表 3-12 性別・年齢別・理由別転出超過状況（令和元年度（2019年度））



(単位：人)

| | 男性 | | | | | | 女性 | | | | | |
|--------|------|-----|-------|------|------|------|------|-----|-------|------|------|------|
| | 仕事 | 学校 | 通勤・通学 | 婚姻関係 | 住宅事情 | その他 | 仕事 | 学校 | 通勤・通学 | 婚姻関係 | 住宅事情 | その他 |
| 総数 | ▲350 | ▲18 | ▲113 | ▲104 | ▲67 | 47 | ▲326 | ▲35 | ▲81 | ▲131 | ▲46 | ▲145 |
| 0～9歳 | ▲38 | ▲1 | ▲8 | ▲6 | ▲11 | ▲3 | ▲49 | ▲8 | ▲5 | ▲6 | ▲1 | ▲7 |
| 10～19歳 | 35 | 3 | ▲10 | 5 | ▲6 | 165 | ▲5 | ▲10 | 1 | 6 | ▲1 | ▲1 |
| 20～29歳 | ▲194 | ▲20 | ▲61 | ▲65 | ▲22 | ▲160 | ▲182 | ▲9 | ▲48 | ▲85 | ▲7 | ▲74 |
| 30～39歳 | ▲93 | ▲2 | ▲17 | ▲39 | ▲16 | 23 | ▲59 | ▲2 | ▲14 | ▲35 | ▲2 | 18 |
| 40～49歳 | ▲53 | 1 | ▲13 | ▲1 | ▲6 | 41 | ▲24 | ▲3 | ▲12 | ▲7 | ▲7 | 6 |
| 50～59歳 | ▲35 | ▲1 | ▲2 | 0 | 2 | 15 | ▲9 | ▲3 | ▲3 | ▲4 | ▲4 | 22 |
| 60～69歳 | 21 | 1 | ▲1 | ▲1 | ▲4 | 5 | 3 | 0 | ▲1 | 1 | 2 | ▲6 |
| 70歳以上 | 7 | 1 | ▲1 | 3 | ▲4 | ▲39 | ▲1 | 0 | 1 | ▲1 | ▲26 | ▲103 |

※令和元年度広島県「人口移動アンケート調査（呉市分）」を呉市において集計

※その他には未回答を含む

(3) 産業構造の分析

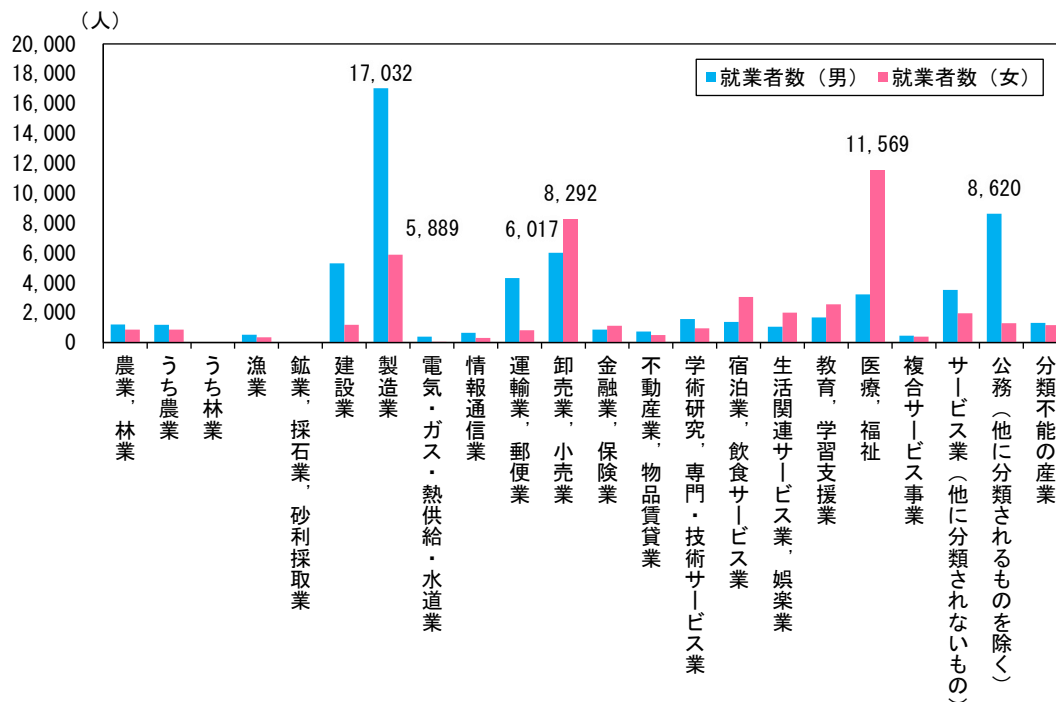
ア 産業別人口の状況

呉市における産業大分類別就業者数は、多い順に「製造業」22,921人、「医療、福祉」14,799人、「卸売業、小売業」14,309人となっています。

男性では、「製造業」17,032人、「公務（他に分類されるものを除く）」8,620人、「卸売業、小売業」6,017人の順になっています。

女性では、「医療、福祉」11,569人、「卸売業、小売業」8,292人、「製造業」5,889人の順になっています。

図表 3-13 男女別産業大分類別就業者数



(単位：人)

| | 総数 | 農業、林業 | うち農業 | うち林業 | 漁業 | 鉱業、採石業、砂利採取業 |
|---------|---------|------------|-------------------|------------------|---------------|--------------|
| 総数（男女計） | 104,257 | 2,064 | 2,049 | 15 | 876 | 38 |
| 就業者数（男） | 59,892 | 1,200 | 1,190 | 10 | 519 | 32 |
| 就業者数（女） | 44,365 | 864 | 859 | 5 | 357 | 6 |
| | 建設業 | 製造業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業、郵便業 | 卸売業、小売業 |
| 総数（男女計） | 6,484 | 22,921 | 445 | 953 | 5,148 | 14,309 |
| 就業者数（男） | 5,296 | 17,032 | 393 | 653 | 4,327 | 6,017 |
| 就業者数（女） | 1,188 | 5,889 | 52 | 300 | 821 | 8,292 |
| | 金融業、保険業 | 不動産業、物品賃貸業 | 学術研究、専門・技術サービス業 | 宿泊業、飲食サービス業 | 生活関連サービス業、娯楽業 | 教育、学習支援業 |
| 総数（男女計） | 1,981 | 1,253 | 2,528 | 4,434 | 3,057 | 4,247 |
| 就業者数（男） | 855 | 744 | 1,567 | 1,373 | 1,056 | 1,688 |
| 就業者数（女） | 1,126 | 509 | 961 | 3,061 | 2,001 | 2,559 |
| | 医療、福祉 | 複合サービス事業 | サービス業（他に分類されないもの） | 公務（他に分類されるものを除く） | 分類不能の産業 | |
| 総数（男女計） | 14,799 | 853 | 5,484 | 9,910 | 2,473 | |
| 就業者数（男） | 3,230 | 455 | 3,523 | 8,620 | 1,312 | |
| 就業者数（女） | 11,569 | 398 | 1,961 | 1,290 | 1,161 | |

※総務省『平成27年国勢調査』

(4) 将来人口の推計

ア 将来人口の推計方法

人口動向等の現状分析や市民アンケート調査結果等^{*}を踏まえた上で、長期総合計画に掲げる施策が一定の効果を発揮することを想定し、将来の人口を展望します。

市民アンケート調査結果における市民の希望

○高校生の市内での就職（就職を希望する人のうち 58%が希望）

○結婚したいと思う人（結婚していない人のうち 69%が希望）

○理想とする子どもの数（2.11 人）

○呉市への愛着（愛着を感じる人 79%）

○呉市に住み続けたいという希望（今の居住地に住み続けたいと思う人 64%）

※「呉市民意識調査（令和元年度）」、「『結婚・出産・子育て』に関する意識調査（令和元年度）」、「呉市・若者（高校生）の定住志向に関するアンケート調査（令和元年度）」

推計方法

○合計特殊出生率に関する設定

令和 2 年（2020 年）は、直近の実績値である平成 30 年（2018 年）の 1.40 とし、令和 12 年（2030 年）に呉市民希望出生率 1.85、令和 22 年（2040 年）には、人口置換水準 2.07 に達し、その後は人口置換水準が維持されるものとします。

○移動率に関する設定

社人研推計に加え、20～30 歳代の移動率が 15%改善されるものとします。

(注) 市民希望出生率とは

○ 市民の結婚・出産に関する希望を実現した場合の出生率

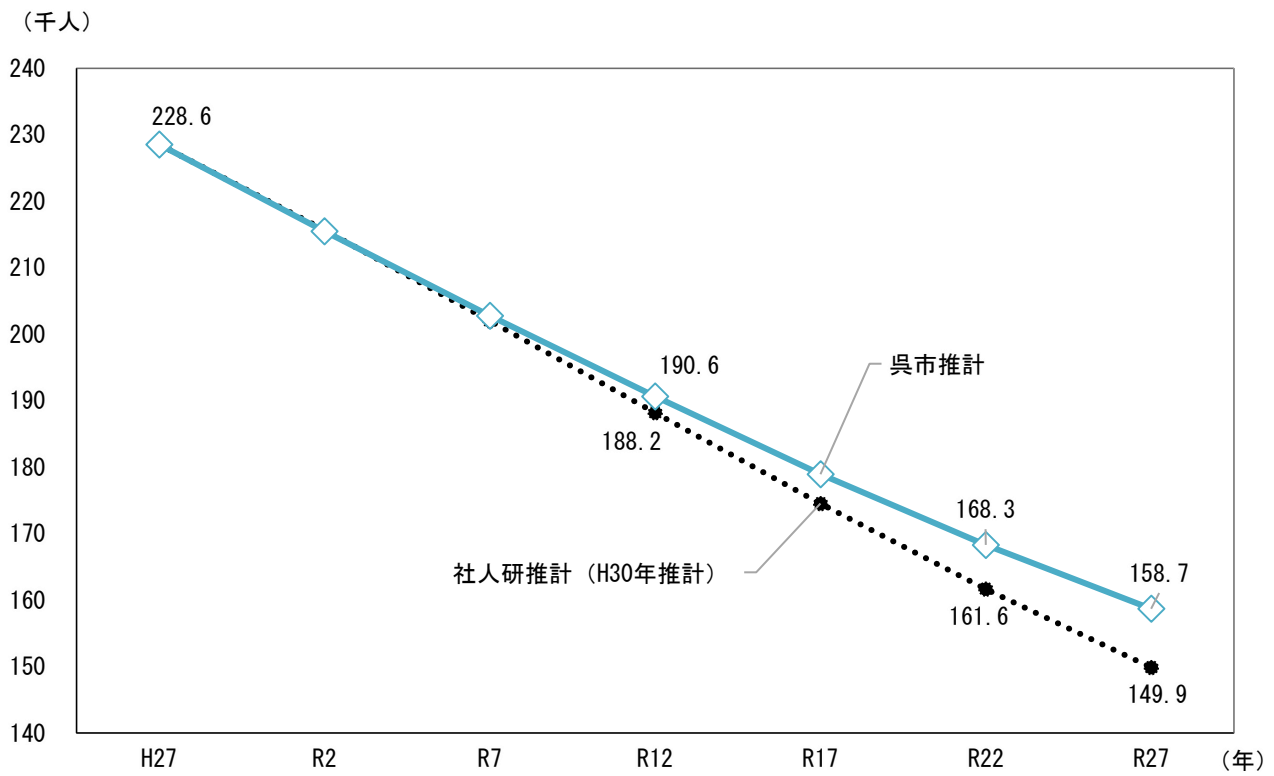
結婚・出産・子育てに関するアンケートを基に以下のとおり算出

市民希望出生率＝有配偶者の割合×理想の子ども数（有配偶者）

＋（独身者の割合×結婚希望者の割合（独身者）×理想の子ども数（独身者）
× 離死別の影響

イ 推計結果

図表 3-14 将来人口推計



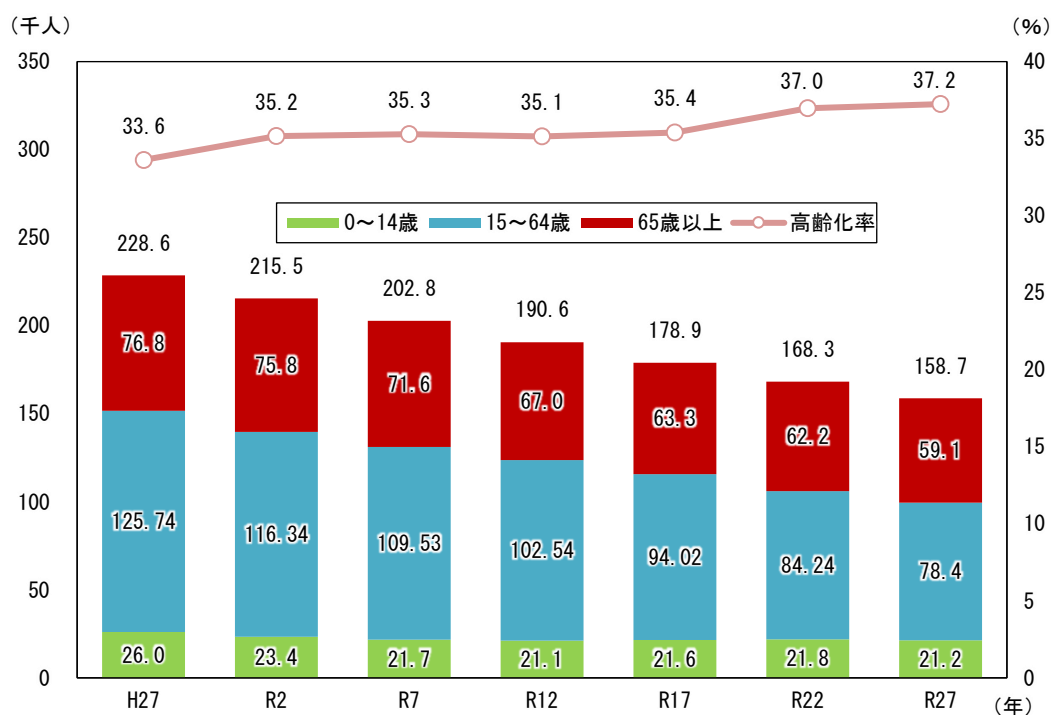
(単位：人)

| | H27 (2015) | R2 (2020) | R7 (2025) | R12 (2030) | R17 (2035) | R22 (2040) | R27 (2045) |
|--------------|---------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 呉市推計 | 228,552 | 215,511 | 202,761 | 190,628 | 178,930 | 168,296 | 158,691 |
| 社人研推計 (H30年) | 228,552 | 215,683 | 202,037 | 188,180 | 174,528 | 161,648 | 149,865 |

※平成 27 年 (2015 年) は総務省統計局「国勢調査」の実績値。令和 2 年 (2020 年) 以降の社人研推計 (平成 30 年推計) は「日本の地域別将来推計人口 (平成 30 年 (2018 年) 推計)」の推計値

図表 3-15 将来推計（年齢3区分別）

【呉市推計】



（単位：人，％）

| | | H27 (2015) | R2 (2020) | R7 (2025) | R12 (2030) | R17 (2035) | R22 (2040) | R27 (2045) |
|-------|------------------|---------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 呉市推計 | 総人口 | 228,552 | 215,511 | 202,761 | 190,628 | 178,930 | 168,296 | 158,691 |
| | 年少人口 0～14歳 | 25,977 | 23,391 | 21,660 | 21,104 | 21,589 | 21,830 | 21,240 |
| | 生産年齢人口 15～64歳 | 125,743 | 116,336 | 109,535 | 102,545 | 94,022 | 84,239 | 78,351 |
| | 高齢人口 65歳以上 | 76,832 | 75,784 | 71,566 | 66,979 | 63,319 | 62,227 | 59,099 |
| | | 33.6 | 35.2 | 35.3 | 35.1 | 35.4 | 37.0 | 37.2 |
| 社人研推計 | 総数 | 228,552 | 215,683 | 202,037 | 188,180 | 174,528 | 161,648 | 149,865 |
| | 年少人口 0～14歳 | 25,977 | 23,802 | 21,375 | 19,269 | 17,558 | 16,370 | 15,181 |
| | 生産年齢人口 15～64歳 | 125,743 | 116,096 | 109,096 | 101,932 | 93,651 | 83,052 | 75,605 |
| | 高齢人口 65歳以上 | 76,832 | 75,785 | 71,566 | 66,979 | 63,319 | 62,226 | 59,079 |
| | | 33.6 | 35.1 | 35.4 | 35.6 | 36.3 | 38.5 | 39.4 |

※上段は人口，下段は構成比

※平成27年（2015年）は総務省統計局「国勢調査」の実績値。平成27年（2015年）は，総人口と各年齢区分の合計を一致させるため，年齢不詳者を各年齢区分により按分し集計

2 まち・ひと・しごと創生総合戦略

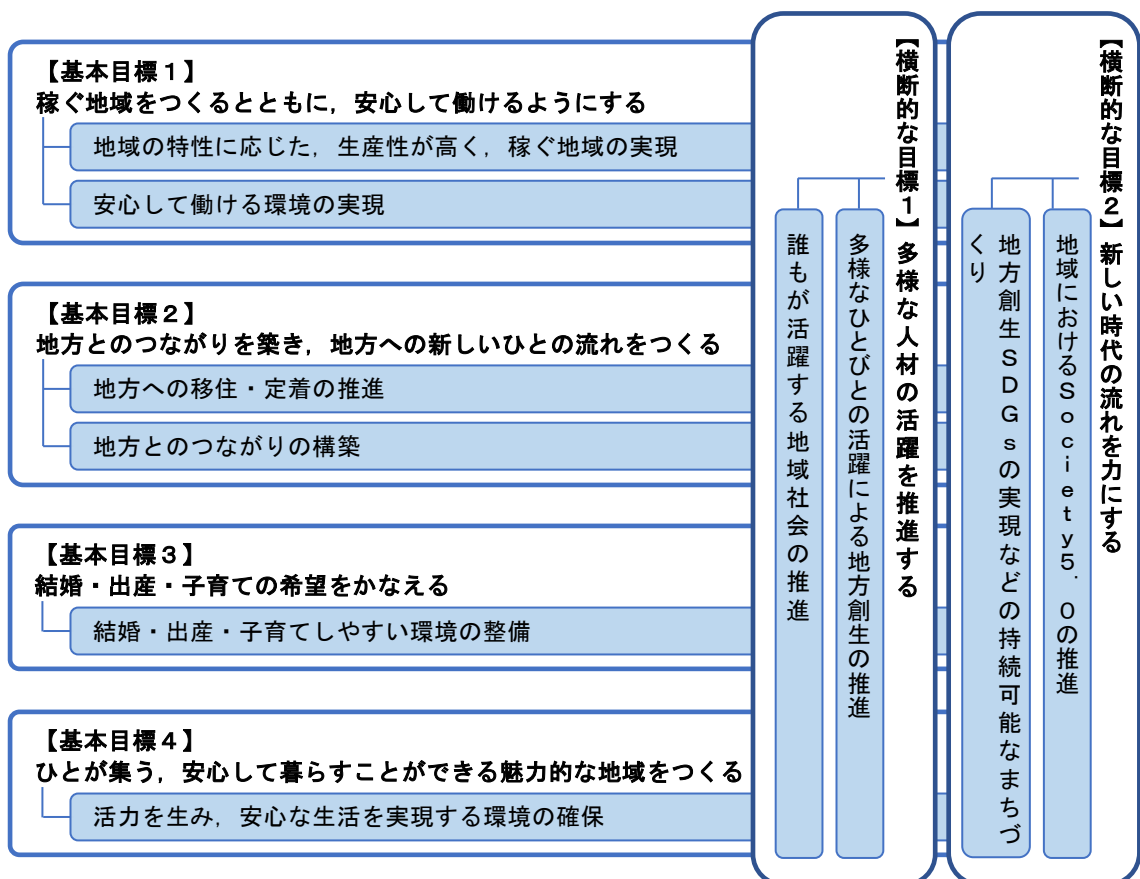
(1) 第1期まち・ひと・しごと創生の現状等

呉市では、平成27年度（2015年度）に「呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年度（2015年度）～令和2年度（2020年度））」を策定し、「若年層の定着～若者が集い、にぎわうまちづくり～」の実現に向け、第4次呉市長期総合計画の施策のうち、まち・ひと・しごと創生に資する施策や目標を掲げたアクションプランとして位置付け、働きやすさの向上、育てやすさの向上、暮らしやすさの向上に取り組んできました。

この間、積極的な企業誘致や創業・起業の支援に取り組み、産業団地への企業の立地や、第3次産業等での創業・起業により、雇用を創出・確保を図りました。また、定住サポートセンターによる若年層や移住者への住宅取得支援に取り組み、空き家バンク登録物件の成約件数が増加するなど、定住・移住の促進を図りました。しかしながら、呉市の人口減少の最も大きな要因である若年層の転出超過や出生数の減少が続いています。

(2) 国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略における施策の方向性

国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年度（2020年度）～令和6年度（2024年度））では、人口減少を和らげるため、結婚、出産、子育ての希望をかなえ、生活面の充実を図るとともに、文化や歴史、街並み等を生かした「暮らしやすさ」を追求し、地方の魅力を育み、ひとが集う地域を構築することを目指すべき将来として掲げています。



(3) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標等

令和3年度（2021年度）から5年間の計画となる呉市の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略では、第5次呉市長期総合計画基本構想に掲げる八つの政策分野の「目指すべき姿」を基本目標として掲げ、前期基本計画における施策を実行することにより、国籍や年齢、性別等に関わらず、誰もが住みたい、住み続けたい、行ってみたいと思えるまちづくりを進めていきます。

○基本目標等

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 基本目標1 | 若い世代が安心して子どもを産み育て、未来を創る人材を育てるまち |
| 基本的方向 | 第2編 基本構想 第2章 目指すべき姿 政策分野1：子育て・教育分野に記載 |
| 数値目標 | |

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 基本目標2 | 誰もが、住み慣れた地域で、健やかに安心して暮らし続けることができるまち |
| 基本的方向 | 第2編 基本構想 第2章 目指すべき姿 政策分野2：福祉保健分野に記載 |
| 数値目標 | |

| | |
|-------|--|
| 基本目標3 | 多様な主体が協働し、誰もが安心して笑顔で暮らせるまち |
| 基本的方向 | 第2編 基本構想 第2章 目指すべき姿 政策分野3：市民生活・防災分野に記載 |
| 数値目標 | |

| | |
|-------|---|
| 基本目標4 | 文化芸術やスポーツに親しみ、生涯を通じて学ぶことができるまち |
| 基本的方向 | 第2編 基本構想 第2章 目指すべき姿 政策分野4：文化・スポーツ・生涯学習分野に記載 |
| 数値目標 | |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 基本目標5 | 誰もがチャレンジでき、時代を先取る産業を創造できるまち |
| 基本的方向 | 第2編 基本構想 第2章 目指すべき姿 政策分野5：産業分野に記載 |
| 数値目標 | |

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 基本目標6 | 誰もが安全・安心で快適に暮らせる持続可能なまち |
| 基本的方向 | 第2編 基本構想 第2章 目指すべき姿 政策分野6：都市基盤分野に記載 |
| 数値目標 | |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 基本目標7 | 豊かな環境を次の世代につなぐまち |
| 基本的方向 | 第2編 基本構想 第2章 目指すべき姿 政策分野7：環境分野に記載 |
| 数値目標 | |

| | |
|--------|--|
| 基本目標 8 | 市民の視点に立った効率的な市政を運営するまち |
| 基本的方向 | 第 2 編 基本構想 第 2 章 目指すべき姿 政策分野 7：行政経営分野 に記載 |
| 数値目標 | |

将来都市像

政策分野

基本政策

誰もが住み続けたい、行ってみたい、人を惹きつけるまち「くれ」
 イキイキと働き、豊かに安心して暮らし、ワクワク生きる

| | |
|---|--|
| <p>1 子育て・教育分野 若い世代が安心して子どもを産み育て、未来を創る人材を育てるまち</p> <p>2 福祉保健分野 誰もが、住み慣れた地域で健やかに安心して暮らし続けることができるまち</p> <p>3 市民生活・防災分野 多様な主体が協働し、誰もが安心して笑顔で暮らせるまち</p> <p>4 文化・スポーツ・生涯学習分野 文化芸術やスポーツに親しみ、生涯を通じて学ぶことができるまち</p> <p>5 産業分野 誰もがチャレンジでき、時代を先取る産業を創造できるまち</p> <p>6 都市基盤分野 誰もが安全・安心で快適に暮らせる持続可能なまち</p> <p>7 環境分野 豊かな環境を次の世代につなぐまち</p> <p>8 行政経営分野 市民の視点に立った効率的な市政を運営するまち</p> | <p>1 妊娠・出産・子育て支援の充実</p> <p>2 学校教育の充実</p> |
| | <p>1 健康づくりの推進</p> <p>2 高齢者福祉の推進</p> <p>3 障害者福祉の推進</p> <p>4 生活困窮者の支援</p> |
| | <p>1 市民協働と多文化共生の推進</p> <p>2 安全・安心な生活の確保</p> <p>3 人権尊重と男女共同参画の推進</p> <p>4 防災・減災に向けた体制の強化</p> <p>5 消防・救急機能の強化</p> <p>6 国内外との多様な交流機会の充実</p> |
| | <p>1 文化の振興</p> <p>2 スポーツの振興</p> <p>3 生涯学習の推進</p> |
| | <p>1 地域産業の発展・チャレンジ環境の整備</p> <p>2 企業誘致・雇用環境の整備</p> <p>3 観光の振興</p> <p>4 農水産業の振興</p> |
| | <p>1 安心して住み続けられるまちづくりの推進</p> <p>2 移動しやすい交通環境の形成</p> <p>3 道路の整備</p> <p>4 河川、砂防・急傾斜、高潮対策の推進</p> <p>5 公園・にぎわい空間の創出</p> <p>6 港湾機能の充実・魅力向上</p> <p>7 上下水道の整備</p> |
| | <p>1 環境の保全</p> <p>2 循環型社会の形成</p> |
| | <p>1 情報化の推進</p> <p>2 行財政改革の推進</p> <p>3 職員・組織の活性化</p> <p>4 都市間交流・連携の推進</p> |

横断的な視点①…先端技術の積極的な活用による Society5.0 の実現
 横断的な視点②…少子化と人口減少への対応

施 策

横断的な視点③…様々な危機への対応と将来のリスクへの備え
横断的な視点④…市民や企業、高等教育機関など多様な主体との取組の推進

①妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援 ②社会全体で子どもと子育て家庭を支える支援
 ③支援・配慮を必要とする子どもとその家庭への支援

①義務教育の充実 ②高等学校教育の充実 ③安全・安心な教育環境の充実

①市民の主体的な健康づくりの推進 ②データヘルスの推進 ③地域保健・医療体制の確保

①地域包括ケアシステムの推進 ②社会参加の促進 ③介護を支える仕組みの推進

①地域における生活の支援 ②就労支援の充実と雇用の促進 ③健康づくりへの支援
 ④共に支え合い参加する社会づくり

①生活困窮者の生活の安定と自立の支援

①まちづくりの担い手の確保 ②まちづくりのための基盤強化
 ③市民公益活動団体等との協働によるまちづくり ④多文化共生社会の実現

①安全で安心な消費生活の環境づくり ②防犯対策等の推進 ③交通安全対策の推進

①人権尊重のまちづくりの推進 ②男女共同参画社会の実現

①防災力の向上 ②災害の教訓の継承

①消防・救急・救助体制の整備

①市民と国内外の人々との交流の促進 ②戦略的な広報・広聴の推進 ③呉の魅力発信

①文化芸術の振興 ②文化財の保存・活用

①ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 ②競技スポーツの振興 ③スポーツ環境の整備

①生涯にわたる学びの支援と社会教育の振興

①中小企業・小規模企業の支援 ②新たなチャレンジへの支援 ③商業の活性化

①企業誘致・留置活動の推進 ②雇用機会の創出 ③勤労者福祉の充実

①観光振興策の展開

①農業・漁業経営体の確保・育成・強化 ②農水産物のブランド化・販路拡大・流通
 ③農業生産基盤の整備・保全 ④豊かな森林の形成 ⑤漁業生産基盤の整備・保全

①コンパクトシティの推進 ②質の高い住環境の推進

①スマートモビリティの推進 ②地域公共交通の維持・確保

①高速道路ネットワークの整備 ②国道・県道の整備 ③市道の整備

①河川改修等の推進 ②砂防・急傾斜対策の推進 ③高潮対策の推進

①公園の整備 ②にぎわい空間の創出

①港湾機能の充実 ②港湾機能の魅力向上

①安全で安心な水道水の供給 ②快適な暮らしを支える下水道の整備

①地球環境の保全 ②生物多様性の保全 ③地域環境の保全 ④市営墓地の整備

①循環型社会の形成 ②持続可能な社会の基盤づくり

①スマートシティの推進 ②スマート自治体への転換

①健全な財政運営の確保 ②効率的な行政システムの確立 ③長期的かつ総合的な資産経営
 ④市民ニーズに対応する行政サービスの提供

①働き方改革の推進 ②職員の能力開発と意識改革 ③人事任用制度の充実

①広域連携の推進

1 施策推進のための横断的な視点

将来都市像と五つの未来の姿の実現に向けて、各政策分野の施策推進に共通する四つの視点をもって、前期基本計画を推進していきます。

横断的な視点① 先端技術の積極的な活用によるSociety5.0の実現

今後の市民生活や事業活動、地域社会は、大きく進歩したAIやIoTなどの先端技術が、公共や民間が持つデータを核として駆動することにより、大きく変化していくことが見込まれています。

市民の利便性や生活の質の向上、新しい生活様式への対応、地域経済の活性化などに向けて、呉市ならではの特性と最先端のICTなどを融合させながら、積極的に活用する視点をもって施策を推進していきます。

横断的な視点② 少子化と人口減少への対応

呉市の人口は、昭和50年（1975年）をピークに減少が進んでおり、若年層の転出超過や未婚化・晩婚化による出生数の減少が大きく影響しています。

子育て世代を始めとする若い世代が住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを進める視点をもって施策を推進していきます。

横断的な視点③ 様々な危機への対応と将来のリスクへの備え

呉市は、甚大な被害を受けた平成30年7月豪雨災害について、「呉市復興計画」に基づく着実な復旧・復興を進めています。そうした中であって、新型コロナウイルス感染症の拡大、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止発表によって、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼす状況も生じています。

これらに柔軟かつ迅速に対応するとともに、今後のリスクに備えていく視点をもって施策を推進していきます。

横断的な視点④ 市民や企業、高等教育機関など多様な主体との取組の推進

基本構想に掲げる将来都市像と五つの未来の姿の実現には、市民や企業、高等教育機関など多様な主体との連携が必要になります。

これらの多様な主体が持つ強みや特性を生かし、共に取り組む視点をもって施策を推進していきます。

なお、「2 基本政策」に記載する施策や主な取組のうち、他の政策分野に関連するものについては、その推進に際して分野間で連携し、取り組んでいきます。（例：「地域包括ケアシステムの推進」と「まちづくりの担い手の確保」、「高齢者の生きがいづくり」と「生涯スポーツの推進」など）

2 基本政策

基本政策の構成

【基本政策名】

各政策分野で取り組む基本政策名を記載しています。

【現状・課題】

基本政策に関する社会的な背景や呉市の現状と課題を記載しています。

【施策名】

基本政策の推進に向けて取り組む施策名を記載しています。

【SDGs】

施策に関連するSDGs（持続可能な開発目標）における17のゴールを記載しています。

【施策の方向】

基本政策の推進に向けて取り組む施策の方向性や考え方を記載しています。

【主な取組】

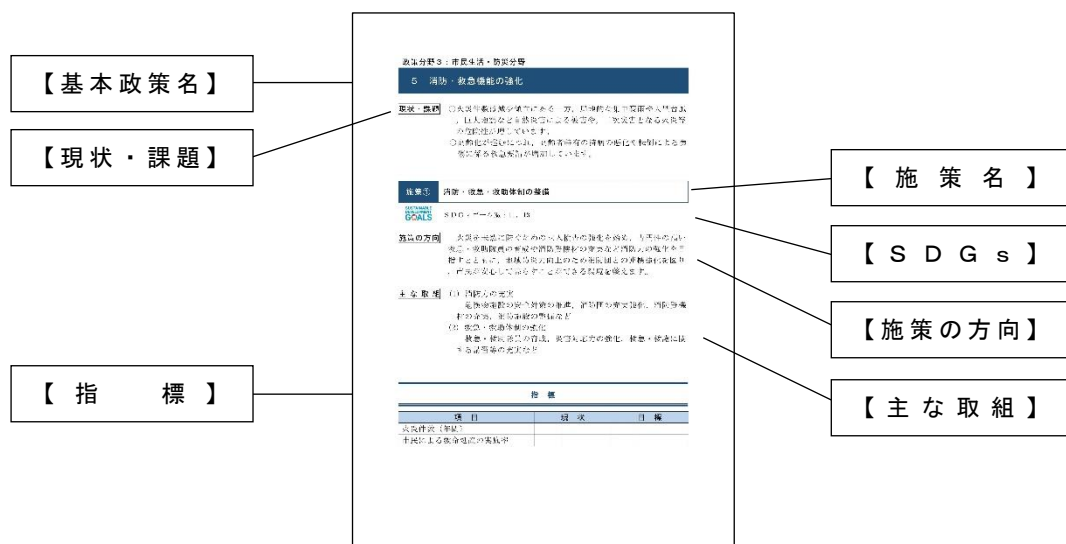
施策を進めていく上で、前期基本計画期間中に取り組む、主な取組を記載しています。

【指標】

基本政策ごとの進捗状況を示す主な指標として設定しています。

原則として、現状値は令和元年度、目標値は前期基本計画の最終年度である令和7年度（2025年度）の数値を記載しています。

<ページレイアウトのイメージ>



政策分野 1 : 子育て・教育分野

1 妊娠・出産・子育て支援の充実

現状・課題

- 核家族化，晩産化，共働き家庭やひとり親家庭の増加，身近にサポートがない人の増加など，家族を取り巻く環境の変化により，妊娠や出産，子育てに対する不安や負担が増大しています。
- 産後うつなど，親と子のメンタルヘルスや健康課題等の早期発見と対応，疾病の予防が必要となっています。
- 子育てや教育に係る経済的な負担や子育てへの不安，仕事との両立の悩みなどが，子どもを持ちたい若い世代の希望を実現しにくい要因のひとつとなっています。
- 児童虐待やドメスティック・バイオレンス（DV）のほか，経済的困窮，社会的孤立など，子どもを取り巻く様々な要因が子どもの健やかな成長を困難にしています。支援を必要とする子どもや家庭，障害のある子どもに継続的に寄り添う支援が求められています。

施策①

妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援



SDGs ゴールNo. : 2, 3, 5, 16

施策の方向

安心して子どもを産み育てることができる環境を整え，子ども一人ひとりの健全な育ちを実現するため，妊娠・出産の相談体制やサポートの充実，経済的支援など，妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援の強化・充実を図ります。

主な取組

- (1) 妊娠から子育てまでの総合支援
子育て世代包括支援センター「えがお」や子育て支援アプリなどを利用した総合的な相談体制の充実，乳幼児医療費の助成など
- (2) 妊娠・出産サポートの充実
妊産婦の健康診査，不妊治療の支援，安心して出産に望むことができる環境の整備など
- (3) 親と子の心とからだの健康づくり
乳幼児・妊産婦の健康診査や地域子育て支援拠点などの交流の場づくりなど

施策②

社会全体で子どもと子育て家庭を支える支援



SDGs ゴールNo. : 3, 4, 5

施策の方向

若い世代が安心して子どもを育てることができるよう、幼児教育・保育サービスの充実や子どもの居場所づくり，オンライン手続による利便性の向上，子育てと仕事の両立支援など，市民・地域・企業など，社会全体が子どもの健やかな育ちと子育て家庭を支える環境づくりに取り組みます。

主な取組

- (1) 様々な主体による子育て支援の充実
ファミリー・サポート・センターや放課後児童会，地域子育て支援拠点の充実，くれ子育てねっとやくれっこアプリなどウェブによる子育て情報の提供，手続のオンライン化，仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する啓発など
- (2) 幼児教育・保育の充実
保育サービスの充実や教育・保育人材の確保，義務教育とつなぐ幼児教育の推進など
- (3) 子どもがのびのびと育つ居場所づくりの推進
子ども食堂や学習支援教室など，子どもの居場所づくりに取り組む団体への支援など

施策③

支援・配慮を必要とする子どもとその家庭への支援



SDGs ゴールNo. : 1, 3, 4, 16

施策の方向

子どもの将来が，その生まれ育った環境により左右されることがないように，社会的に自立するまで，一人ひとりが置かれた状況に応じた支援に取り組みます。

児童虐待の発生予防から自立支援まで，関係する行政機関や民間団体等との緊密な連携・協力を図り，迅速な対応や継続的な支援を行います。

障害のある子どもの保育所や幼稚園・認定こども園等における受入体制の整備及び環境の整備，年齢や障害の程度などに応じた養育体制の充実に取り組みます。

ひとり親家庭の生活の安定と自立に向けた就業支援などの経済的支援を実施します。

- 主な取組**
- (1) 児童虐待防止対策の更なる強化
関係機関と協力した児童虐待の発生予防から自立支援までの一連の対策や啓発活動など
 - (2) 障害児施策の充実
障害を持つ子どもの教育・保育サービス等の受入体制の整備など
 - (3) ひとり親家庭等の支援の充実
婦人相談員による相談，母子父子自立支援員によるひとり親家庭等への就業支援など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|----------------------------|-----|--|-----|--|
| この地域で子育てしたいと思う親の割合 | | | | |
| 子育て支援に関する行政サービスに満足している人の割合 | | | | |

政策分野 1 : 子育て・教育分野

2 学校教育の充実

現状・課題

- 子どもたちがこれからの新しい時代を切りひらいていけるよう、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力など、子どもたちの未来につながる資質・能力を伸ばす教育に取り組む必要があります。
- 障害のある子ども一人ひとりのニーズに対応した指導・支援を充実していく必要があります。
- ICT等の進歩や英語教育など時代に応じた学びを支える環境を整備することで、それらを社会で活用できる児童・生徒を育成する必要があります。
- 高等学校教育では、地域社会のニーズや生徒の興味・関心が多様化するなど、様々な課題が複雑化、高度化する先行き不透明な社会において、力強く生き抜き、社会に貢献する人材を育成する教育に取り組む必要があります。
- 安全・安心への関心が高まる中、学校施設の老朽化対策や設備の充実等の環境整備を進める必要があります。
- 家庭環境など様々な要因により支援を必要とする子どもたちを支えるため、一人ひとりの状況に応じたきめ細かい取組を行う必要があります。
- 子どもたちの尊厳と生命を守るため、いじめや暴力行為を防止する必要があります。
- 頻発化する自然災害に対する防災意識の向上が課題となっています。

施策①

義務教育の充実



SDGs ゴールNo. : 4

施策の方向

小中一貫教育を基盤とし、幼児教育から義務教育、高等学校教育等につながる系統的な教育活動を重視するとともに、Society 5.0時代における創造性を育み、一人ひとりに個別最適化された学びへのICTの積極的な活用や情報活用能力を高める学び、英語教育、豊かな心と体を育てる体験活動などを推進し、家庭や地域社会と連携しながら、自らが学び、育つことで子どもたちの生きる力を育む義務教育の充実を図ります。

障害のある子どもの社会的な自立や社会参加に向け、障害の種類、程度、発達段階などに応じた専門的な指導・支援の充実を図ります。

主な取組

- (1) 小中一貫教育を基盤とした「つながり」を重視する教育の推進
小中一貫教育の推進，幼児教育との接続カリキュラムに基づく教育内容づくりの推進，地域の「人・もの・こと」を活用した教育の活性化など
- (2) 特別支援教育の推進
指導員・指導補助員の派遣，専門家による教育相談など
- (3) ICTを活用した教育の推進
学校ICT環境の充実，タブレットを活用した教育の推進，新型コロナウイルス感染症に対応したオンライン授業など
- (4) 英語教育の推進
外国人講師や加配講師による英語指導，中学校教員が小学校に乗り入れての英語授業など
- (5) 豊かな心と体を育てる体験活動の充実
ふるさと文化探訪などによる郷土を愛する心の育成，文化芸術体験やトップアスリートの派遣など

施策②

高等学校教育の充実



SDGs ゴールNo. : 4

施策の方向

呉市立呉高等学校において、生徒個々の希望と適性に応じた学びを推進するとともに、地域課題を発見し、その解決に貢献しようとする意識を高めるための教育活動を広汎に展開します。こうした実践を通じて、持続可能な社会の担い手として、新たな価値を生み出す力を磨く、総合学科の特色を生かした高等学校教育の充実を図ります。

主な取組

- (1) 総合学科の特色を生かした教育の推進
多様な科目選択による学際的な学びの展開，ESD・SDGsを基軸とした教育内容づくりの推進，ICT機器を活用したより探究的な学習の充実や個別最適化された学びの実現，情報活用能力の向上の推進など

- (2) 自立と社会貢献への意識を育てる教育の推進
 部活動・学校行事の充実による自主性・自立性の育成，ボランティア活動への積極的参加による社会貢献の意識の醸成など

施策③ 安全・安心な教育環境の充実



SDGs ゴールNo. : 4, 11

施策の方向

学校施設の老朽化対策や改良を計画的に進めるとともに，就学支援，通学支援などに取り組むことにより，子どもたちが安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実を図ります。

いじめや暴力行為，不登校などを防止するため，教育活動を通じて豊かな情操や道徳心を培うことや，早期発見・早期対応の体制の充実などの対策を総合的かつ効果的に推進します。

「自分の命は自分で守る」力を育成するために，防災教育を推進します。

主な取組

- (1) 安全・安心な環境整備と就学支援
 学校施設の長寿命化等の安全・安心な教育環境づくり，経済的に困っている家庭への就学支援，遠距離等通学に対する支援，母国語通訳による支援など外国籍の子どもの受入体制の充実など
- (2) いじめなどの問題行動や不登校への取組
 スクールカウンセラーの派遣や適応指導教室の運営など
- (3) 防災教育の推進
 「呉市学校防災週間」における学校行事，「呉市防災教育のための手引き」を活用した授業など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|---------------------------|-----|--|-----|--|
| 全国学力・学習状況調査結果全国 平均値との差 | | | | |
| 学校に行くのは楽しいと思う児童 ・生徒の割合 | | | | |

政策分野 2 : 福祉保健分野

1 健康づくりの推進

現状・課題

- 社会経済情勢の変化に伴う働き方や食生活等の生活環境の変化が、市民の健康に影響を及ぼしています。
- がん，糖尿病，高血圧性疾患などの生活習慣病は，死亡者全体の約5割を占めています。生活習慣の改善により回避できる疾病の発症や重症化の予防が重要です。
- フレイル（健康な状態と要介護状態の中間）や要介護状態になりやすい高齢者などの特性に応じた保健事業を行う必要があります。
- 認知症の発症は，本人や家族の生活の質（QOL）に影響を及ぼします。認知症を正しく理解し，認知症の発症を予防する取組が必要です。
- 人口減少に伴う生産年齢人口の減少は，医師や看護師などの人材確保を困難にするなど，地域医療体制の維持に大きな影響を与えます。
- 新型コロナウイルスや結核などの感染症や大規模な食中毒の発生は，市民の健康を脅かすとともに，地域保健・医療サービスの提供にも大きな影響を及ぼします。

施策①

市民の主体的な健康づくりの推進



SDGs ゴールNo. : 2, 3, 17

施策の方向

市民一人ひとりが，自身の心と体の健康状態を意識し，日常生活の中で主体的に健康づくりに取り組めるよう，健診の受診を促進し，運動や食生活を通じた健康づくり活動の支援を充実して，健康寿命の延伸を図ります。

また，認知症について，正しい知識に基づき理解を深め，予防対策や早期診断・早期治療につなげるための普及啓発に取り組みます。

主な取組

(1) 健康的な生活習慣の定着・推進

日常生活の中での運動習慣の定着，適塩など食を通じた健康づくり，こころの健康づくりの推進など

(2) 健診の受診促進

特定健診やがん検診等の実施，健康相談・健康教育・訪問指導の実施など

(3) 介護予防・認知症予防活動の充実

運動機能の向上や口腔ケアの推進，栄養改善，認知症予防に対する正しい知識の普及を行うための教室の実施など

施策②

データヘルスの推進



SDGs ゴールNo. : 3, 17

施策の方向

市民一人ひとりの健康課題に応じた生活習慣病等の発症・重症化予防や介護予防，フレイル予防を，医師会，歯科医師会，薬剤師会等の協力体制のもと，健診，医療，介護等のデータを活用し，効果的な保健指導等を行うデータヘルスにより推進します。

また，医療機関など豊富な医療資源を生かし研究機関等と連携して，より効果的な手法の開発や効果の検証などデータの利活用に取り組みます。

主な取組

(1) データヘルスによる予防・健康づくりの推進

健診データに基づく保健指導の実施など

(2) データヘルスによる重症化予防の推進

糖尿病性腎症や骨粗しょう症の重症化予防など

(3) データの利活用の推進

ジェネリック医薬品促進通知など

施策③

地域保健・医療体制の確保



SDGs ゴールNo. : 3

施策の方向

誰もが安心して医療が受けられるよう，医師・看護師を始めとする医療従事者の確保やオンライン診療など先端技術の活用を検討するとともに救急医療体制を確保し，充実した医療の提供に取り組みます。

また，新興・再興感染症や食中毒など，市民の健康危機が発生した際，迅速かつ的確な対応ができるよう，保健・医療・福祉の連携と必要な支援体制の強化を図ります。

- 主な取組**
- (1) 地域医療体制の確保
医師・看護師の確保や救急医療確保のための支援など
 - (2) 医療機器等の整備（公立下蒲刈病院）
医師の確保や医療機器の整備など
 - (3) 健康危機管理の推進
予防接種の実施など感染症の発症予防や食中毒等危害発生の予防，感染症の特定や感染経路の調査など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|---------------------|-----|--|-----|--|
| 健康であると感じている市民の割合 | | | | |
| 要介護・要支援認定率（65歳～74歳） | | | | |

政策分野 2 : 福祉保健分野

2 高齢者福祉の推進

現状・課題

- 平均寿命の延伸に伴い高齢者の人口割合は、今後も高止まりが予想されており、生活習慣病や認知症に対応した医療・介護の需要も増加することが見込まれています。在宅医療・介護の効果的な提供のため、入退院時や在宅療養における医療と介護の連携強化がより重要となっています。
- 認知症の人やその家族にとって認知症の進行が大きな不安材料となっています。適時・適切な医療・介護の提供とともに、本人や家族の孤立を防ぐ支援や認知症などにより判断能力が低下した高齢者の権利擁護や虐待防止など、本人やその家族の見守りや支え合いが求められています。
- 加齢による心身機能の低下などにより、地域との交流機会が減少することが問題となっています。地域での「支え合い」により、高齢者が地域活動に参加する取組を充実する必要があります。
- 高齢化の進展に伴い一人暮らしの高齢者が増えています。介護サービスの需要増加やフレイルに対応した生活支援サービス提供体制の充実を図る必要があります。

施策①

地域包括ケアシステムの推進



SDGs ゴールNo. : 3, 8, 17

施策の方向

医療や介護を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの充実を図ります。これにより、高齢者やその家族が抱える課題に対応する包括的な総合相談支援体制強化や高齢者の疾病や介護の重度化の予防を推進します。

さらには、地域共生社会の実現に向け、相談者の属性（高齢、障害、生活困窮など）、世代、相談内容にかかわらず重層的な支援を行うことができる体制の構築を進めます。

また、認知症の人やその家族の孤立を防ぐため、NPO団体や住民組織など地域全体で支える体制づくりを推進します。

主な取組

- (1) 地域包括支援センターの機能強化
地域ケア会議と連携した継続的・専門的な相談支援・権利擁護など
- (2) 在宅医療・介護連携の推進
在宅医療・介護の連携強化に向けた会議の開催，アドバンス・ケア・プランニング*の実施，在宅療養推進のための住民啓発など
- (3) 生活支援体制の整備
社会福祉協議会や介護サービス事業者，NPO法人等と連携した多様な日常生活上の支援体制の充実など
- (4) 認知症対策の推進
適時適切な医療・介護の提供，地域の支援機関との連携を強化するための認知症地域支援推進員の配置，認知症サポーターの養成，認知症カフェの開催など

※ 人生の最終段階の医療・ケアについて，本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス

施策②

社会参加の促進



SDGs ゴールNo. : 8, 16, 17

施策の方向

高齢者が健全で生きがいのある生活を営むことができるよう，日常生活の基礎となる生活動作を維持し，フレイルを防止する運動機能の維持・改善に向けた取組を推進します。

また，認知機能の低下や要介護状態に進行するリスクを高める閉じこもりを防止するため，社会活動，生涯学習，就労など，個々の実情に応じた支援に取り組み，社会参加と自己実現ができる環境づくりを推進します。

主な取組

- (1) 高齢者の生きがいづくり
筋力アップ教室や地域サロンなどの実施，各種スポーツ大会や作品展の開催など，地域活動の支援

施策③ 介護を支える仕組みの推進



SDGs ゴールNo. : 3, 8

施策の方向

高齢者が介護や支援を必要とした際に、身近な地域で安心して介護サービスや高齢者福祉サービスを受けることができ、尊厳を持って生活できるようにするため、高齢者の自立支援とその家族の負担の軽減、介護離職ゼロを目指し、介護サービス基盤の充実などに取り組み、安定した介護保険制度の運営を推進します。

主な取組

- (1) 高齢者福祉サービスの充実
要援護者巡回相談事業や要援護者登録制度など
- (2) 介護サービス等の充実
住み慣れた地域で生活するための介護サービスの給付など
- (3) 介護保険事業の円滑な実施
介護サービスの質の向上、給付の適正化など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|------------------------------|-----|--|-----|--|
| 地域包括ケアシステムの完成度 | | | | |
| 毎日の生活について「生きがいあり」と回答した高齢者の割合 | | | | |

政策分野 2 : 福祉保健分野

3 障害者福祉の推進

現状・課題

- 呉市の障害者数は、身体障害者は減少傾向にあるものの、知的障害者、精神障害者、難病患者は増加傾向にあります。
- 障害者やその家族からの相談は、サービスや就労、健康づくりなど多岐にわたります。ハローワークや医療機関などと連携した総合的な相談支援体制の充実が必要となっています。
- 介助者は親や配偶者の割合が高く、60歳以上の介助者が約6割を占めています。障害者とその家族を地域全体で支える取組の充実が必要となっています。
- 広島県内の特別支援学校高等部卒業者の進路（令和元年度学校基本調査）は、大学等への進学0.7%、就職40.8%となっています。障害者の職業的自立を支援する取組の充実が必要となっています。
- 障害者が安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、生涯にわたる健康づくりを目指した保健・医療サービスの充実が必要となっています。
- 障害の有無によって分け隔てられることなく、共に支え合い参加する社会の実現が必要です。

施策①

地域における生活の支援



SDGs ゴールNo. : 10

施策の方向

障害者やその家族が、必要な時に必要な場所で必要な支援を受けることができるよう、障害福祉サービスの充実を図ります。

また、障害者が地域で自立した生活を営むことができるよう、入所施設から地域生活への移行を支援するとともに、地域の医療・保健・福祉等の関係者と連携し、総合的な相談支援体制の構築を推進し、地域共生社会の実現に取り組みます。

障害を持つ子どもについては、療育体制の充実や乳児期から成人期まで途切れることのない発達支援体制の整備など、関係機関と連携した支援に取り組みます。

主な取組

- (1) 福祉サービス等の円滑な提供
障害者や家族等のニーズに対応した障害福祉サービス（ホームヘルプやショートステイなど）や地域生活支援（手話通訳の派遣など）等の円滑な提供など
- (2) 発達障害児・者に対する支援の充実
療育の相談・支援体制の充実や障害の状況、ライフステージ等に応じた総合的な療育体制の確立など
- (3) 相談支援体制の充実
日常的なことから専門的なことまで相談できる総合的な相談支援体制の充実など
- (4) 地域福祉の推進
地域住民と関係機関（地域包括支援センターや社会福祉協議会など）等が連携して、障害者やその家族を地域全体で支える地域包括ケアの推進など

施策②

就労支援の充実と雇用の促進



SDGs ゴールNo. : 8

施策の方向

働く意欲のある障害者が、その適性に応じた能力を十分に発揮することができるよう、障害者の就労訓練事業所における訓練内容のスキルアップを目的とした講座の実施とともに、就労を支援する担い手の育成などの取組を推進します。

また、企業との連携により雇用を促進する取組の充実を図り、就業の機会を確保します。

主な取組

- (1) 就労支援の充実
カウンセラーによる相談支援や情報提供体制の充実、障害者の希望や年齢、障害の状態などに応じた就業機会の確保、就労支援施設での平均工賃を向上させる取組など
- (2) 障害者雇用の促進
市役所や企業等での雇用促進、関係機関との連携による雇用の確保など

施策③ 健康づくりへの支援



SDGs ゴールNo. : 3

施策の方向

障害の原因となる疾病等の予防や障害の早期発見，早期治療を行えるよう，身近な地域における医療体制の充実に取り組むとともに，ライフステージに応じた保健指導等により，障害者及び難病患者の健康づくりを推進します。

また，精神障害者の自立支援に向けて，障害の特性や状態に応じた相談や助言，指導など社会復帰促進のための支援に取り組みます。

主な取組

(1) 健康づくりへの支援

乳幼児健康診査や保健相談指導の充実，一人ひとりの健康状態に応じた保健指導の実施，重度心身障害者や難病患者，精神障害者への医療費助成など

(2) 精神保健福祉の推進（精神保健事業）

精神保健福祉相談や訪問相談の実施，悩んでいる人に寄り添い「孤立・孤独」を防ぎ支援を行うゲートキーパーの養成など

施策④ 共に支え合い参加する社会づくり



SDGs ゴールNo. : 10

施策の方向

障害者が積極的に社会参加できる環境づくりを進めるため，障害に対する理解の促進や障害者の権利擁護などの取組を推進します。

また，障害者の情報収集や意思疎通を支援し，情報格差の解消に取り組むとともに，建物のバリアフリー化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進します。

主な取組

(1) 地域活動等への参加の促進

文化・スポーツ活動への参加支援，障害者団体への活動支援など

(2) 障害への理解促進と権利擁護の推進

障害者週間記念行事の開催，障害者への合理的配慮の提供等に関する条例の制定など

- (3) 情報アクセシビリティの向上
視覚・聴覚障害者に対する点訳・音訳や手話通訳者の派遣など
- (4) 行政サービスにおける配慮
多目的トイレへの改修や窓口への手話通訳者の配置など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-----------------------------|-----|--|-----|--|
| 平均工賃月額（就労継続支援B型） | | | | |
| 福祉施設入所者のうち，地域生活 移行者数（年間） | | | | |

政策分野 2 : 福祉保健分野

4 生活困窮者の支援

- 現状・課題**
- 生活の困窮は、低収入などの経済的理由からひきこもりなどの社会的理由まで様々な要因が複雑に絡み合っていて生じています。
 - 8050（高齢の親と働いていない独身の50歳代の子が同居）問題や介護と育児のダブルケアのように、複数の課題を抱えて生活に困窮する世帯も多くなっています。

施策① 生活困窮者の生活の安定と自立の支援



SDGs ゴールNo. : 1

施策の方向

生活困窮者の自立を促進し、尊厳を確保することにより、経済的自立のみならず、日常生活や社会生活においても自立できるよう支援します。

また、健康で文化的な最低限度の生活を保障するため、困窮の程度に応じて必要な保護を行います。

生活が困窮する要因の多様化や複合化に対応するため、ハローワークや社会福祉協議会などの関係機関等と連携した包括的な支援体制を整え、地域共生社会の実現に取り組みます。

- 主な取組**
- (1) 生活困窮者の生活の安定と自立の支援
生活困窮者自立支援法に基づく自立相談や就労準備などの支援，生活保護の実施
 - (2) 健康管理支援事業の実施
レセプトデータなどを基にした被保護者の生活習慣病の発症予防や重症化予防など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-------------------|-----|--|-----|--|
| 自立相談支援による就労者数（累計） | | | | |

政策分野3：市民生活・防災分野

1 市民協働と多文化共生の推進

現状・課題

- 高齢化や人口減少，地域活動への関心の低下により，まちづくりの担い手が不足しています。市民一人ひとりが地域社会に関心を持ち，自らがまちづくりの主体であると認識し，自発的に行動することが求められています。
- 複雑化する地域課題を解決するためには，個人や団体のそれぞれの取組では対応できない場合もあります。まちづくりの担い手同士の交流・連携を促進し，活動の幅を広げていくために，多様な主体をつなげるネットワークをつくる必要があります。
- 市内で暮らす外国人住民は増加傾向にありますが，日本語を十分に理解することが難しい外国人住民は，生活に必要な情報を得にくい状況となっています。外国人住民も地域社会の一員として活躍できるような環境づくりを推進していく必要があります。

施策①

まちづくりの担い手の確保



SDGs ゴールNo. : 17

施策の方向

市民協働による自主的で自立したまちづくりを進めるため，若年層や外国人住民，企業退職者等の地域活動初心者，専門的な知識を持つ地域外人材の活用など，自発的に地域に関わろうとする多様な担い手の参画や育成をサポートします。また，自治会を始めとした地域コミュニティが行う地域の課題解決や魅力的なまちづくりに向けた取組を支援することを通して，地域の活性化を図ります。

主な取組

- (1) まちづくりの新たな担い手の増加促進
子どもや学生のまちづくりへの参画促進，関係人口の創出やコミュニティビジネスの普及啓発など
- (2) 地域の「こうしたい」を支える事業の実施及び支援
地域おこし協力隊の活用，ゆめづくり地域交付金の交付，プロフェッショナルボランティア登録制度の導入など

施策② まちづくりのための基盤強化



SDGs ゴールNo. : 17

施策の方向

市民協働センターとまちづくりセンターが情報の集約や、ニーズの把握等の支援を行い、市民を始めとする地域社会を構成する多様な主体同士の連携や、情報共有、交流を拡大するとともに、事業の横展開を図ります。

主な取組

- (1) 呉市市民協働センター・まちづくりセンターの活用促進
まちづくりの担い手をつなげるネットワークの構築など
- (2) 地域とボランティア・NPO団体の連携事業の推進
市民公益活動団体の活動状況の定期的な発信、地域に根ざす健康づくり事業の推進など
- (3) ボランティア・NPO団体に対する支援の継続
公共施設を使用する際の使用料の減免、市民公益活動支援基金の運用、災害ボランティア支援基金の運用など

施策③ 市民公益活動団体等との協働によるまちづくり



SDGs ゴールNo. : 17

施策の方向

市民や市民公益活動団体等が取り組む安全・安心なまちづくりなどの活動を支援することで、地域で支え合う意識を醸成し、様々な地域課題の解決などを図ります。

主な取組

- (1) 災害に備えた地域での支え合いの支援
災害等の断水時に備えた地域における井戸の共同利用を促進
- (2) 自主防災組織、呉市防災リーダー、呉市消防団などが連携した事業の推進
関係団体などが連携した地域防災訓練など
- (3) 呉市市民協働センターの効率的な運用の検討

施策④ 多文化共生社会の実現



SDGs 目標No. : 10, 17

施策の方向

国籍に関わらず共に安心して暮らすことができるよう、市政や防災情報等の広報媒体の多言語化等に取り組むとともに、相談体制を充実します。また、呉市国際交流協会等の関係団体やボランティア等と連携した地域と触れ合える機会の創出により、互いの文化や考え方の違いを理解し、ともに安心して暮らせるまちづくりを推進します。

主な取組

- (1) 外国人住民が安心して暮らせる環境づくり
多言語による生活ガイドブックやパンフレットの作成，SNSを活用した多言語及び「やさしい日本語」による迅速な情報発信，外国人相談窓口体制の強化・充実など
- (2) 多文化共生社会の実現に向けた意識啓発
異文化理解を深めるための講座の実施，異文化交流イベント等の開催など
- (3) 外国人住民の社会参画の促進
地域日本語教室・やさしい日本語講座等の開催，祭り等の地域行事に外国人住民が参画しやすい地域づくりなど

指 標

| 項目 | 現 状 | | 目 標 | |
|---------------------|-----|--|-----|--|
| 地域活動に参加している市民の割合 | | | | |
| 多文化共生イベント等の参加者数（年間） | | | | |

政策分野3：市民生活・防災分野

2 安全・安心な生活の確保

現状・課題

- 悪質商法やインターネット取引のトラブルなど、多様化・巧妙化する消費者トラブルが増加しています。また、令和4年（2022年）に成年年齢が引き下げられるため、今後若年層の被害が増える懸念があります。
- 市内の犯罪認知件数は近年増加傾向にある一方、「自分は被害に遭わない」と考えている人も多くいます。振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺などに対する意識の高揚を図るとともに、地域の防犯力を高めることが求められています。
- 自転車や高齢者が関係する交通事故の件数が多くなっています。地域が一丸となって交通安全意識の高揚や交通マナーの向上を図るとともに、安全で円滑な交通環境の確保を行う必要があります。

施策①

安全で安心な消費生活の環境づくり



SDGs 目標No.：4, 10, 12, 16

施策の方向

安全・安心な消費生活を確保できるよう、相談体制を充実し、若年層を始めとする幅広い世代に向けて消費者教育を整えるとともに、警察や弁護士会、呉市消費者協議会などと連携した高齢者等見守りネットワークづくりを進め、消費者トラブルから市民を守る消費者支援の充実に取り組みます。

主な取組

- (1) 消費者被害の未然防止と救済
消費生活相談、法律相談、多重債務相談、高齢者等見守りネットワーク事業など
- (2) 消費者の自立支援と消費者団体の活動支援
呉市消費者協議会の事業を支援、消費生活展など
- (3) 消費者教育・啓発の推進
消費者啓発講座、消費生活セミナー、消費生活の情報提供など

施策② 防犯対策等の推進



SDGs ゴールNo. : 11

施策の方向

警察や呉市防犯連合会，自治会等の関係機関・団体と連携し，多様化する犯罪に関する情報共有や防犯活動を推進するとともに，啓発活動を通じて市民の防犯意識を高めます。

また，犯罪による被害を受けた人やその家族の支援を推進します。

主な取組

- (1) 防犯意識の啓発
防犯パトロールの実施，広報・回覧・ホームページ等による防犯意識の普及啓発など
- (2) 自主的な防犯活動の支援
防犯情報の発信，防犯ボランティアの交流推進，自治会等によるLED防犯灯，防犯カメラの設置への支援など
- (3) 犯罪被害者等の支援
見舞金の支給，人権相談など

施策③ 交通安全対策の推進



SDGs ゴールNo. : 3, 11

施策の方向

警察や呉市交通安全推進協議会，自治会等の関係機関・団体と連携し，市民の交通安全意識の向上を図るための取組を推進します。

また，ガードレールなど交通安全施設の整備や放置自転車の撤去など，安全な通行空間の確保を図ります。

主な取組

- (1) 子ども・高齢者への指導・啓発の充実
就学前の子ども及び新入学児童への交通安全指導の充実・強化，高齢者を対象とした交通安全啓発事業への取組など
- (2) 放置自転車等の対策
- (3) 交通安全施設等の整備
交通安全施設・道路照明施設の整備など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|----------------------------|-----|--|-----|--|
| 消費生活，防犯，交通安全に関する行政サービスの満足度 | | | | |
| 市内特殊詐欺被害件数・被害額（年間） | | | | |

政策分野 3 : 市民生活・防災分野

3 人権尊重と男女共同参画の推進

- 現状・課題**
- インターネットなどの匿名性を悪用した人権侵害が発生しています。人権についての正しい理解と認識を浸透させていく必要があります。
 - 呉市民意識調査では、家庭生活、子育て、就職や職場などの分野で、男性の方が優遇されていると感じるという結果が出ています。女性の活躍を更に推進する必要があります。

施策① 人権尊重のまちづくりの推進

SDGs ゴールNo. : 4, 10

施策の方向 人権擁護関連団体と連携しながら、人権教育・啓発活動の充実を図るとともに、地域交流の拠点となる隣保館の更なる活用に取り組み、障害の有無や性別、国籍に関わらず、全ての人々の基本的人権が尊重されるまちづくりを推進します。

- 主な取組**
- (1) 人権教育・啓発の推進
人権研修や講演会、児童・生徒の「人権啓発ポスター・絵画展」の開催など
 - (2) 隣保館の管理・運営
相談事業、啓発広報活動など

施策② 男女共同参画社会の実現

SDGs ゴールNo. : 4, 5

施策の方向 セミナー等の学びの場を提供すること等を通じて、男女が平等に家事や育児を行うという意識を醸成します。また、地域、地元企業等と連携し、男性も女性も活躍する場を、仕事や家庭、地域に広げるとともに、仕事と生活の調和の実現に向けた取組を進めていきます。

主な取組

- (1) 男女共同参画に対する意識の向上
男女共同参画週間事業，くれ男女共同参画セミナーなど
- (2) 社会活動や意思決定過程への男女共同参画の促進
企業の人権研修時等に情報提供，女性団体・グループへの情報提供など
- (3) 仕事と生活をバランスよく送れる環境づくり
男女共同参画週間事業，ファミリー・サポート・センター事業など
- (4) 男女の人権を尊重し，安心して暮らせる環境づくり
DV防止に向けた教育・啓発の推進や講演会の開催，母子保健対策の充実など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-----------------------|-----|--|-----|--|
| 差別をなくすべきであると考えている人の割合 | | | | |
| 女性の管理職がいる事業所の割合 | | | | |

政策分野3：市民生活・防災分野

4 防災・減災に向けた体制の強化

現状・課題

- 平成30年7月豪雨災害時には、多くの市民が避難指示後も避難行動を起こしませんでした。そのため、市民に対して確実かつ迅速に情報を伝える仕組みの充実や避難所の在り方の見直しなど、避難環境の質的向上を図り、避難の実効性を高める必要があります。
- 高齢化や過疎化の進行により、災害時における共助の役割が一層重要になっています。自主防災組織の活動を担う人材の確保・育成・活用、自主防災組織同士の協力体制の構築などにより、地域の防災力を高める必要があります。
- 呉市では、昭和20年（1945年）の枕崎台風や昭和42年（1967年）7月の豪雨、そして平成30年7月豪雨災害など、多くの災害が発生しました。幾度にわたる災害の経験や記憶を貴重な財産として、風化を防ぎ、次世代に継承していく必要があります。

施策①

防災力の向上



SDGs ゴールNo. : 11, 13

施策の方向

避難に関する情報の伝達方法や、避難行動への協力体制の構築、避難所の配置・運営方法などの見直しや強化など、市民が自らの命を守るための取組を推進します。併せて、市や地域団体、企業等のそれぞれが、主体的かつ互いの協力体制を強化することにより防災意識を高め、地域の防災力の向上を図ります。

主な取組

- (1) 情報伝達方法の見直しと情報の充実
防災情報メール配信サービスの運営、一斉電話伝達サービス、防災行政無線等整備など
- (2) 避難行動の喚起
ハザードマップの配布、避難の手引きの配布、要配慮者の避難支援など
- (3) 避難所の在り方の見直し
避難所設備の改善、災害関連物資確保の取組、市以外が開設する避難所活用など

- (4) 各主体における防災力の向上
 自主防災組織の結成，防災リーダーの育成など

施策② 災害の教訓の継承



SDGs 目標No.：11, 13

施策の方向

今後の災害への備えや市民の命を守る地域づくりにつなげるため，過去の災害の経験や記憶を時間の経過とともに風化させることなく教訓として未来への継承に取り組みます。

主な取組

- (1) 防災意識の向上と市内外への情報発信
 平成30年7月豪雨災害記録誌を活用した啓発，防災教育の実施，災害遺構の保存（石碑，説明板の設置など），復興ツーリズムなど

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|------------------------------|-----|--|-----|--|
| 防災意識の向上度 （災害対策をしている市民の割合） | | | | |
| 自主防災組織活動カバー率（年間） | | | | |

政策分野 3 : 市民生活・防災分野

5 消防・救急機能の強化

- 現状・課題**
- 火災件数は減少傾向にある一方、局地的な集中豪雨や大型台風、巨大地震など自然災害による被害や、二次災害となる火災等の危険性が増しています。
 - 高齢化が進むにつれ、高齢者特有の持病の悪化や転倒による負傷に係る救急要請が増加しています。

施策① 消防・救急・救助体制の整備



SDGs ゴールNo. : 11, 13

施策の方向 火災を未然に防ぐための立入検査の強化を始め、専門性の高い救急・救助隊員の育成や消防資機材の充実など消防力の強化を目指すとともに、地域防災力向上のため消防団との連携強化を図り、市民が安心して暮らすことができる環境を整えます。

- 主な取組**
- (1) 消防力の充実
危険物施設の安全対策の推進、消防団の充実強化、消防資機材の充実、消防施設の整備など
 - (2) 救急・救助体制の強化
救急・救助隊員の育成、災害対応力の強化、救急・救護に関する講習等の充実など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|---------------|-----|--|-----|--|
| 火災件数（年間） | | | | |
| 市民による救命処置の実施率 | | | | |

政策分野 3 : 市民生活・防災分野

6 国内外との多様な交流機会の充実

- 現状・課題**
- 市内に住む外国人住民の増加や、企業活動のグローバル化など、日常生活での世界との関わりが増えています。様々な国・地域との交流の推進を通して、互いの文化や価値への理解を深める必要があります。
 - 市政に関する情報については、ホームページや広報誌など様々な媒体を通じて情報を発信しています。今後、性別や世代、時期、場面等によって必要とされる情報を効果的かつ速やかに届けるための環境整備を行う必要があります。
 - より多くの人に呉の魅力を周知するために、呉市公式キャラクター「呉氏」を活用し、更に積極的・継続的なPRを行っていく必要があります。

施策① 市民と国内外の人々との交流の促進



SDGs ゴールNo. : 17

施策の方向 姉妹都市・友好都市との交流を始め、教育・観光・スポーツなど幅広い分野での交流を創出するとともに、市民、企業、民間団体等の交流活動を支援します。

- 主な取組**
- (1) 姉妹都市・友好都市等との交流促進
交換学生事業、スポーツ交流事業、オンライン交流事業など
 - (2) 海外都市等の交流推進
文化交流事業、行政交流事業など

施策② 戦略的な広報・広聴の推進



SDGs ゴールNo. : 17

施策の方向 様々な視点から収集・分析したデータを把握し、ターゲット（対象者）を絞った情報提供や、庁内の広報体制の強化等戦略的な広報・広聴を推進していきます。

- 主な取組**
- (1) 市民への情報発信に関する調査と必要な広報・広聴ツールの整備
 - (2) 市内の広報体制の強化
 広報アドバイザーの導入など

施策③ 呉の魅力発信



SDGs ゴールNo.：4，17

施策の方向

観光分野を始め，福祉・教育分野など様々な分野におけるプロモーションに「呉氏」を活用し，政策認知度の向上を図ります。また，呉ファンクラブの取組を充実することにより，更なる呉の魅力発信に取り組みます。

- 主な取組**
- (1) 「呉氏」を活用したプロモーションの展開
 市内外でのイベント出演やオンライン配信，SNSによる情報発信など
 - (2) 呉ファンクラブの機能強化
 ファンクラブ会員増加の推進，交流会の開催など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-------------|-----|--|-----|--|
| 呉の認知度（全国順位） | | | | |

政策分野4：文化・スポーツ・生涯学習分野

1 文化の振興

現状・課題

- 価値観の多様化や余暇の拡大などを背景に、心の豊かさを求める人が増える中、日常生活に潤いをもたらす、人と人との交流を生む文化芸術の役割は重要性を増しています。市民が日常的に文化芸術に触れることのできる機会の創出や、多様な市民の文化芸術活動を育む環境をつくることが求められています。
- 文化財や伝統文化は、地域のアイデンティティを形成するものとして重要性を増しています。市民が郷土の歴史や文化に対する理解を深めるとともに、地域全体で保存・活用を推進し、次世代に継承していくことが求められています。

施策①

文化芸術の振興



SDGs ゴールNo. : 4, 17

施策の方向

拠点文化施設等における優れた文化芸術の公演や、市民文化団体の活動支援を行うなど、市民の文化芸術に対する関心の向上と鑑賞・体験機会の充実を図ることで、魅力ある文化芸術がまちにあふれ、文化芸術が市民生活に潤いをもたらす環境を整えていきます。また、デジタルアーカイブを構築・活用することで、オンラインで文化芸術に親しめる機会の創出にも取り組みます。

主な取組

- (1) 質の高い文化芸術に触れる機会の拡充
美術館での展覧会、文化ホールでのコンサート、シビックモール潤いコンサートなど
- (2) 市民の文化芸術活動への支援
文化団体連合会への支援など
- (3) 拠点文化施設の適切な維持管理と機能充実
美術館・文化ホールの適切な維持管理、施設整備、機能充実

施策② 文化財の保存・活用



SDGs ゴールNo.：4, 11, 17

施策の方向

文化財保存活用地域計画を策定し、これに基づいて、郷土の歴史や文化を学ぶことのできる文化財や伝統文化を貴重な地域資源として適切に保存し、途切れることなく継承していきます。併せて、市民、民間団体等と連携し、地域の歴史的魅力である日本遺産やユネスコ『世界の記憶』などを積極的に情報発信することで、文化財の適切な保存と積極的な活用による地域の活性化を図ります。

主な取組

- (1) 文化財保存活用地域計画の策定
- (2) 文化財の保存と伝統文化の継承
文化財の調査、指定、保存整備、学校教育での学習機会の充実、民俗芸能を継承する地域活動への支援など
- (3) 文化財を活用した地域振興
日本遺産、ユネスコ『世界の記憶』等の積極的な情報発信など
- (4) 御手洗伝統的建造物群保存地区のブラッシュアップ
- (5) 歴史資料の整理・活用の推進

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|------------------------------------|-----|--|-----|--|
| 文化芸術(音楽, 演劇, 絵画等)を鑑賞した市民の割合(年1回以上) | | | | |
| 文化施設の来館者数(年間) | | | | |

政策分野4：文化・スポーツ・生涯学習分野

2 スポーツの振興

現状・課題

- 健康意識の高まりや余暇の過ごし方の変化に伴い、スポーツに対する市民ニーズが多様化しています。一人ひとりのライフスタイルやライフステージに応じたスポーツ活動に取り組める環境を整えていく必要があります。
- 娯楽の多様化により、子どもたちの興味や関心は広範囲に分散するとともに、少子化によって子どもの競技人口は減少傾向にあります。競技スポーツを振興していくため、未来を担うトップアスリート人材の発掘や育成を行っていく必要があります。
- 老朽化したスポーツ施設の設備やトレーニング機器等は、利用者のニーズに十分に対応できない状況にあります。施設を快適に利用できるよう、設備や機能の充実を図り、サービスの向上に取り組む必要があります。

施策①

ライフステージに応じたスポーツ活動の推進



SDGs ゴールNo.：3，4，17

施策の方向

一人ひとりのニーズやライフステージに応じて、誰もが目的に応じたスポーツに取り組める機会を創出するため、大学や総合型地域スポーツクラブ*等との連携を強化し、指導者の確保・育成に取り組みます。

トップアスリートとの連携により、子どものスポーツ活動環境の充実を図り、ジュニアスポーツの活性化を推進します。

※ 従来の単一種目型、一定の年齢層を対象としたスポーツクラブと異なり、複数の種目において子どもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する人が参加できる、自主運営の会員制スポーツクラブ

主な取組

- (1) 生涯スポーツの推進
生涯スポーツ・健康づくりの機会の創出，参加しやすい講習・研修会の開催など
- (2) 総合型地域スポーツクラブ等との連携強化・機能充実
各種大会・教室の開催，スポーツ推進委員による適切な指導・助言，各種スポーツ指導者の養成・確保支援など

(3) ジュニアスポーツの活性化

トップス広島※等に所属するトップアスリート等による体育授業，運動部活動等での講話・専門的な実技指導など

※ 広島県に拠点を置くプロスポーツ団体や全国トップレベルの実業団スポーツクラブが連携して広島のスポーツを盛り上げるため，設立したNPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク

施策② 競技スポーツの振興



SDGs ゴールNo.：4，17

施策の方向

大学が有する専門知識や先端技術，トップアスリート人材を活用することで，より効果的な児童・生徒のスポーツ能力の向上に取り組めます。

様々なスポーツ大会等を誘致し，トップレベルのスポーツに触れる機会を充実することで，その魅力を伝え，競技人口の増加を図ります。

主な取組

- (1) トップアスリートの計画的育成
子ども及び指導者の大学合宿への派遣，中学校運動部活動への講師招へいによる技術指導など
- (2) 「観る」機会の充実
プロ野球，バレーボールVプレミアリーグ及びプロバスケットボールBリーグの試合誘致など

施策③ スポーツ環境の整備



SDGs ゴールNo.：4

施策の方向

呉市公共施設等総合管理計画に基づき，施設の特性和地域の実情，利用実態等を踏まえ，利用者のニーズに応じた設備の整備と機能の充実によるサービスの向上に取り組めます。

公益財団法人呉市体育振興財団等のスポーツ団体と連携した魅力的なスポーツイベントなどを開催するとともに，気軽に情報を得ることができる呉市のスポーツ情報ポータルサイトの開設など総合的な情報発信にも取り組めます。

また、若者に人気のあるアーバンスポーツ※の環境整備にも取り組めます。

※ BMX（Bicycle Motocrossの略で自転車競技の一種）やスケートボード、3×3バスケットボール、ブレイクダンスなどの都市型スポーツ

主な取組

- (1) 施設の計画的整備
- (2) スポーツイベントの開催・情報発信
スポーツ情報ポータルサイトの開設など
- (3) 競技団体の活性化
競技団体への支援など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-----------------------------|-----|--|-----|--|
| スポーツを定期的（週1回以上） に行う市民の割合 | | | | |
| 全国大会出場者数（年間） | | | | |

政策分野4：文化・スポーツ・生涯学習分野

3 生涯学習の推進

- 現状・課題**
- 価値観の多様化や働き方の変化などに伴い、学習に対するニーズも多様化しています。市民一人ひとりが生涯にわたり、心豊かで生き生きと生活することができるよう、それぞれのニーズに応じた自主的な学びの場を提供していく必要があります。
 - 地域コミュニティの希薄化や家庭を取り巻く環境が変化する中、社会教育が果たす役割は、これまで以上に重要になっています。社会教育環境を充実させるため、多様な主体との連携強化や、情報化社会の進展等に伴い多様化する学習ニーズへの対応が求められています。

施策① 生涯にわたる学びの支援と社会教育の振興

SDGs ゴールNo. : 4, 17

- 施策の方向**
- 市民の生涯にわたる学びを支援するため、生涯学習センター等における市民一人ひとりの学習ニーズに合わせた講座の開催や、自主サークル活動の支援、リカレント教育*を促進することで、一人ひとりの学ぶ意欲を満たし、誰もが生涯にわたって自ら学び、生き生きと活動することができる環境を整えます。
- また、社会教育活動に取り組む団体に対し支援を行うとともに、未来を担う人材の健全育成に関する取組を通じて、社会全体の教育力の向上を図り、健全で明るい社会を実現します。

※ 社会人になってからも、学校などの教育機関に戻り、学習し、また社会へ出ていくということを生涯続けることができる教育システム

- 主な取組**
- (1) 生涯学習推進体制の充実
生涯学習センター等での講座開設など
 - (2) 市民の生涯学習・社会教育活動への支援
自主サークル活動や社会教育団体等への支援など
 - (3) リカレント教育の普及・啓発
 - (4) 家庭における教育力の向上と青少年の健全育成
「『親の力』をまなびあう学習プログラム」*を活用した講座の実施など

(5) 図書館の充実

電子図書館サービスの導入など図書館機能の充実・向上による快適な読書環境の提供など

※ 広島県が開発した家庭の教育力向上を目的とした参加体験型の学習プログラム（通称「親プロ」）

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|----------------------------------|-----|--|-----|--|
| 生涯学習センター等が実施する講座（定期・短期）の受講者数（年間） | | | | |
| 図書館の図書貸出冊数（年間） | | | | |

政策分野 5 : 産業分野

1 地域産業の発展・チャレンジ環境の整備

現状・課題

- 中小企業・小規模企業を取り巻く環境は、少子高齢化や人口減少による人手不足や経営者の高齢化、市場の縮小や人口構成比の変化に伴うニーズの変化とともに、インターネット取引の増加、海外との競争激化、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止発表や新型コロナウイルス感染症などの影響で非常に厳しい状況にあります。
- 地域産業の活性化に向け、創業・起業などを志す女性や若者をはじめ、あらゆる人の新たなチャレンジに対し地域全体で応援する環境を整える必要があります。
- 空き店舗や空きビル等の遊休不動産が増加し、商店街等の地域商業の活力が低下しています。

施策①

中小企業・小規模企業の支援



SDGs ゴールNo. : 8, 9, 17

施策の方向

呉市中小企業・小規模企業振興基本条例に基づき、市民、金融機関等と連携・協力して地域全体で支援し、自助努力と創意工夫あふれる中小企業・小規模企業が育ち、飛躍することで、地域経済の活性化を図り、まさにイノベーションが起こるよう取り組みます。

公益財団法人くれ産業振興センターを通じ、創業期・事業拡大期・事業承継期という、企業のそれぞれのステージに応じ、商品・サービス開発、技術向上、資金繰り、財務人事等の経営基盤強化等、各種の相談・支援について、すべての業種を対象に行っていきます。

また、事業者自らが戦略的な視点に立ち企業経営を行い、成長産業へも参入していけるよう、セミナー・研修会等による人材育成を図るとともに、異業種交流会の開催など、人的ネットワークの構築を進め、イノベーションが生まれやすい地域づくりに努めます。

主な取組

(1) 中小企業・小規模企業の振興

中小企業・小規模企業への専門家による助言等、経営革新等への支援、中小企業・小規模企業振興会議に基づく新たな施策の検討

- (2) 金融支援の充実
呉市中小企業融資制度，セーフティネット保証の認定
- (3) 新事業・新製品開発，技術伝承・後継者育成支援事業
くれ産業振興センター等による新事業・新製品開発に対する支援や技術伝承・後継者育成に関する相談，次世代型ビジネスモデル支援サービス「B i t ’ s 呉」による効果的な支援プログラムの提供
- (4) くれ医工連携推進事業
医療・福祉，教育機関，企業，支援機関等との懇談会の開催
- (5) 経営力強化事業
物販事業の参加斡旋，国内外への販路拡大を目的とした商談機会の創出，販路拡大セミナーの開催，呉市産業マイスター表彰
- (6) 農水産業連携
農水産業者と連携した販路開拓・拡大への支援

施策② 新たなチャレンジへの支援



SDG s ゴールNo. : 8 , 17

施策の方向

女性や若者を始めとしたあらゆる人の新たなチャレンジに対して，市民，民間企業等と連携・協力して，地域全体で「呉であれば何かチャレンジができる」という創業気運の醸成と起業家の支援・育成を図り，「起業が起業を呼ぶ」サイクルを構築し，地域産業の活性化に取り組みます。

主な取組

- (1) 創業・起業支援事業
呉市が実施するクラウドファンディング型ふるさと納税により資金を調達する起業家支援プロジェクト，創業・起業支援ポータルサイトの開設，プラットフォームの構築
- (2) まちづくり人材育成事業
リノベーションまちづくりの促進

施策③ 商業の活性化



SDGs ゴールNo. : 8

施策の方向

遊休不動産を新しい方法で再生・活用するリノベーションを推進し、個性あふれる魅力的な店舗の出店を促進するとともに、路上空間の活用などにより既存店舗の活性化を促すことで、商店街の新たな魅力を創出し、ひいては、まちの価値の向上を図っていきます。

主な取組

- (1) 商店街振興事業
商店街のハード整備，各種イベント開催への支援
- (2) 官民連携まちづくり事業
遊休不動産を再生・活用するリノベーションまちづくり事業
やオープンスペースの活用

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-------------------------|-----|--|-----|--|
| 中小企業経営革新計画承認企業数 (累計) | | | | |
| 創業・起業者数※ (累計) | | | | |

※ 国の認定創業支援事業計画調査に対する呉商工会議所を始めとする経済団体，金融機関，支援機関の支援件数の合計であるため，重複があります。

政策分野 5 : 産業分野

2 企業誘致・雇用環境の整備

現状・課題

- 日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止発表や新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域の雇用に大きな影響が見込まれます。多様性のある産業構造への転換を図るため、製造業等に加えて、成長が見込まれる産業分野の企業やベンチャー企業などの誘致を促進するとともに、雇用対策に取り組む必要があります。
- 雇用のミスマッチ等により人材不足の問題が生じています。市内企業の存続と呉市経済の発展のためにも、必要な人材を確保していく必要があります。
- 高齢者や障害者の雇用促進や女性の社会進出など、労働に関する社会状況が大きく変化しています。勤労者一人ひとりが安心して働けるよう、福祉の増進を図っていく必要があります。

施策①

企業誘致・留置活動の推進



SDGs ゴールNo. : 9

施策の方向

地域経済が持続的に発展することができるよう、新たな成長産業やオンリーワン企業の誘致を推進するとともに、地元企業の企業留置や事業転換・拡大に伴う設備投資に対する支援などを行い、雇用機会の創出を図ります。

新型コロナウイルス感染症に対応したテレワークやワーケーションへの関心の高まりなど、働き方や生活様式に対する社会の変化にも応じたサテライトオフィスなどの誘致についても積極的に取り組みます。

主な取組

- (1) 事業用地の確保
民間遊休地等の活用，新たな産業団地の検討
- (2) 企業誘致・留置対策
トップセールス等の積極的・効果的な企業誘致，大規模設備投資に対する助成
- (3) 新しい生活様式に対応した企業誘致
サテライトオフィスの誘致

施策② 雇用機会の創出



SDGs ゴールNo. : 8

施策の方向

市内企業と就業希望者の適切なマッチングを効率的に行うことで、必要な人材を確保するとともに、呉市雇用促進協議会により高校生等に対する呉の産業PRを行うなど、新たな雇用の創出につなげます。

日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止発表や新型コロナウイルス感染症の影響による雇用対策についても、広島県やハローワーク等の関係機関と連携して取り組みます。

主な取組

- (1) 呉市雇用促進協議会事業
企業情報の発信、小中学校の児童・生徒による企業見学、広島広域都市圏UIJターン促進協議会事業でのPRなど
- (2) 呉市シルバー人材センター運営支援
シルバー人材センターの運営に対する支援
- (3) 日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区休止への対策
雇用マッチング・ビジネスマッチング・ビジネスモデル転換支援事業など

施策③ 勤労者福祉の充実



SDGs ゴールNo. : 8

施策の方向

一般財団法人くれ勤労者福祉サービスセンターや、呉市きんろうプラザを活用した福利厚生事業を展開することにより、それぞれの状況に応じた勤労者福祉の充実を図ります。

主な取組

- (1) 福利厚生への推進
呉市きんろうプラザの管理運営、くれ勤労者福祉サービスセンターによる福利厚生事業、呉市が金融機関に資金を預託し、金融機関が生活資金を勤労者に低金利で融資

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-------------------|-----|--|-----|--|
| 企業立地助成制度活用企業数（累計） | | | | |
| 雇用促進事業による就職者数（年間） | | | | |

政策分野5：産業分野

3 観光の振興

観光振興計画の策定状況に合わせて適宜修正します。

現状・課題

- 呉市の観光は、大和ミュージアムを目的に来訪する通過型観光となっています。観光客の市内回遊性向上による滞在時間の延伸を図り、観光消費額を押し上げることで観光を基幹産業として成長させていく必要があります。
- 市内最大の集客施設である大和ミュージアムは開館15年が経過し、施設・設備の経年劣化が進んでいます。施設等の整備とともに、新たな魅力創出に取り組む必要があります。

施策①

観光振興策の展開



SDGs ゴールNo. : 8, 12

施策の方向

様々な人が観光を産業と捉え、それぞれが役割を担い、協力して持続可能な観光振興を推進できるよう、市民、事業者、観光協会、市役所等が一体となった観光推進体制を構築し、呉市全体で観光振興に取り組んでいきます。また、新型コロナウイルス渦における新しい生活様式に対応した観光スタイルの確立についても取り組んでいきます。

呉市の観光に関するデータを調査・分析し、活用することで、より効果的・効率的・戦略的な視点に立った観光振興施策を展開するとともに、観光客のニーズに応じた付加価値の高いサービスの提供による観光産業の質の向上、呉市の特性を活用した魅力的な観光資源の創出により、観光を基幹産業のひとつに発展させます。

大和ミュージアムについては、施設・設備の改修、大規模な展示更新等によるリニューアルを行うとともに、周辺施設との連携等を図り、呉市最大の集客施設としての魅力向上と博物館としての機能強化を図ります。

主な取組

- (1) 観光推進体制の充実
- (2) マーケティングに基づく戦略的な観光振興
- (3) 観光産業の質的向上の継続による顧客獲得
- (4) 観光に関する市民意識の醸成

政策分野5：産業分野

- (5) 魅力的な観光資源の創出
上記取組を令和3年度に策定する観光振興計画に基づき検討
- (6) 大和ミュージアムの魅力向上事業
大和ミュージアムの施設や設備の改修，大規模な展示更新等によるリニューアル

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-----------|-----|--|-----|--|
| 観光消費額（年間） | | | | |

政策分野 5 : 産業分野

4 農水産業の振興

現状・課題

- 農業・漁業は、作業環境の厳しさや不安定な収入などから従事者が年々減少しています。また、天候など様々な要因による価格の低迷や資源の減少などに大きく影響を受けることから安定経営が難しい傾向にあります。
- 国内有数の生産量を誇る農水産物があるにも関わらず、それらを農業者・漁業者の所得向上に生かし切れていない状況にあります。
- もうかる農水産業への転換を図るため、農水産物の安定的な供給体制を整えるとともに、品質や付加価値を高めることによるブランド化と販路の拡大及び6次産業化・農商工連携を推進する必要があります。
- 農業の生産性向上のため、農道等の農業基盤の整備を行い、効率的な農業経営を図る必要があります。
- 豪雨時などに、管理が行き届かなくなった農業用ため池を要因とした被害が拡大する恐れがあります。
- 雨に脆弱な地質的・地形的特性から市民の安全・安心な生活環境を確保するため、治山事業や森林整備などを計画的に実施する必要があります。
- 有害鳥獣による被害や遊休農地の増加は、農村環境の保全にも影響を及ぼしています。国土の保全や水源の涵養、自然環境の保全など、多面的な役割を果たしている農業を維持していく必要があります。
- 地球温暖化に伴う海水温の上昇による海藻の立ち枯れや沿岸域の開発などにより、天然の藻場・干潟が減り水産資源が減少しています。豊かな海を取り戻すために、適切な資源保護、漁場環境の改善が求められています。

施策①

農業・漁業経営体の確保・育成・強化



SDGs ゴールNo. : 2, 8

施策の方向

新規就業の前後から定着に至るまで、きめ細やかな支援に取り組むことで、新規就業者の確保・育成を図るなど、多様な担い手の確保に取り組めます。

また、経営規模の拡大に向けた法人化を促進するとともに、農業委員会、農業協同組合、広島県等の関係機関との連携を強化して、担い手への農地集積の推進を図ります。

さらには、AIやIoTなどの先端技術を活用したスマート農業・水産業や、養殖漁業に取り組むなどの経営の多角化を支援することで、経営の持続的な発展を図ります。

主な取組

- (1) 多様な担い手の確保・育成
新規就農者・漁業就業者の総合支援、新規農業参入企業への支援など
- (2) 農業・漁業経営の安定化
養殖漁業・水産加工業等への参入推進など
- (3) 農地集積の推進
- (4) スマート農業・水産業の推進
先端技術を活用した農業・水産業への支援

施策②

農水産物のブランド化・販路拡大・流通



SDGs ゴールNo. : 2

施策の方向

生産者、農業協同組合・漁業協同組合、地域の商工業者等が連携して、市場への流通、アンテナショップ、インターネットなどの多様な販売チャンネルを活用したPRや販路の開拓・拡大とともに、品質や付加価値の向上による国内有数の生産量を誇るレモン・牡蠣等の農水産物のブランド化等を推進します。

また、産直市の開催や学校給食等への呉市産食材の提供などにより地産地消を推進し、地元での呉産品の魅力を向上します。

主な取組

- (1) 産地育成・農水産物のブランド化の推進
フルーツ等特産物の生産拡大、6次産業化・農商工連携など
- (2) 農水産物のPR推進、販路拡大支援
首都圏でのPR、インターネット等を活用した販路拡大への支援など
- (3) 地産地消の推進
産直市の開催、学校給食への呉市産食材の提供など
- (4) 地方卸売市場の運営

施策③

農業生産基盤の整備・保全



SDGs 目標No. : 2, 9

施策の方向

生産性の向上と経営規模の拡大等を図るため、農地や農道等の農業生産基盤の整備・保全を推進するとともに、防災・減災対策として、農業用ため池の管理体制の確保や不用なため池の廃止など適正な管理を促進します。

また、農業が有する多面的機能の維持・保全を図るため、農村環境維持・保全に取り組む団体等への支援や、効果的な有害鳥獣被害対策を実施します。

さらには、グリーンヒル郷原を始めとする農業振興施設の機能充実を図るとともに、農業体験イベント等の実施により市民に対する農業のPR（啓発）とふれあいの場の創出を図ります。

主な取組

- (1) 農業生産基盤の整備・保全
生産性向上を図るための農地整備，農業用施設の安全性確保・機能維持に向けた計画的な管理など
- (2) 農業用ため池の適正な管理
管理体制の確保，不用となった防災重点ため池の廃止，防災重点ため池のハザードマップ作成・公表など
- (3) 農村環境の保全
農村環境維持・保全に取り組む団体等に対する支援など
- (4) 有害鳥獣被害対策の充実
防護柵設置助成，狩猟免許取得助成，ジビエの活用など
- (5) 農業振興施設の活用
グリーンヒル郷原の改修・整備，農業体験機会の提供など

施策④

豊かな森林の形成



SDGs 目標No. : 6, 11, 15

施策の方向

被災山地の早期復旧を進めるとともに、山地災害の発生を防ぐため、計画的な治山事業を促進します。

また、人工林の間伐や天然林・林道の整備を推進するとともに森林経営管理制度に基づく私有林の整備を推進し、災害に強い豊かな森林の形成を図ります。

- 主な取組**
- (1) 山地災害の防止
計画的な治山事業の促進，小規模崩壊地復旧事業の推進など
 - (2) 適切な森林管理
人工林の間伐，天然林の整備，林道の適切な維持管理，森林環境譲与税を活用した私有林に対する森林整備など

施策⑤ 漁業生産基盤の整備・保全



SDGs ゴールNo. : 14

施策の方向 魚礁等による藻場の整備や栽培漁業を推進するとともに，海底堆積物の除去等を行うことにより漁場環境を維持・修復し，水産資源の確保を図ります。

- 主な取組**
- (1) 水産資源の確保・増大
藻場造成，栽培漁業の支援など
 - (2) 漁場環境の整備・保全
藻場造成，海底堆積物の除去，漁場の持つ公益的機能の啓発による市民と共同した漁業環境の維持・保全など
 - (3) 漁港施設の整備
老朽化した漁港施設の計画的改修など
 - (4) 漁港施設の維持管理

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-------------------------|-----|--|-----|--|
| 新たな農業法人の設立・参入件数 (累計) | | | | |
| 新たな養殖漁業等への取組件数 (累計) | | | | |
| 有害鳥獣による農作物の被害面積 (年間) | | | | |

政策分野 6 : 都市基盤分野

1 安心して住み続けられるまちづくりの推進

- 現状・課題**
- 急速な人口減少が進み、これまで一定の人口集積により支えられてきた医療や商業等の生活サービスの提供や持続可能な都市経営が、困難になることが想定されています。都市全体の構造を見直し、人口減少に対応したまちづくりを行う必要があります。
 - 人口が減少し空き家が増加しています。空き家の適正な管理、定住・移住の促進、多様な居住スタイルに対応した住み替えの促進など、魅力ある住環境の確保とともに、大規模災害に備えた防災対策等の推進・強化が求められています。

施策① コンパクトシティの推進

SDGs ゴールNo. : 11

- 施策の方向**
- 誰もが安心して住み続けられる魅力あふれるまちを実現するため、呉市立地適正化計画に基づき商業・医療・福祉施設や住宅など、市民の暮らしを支える都市機能と居住機能の誘導等により、一定の人口密度を維持し、地域に必要な生活サービス施設や地域コミュニティの確保を図ります。
- また、Society5.0が目指す未来のまちの姿を先行的に具現化し、歩いて暮らすことができるまちなか居住を誘導するコンパクトシティ形成の核として、呉駅周辺地域総合開発を推進しコンパクトで持続可能なまちを目指します。

- 主な取組**
- (1) 立地適正化計画による誘導施策の推進
都市計画制度を活用した土地の高度利用化、低未利用土地の活用の検討など
 - (2) 呉駅周辺地域総合開発の推進
そごう跡地の開発・駅前広場の改良、アーバンデザインセンターの設立、JR呉駅の橋上駅化する推進、JR呉駅を中心とした周辺開発の誘導など

施策②

質の高い住環境の推進



SDGs ゴールNo. : 11

施策の方向

木造住宅の耐震化や危険建物の除去などを促進するとともに、アーバンデザインセンターの活用による市民、企業、教育・研究機関等と連携したまちづくりを推進します。

また、空き家の利活用や住宅取得の支援などを推進し、定住・移住の促進につなげるとともに、緊急輸送道路や避難路の沿道にある建築物の耐震化など大規模災害に備えた防災対策の推進などにより、誰もが安心して暮らすことができる質の高い住環境の整備を推進します。

主な取組

- (1) 良質な住宅ストックの形成
木造住宅の耐震診断や耐震改修への助成，危険建物の除去に対する助成など
- (2) 公・民・学の連携によるまちづくりの推進
市民参加による継続的なまちづくりを行うアーバンデザインセンターの設立
- (3) 魅力ある住環境の確保
空き家バンク等による空き家の利活用の促進，市営住宅の適切な維持管理，定住・移住希望者の住宅取得支援など
- (4) 防災まちづくりの推進
地震により倒壊した場合，広域緊急輸送道路を塞ぐ恐れのある建築物の耐震改修工事や除去に対する助成など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|--------------------------|-----|--|-----|--|
| 居住誘導区域内の人口密度 | | | | |
| コンパクトシティ形成の核となる総合交通拠点の整備 | | | | |

政策分野 6 : 都市基盤分野

2 移動しやすい交通環境の形成

- 現状・課題**
- 将来の自動運転社会を見据えた、新たなモビリティサービスの活用により、移動課題の解決や地域の活性化に向けた取組に挑戦していくことが求められています。
 - 人口減少に伴う利用者の減少により公共交通の維持・確保は困難さが増している一方で、高齢化の進展に伴い高齢者等の移動手段の確保の重要性は高まっています。引き続き、利用しやすく持続可能な移動手段を目指して、公共交通の利便性向上の取組が求められています。

施策① スマートモビリティの推進


SDGs ゴールNo. : 11

- 施策の方向**
- 誰もが快適で効率的に移動できる交通環境を実現するため、呉駅周辺地域において次世代型総合交通拠点形成し、これを起点に、次世代モビリティやMaaSなど先端技術の先駆的実装を進め、交通まちづくりとスマートモビリティの推進を図ります。

- 主な取組**
- (1) 駅周辺地域総合交通拠点整備の推進

施策② 地域公共交通の維持・確保


SDGs ゴールNo. : 11

- 施策の方向**
- 全ての地域において、持続可能な地域旅客運送サービスの提供を確保するため、公共交通事業者等と連携して、先端技術等の活用とともに、地域の実情に応じた公共交通サービスの見直しや自家用有償旅客運送導入の検討など地域の輸送資源を有効に活用する取組を進めます。

- 主な取組**
- (1) 持続可能な地域旅客運送サービスの提供の確保
生活交通路線・生活航路の維持
 - (2) 公共交通の利便性の向上
バス乗換拠点の整備，JR呉線沿線駅のバリアフリー化など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|---------------------------|-----|--|-----|--|
| 公共交通利用者数（路線バス，生活交通・航路，鉄道） | | | | |
| 生活バスのバリアフリー化率 | | | | |

政策分野 6 : 都市基盤分野

3 道路の整備

- 現状・課題**
- 経済・社会のグローバル化が進む中，地域経済の活性化や交流人口の拡大等に寄与するとともに，近年激化している異常気象と自然災害に備えるため，高速道路ネットワークの機能強化を図る必要があります。
 - 近隣市町との連携を強化し，物流の効率化と交流人口の拡大等による地域経済の持続的発展と災害に強く住みやすいまちづくりを実現するため，放射環状型の道路網の整備や通学路における交通安全対策の推進などが求められています。
 - 市道は，地形的な特性から狭い箇所が多く，消防・救急活動などに支障を来す箇所もあるため，拡幅などの道路整備が必要となっています。また，災害発生時にも迅速・適切な初動対応を可能とするため，緊急輸送道路等の機能強化，橋りょう等の予防保全による老朽化対策を行う必要があります。

施策① 高速道路ネットワークの整備

SDGs ゴールNo. : 9, 11

施策の方向 地域産業の持続的な発展に寄与し，災害に強く，安全性・信頼性が高い高速道路ネットワークを構築するため，広島呉道路の4車線化や東広島・呉自動車道の機能強化等の促進を図ります。

- 主な取組**
- (1) 広島呉道路（クリアライン）4車線化
 - (2) 東広島・呉自動車道の整備促進
阿賀ICの立体化及びワイヤロープ設置など

施策② 国道・県道の整備



SDGs 目標No. : 9, 11

施策の方向

人流・物流を支え、災害に強い道路ネットワークを構築するとともに、幹線道路における交通事故の減少と安全を確保するため、放射環状型道路網を形成する国道・県道の整備促進や総合的な交通安全対策の推進を図ります。

主な取組

- (1) 人流・物流を支える道路ネットワークの整備
都市計画道路焼山押込線の早期整備など
- (2) 災害に強い道路ネットワークの整備
主要地方道呉平谷線（上二河～此原）の早期整備など
- (3) 総合的な交通安全対策の推進
通学路交通安全プログラムに基づく通学路の歩道整備など

施策③ 市道の整備



SDGs 目標No. : 11

施策の方向

生活環境の改善、通行の安全を確保するため、生活道路の計画的な整備を実施するとともに、災害発生時も安全・確実に活用できるよう、緊急輸送道路等の機能強化や橋りょう等の老朽化対策を実施します。

主な取組

- (1) 生活環境を改善し、安全を確保するための道路整備
- (2) 緊急輸送道路等の機能強化
緊急輸送道路等の橋りょうや跨道橋、跨線橋の耐震補強など
- (3) 適切な維持管理と予防保全による老朽化対策

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|------------------------|-----|--|-----|--|
| 呉市内の主要渋滞箇所における年間渋滞損失時間 | | | | |
| 老朽化した橋りょうの整備箇所（累計） | | | | |
| 老朽化した市道の舗装補修延長（累計） | | | | |

政策分野6：都市基盤分野

4 河川、砂防・急傾斜、高潮対策の推進

現状・課題

- 災害時でも人命の保護が最大限図られ、社会の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持される強靱な都市基盤を備えた安全で安心なまちを実現する必要があります。
- 平成30年7月豪雨の際には、多くの河川が氾濫し、大規模な浸水によって甚大な被害が発生しました。河川の拡幅による流下能力の向上など災害時の安全性を高める取組が必要です。
- 呉市は、地質的・地形的に雨に脆弱な特性から、過去の豪雨では土石流等が発生し多大な被害が生じてきました。市民の安全・安心な生活環境を確保するため、砂防事業などを計画的に実施する必要があります。
- 呉市は長い海岸線を有していることから、護岸・港湾等の海岸施設が多く、施設の老朽化や台風等に伴う高潮や波浪により損傷が生じるおそれのある箇所もあります。浸水被害のリスクを軽減する取組を継続して行う必要があります。

施策①

河川改修等の推進



SDGs ゴールNo. : 11

施策の方向

大雨災害による溢水の発生・拡大を防止するため、河道断面確保などの機能強化を進めるとともに、リアルタイムで状況を確認できる河川監視カメラの設置、学校での防災教育など情報発信の充実・強化により、市民の安全・安心な生活環境の確保を図ります。

主な取組

- (1) 河川改修事業
- (2) 適切な維持管理
河川管理施設（堤防、水門など）の点検・補修など

施策② 砂防・急傾斜対策の推進



SDGs 目標No. : 11

施策の方向

豪雨による土石流や急傾斜地の崩壊による災害を未然に防止する取組を進めるとともに、土砂災害警戒区域の指定等に関する情報発信などにより、市民の安全・安心な生活環境の確保を図ります。

主な取組

- (1) 砂防事業
- (2) 急傾斜地崩壊対策事業
- (3) 適切な維持管理
崩壊対策工事を実施した急傾斜地の維持補修

施策③ 高潮対策の推進



SDGs 目標No. : 9, 14, 15

施策の方向

台風・津波等の災害から生命・財産を守るため、消波ブロックの設置など海岸施設の計画的な整備・改修と適切な維持管理を行います。また、海岸清掃など適切な維持管理を行い、安全で魅力ある海岸づくりを推進します。

主な取組

- (1) 海岸事業（高潮・津波・耐震対策）
海岸保全施設（堤防、陸閘など）の整備など
- (2) 適切な維持管理
海岸保全施設（堤防、陸閘など）の長寿命化や海岸清掃など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|--------------------|-----|--|-----|--|
| 河川機能強化改修工事実施箇所（累計） | | | | |
| 急傾斜地崩壊対策工事実施箇所（累計） | | | | |
| 高潮（津波）防護達成人口率 | | | | |

政策分野 6 : 都市基盤分野

5 公園・にぎわい空間の創出

現状・課題

- 災害時に、避難場所など防災拠点としての役割を担うため、防災機能を備えた公園の整備が求められています。
- 各公園に設置されている遊具等の施設は経年劣化が進んでおり、安全性を確保するため補修・更新等を行う必要があります。
- まちのにぎわいづくりのための新たな手法として、道路・公園などの公共空間の利活用が注目されています。本来の公共目的のために設置された公共空間の利活用には様々な規制がありますが、地域のにぎわい創出に資するために、一定のルールに基づいた活用に取り組む必要があります。

施策① 公園の整備



SDGs 目標No. : 11

施策の方向

人口密度の高い中央地区の防災拠点や市役所本庁舎と一体となった防災中枢拠点として中央公園の整備を行います。

また、その他の公園も憩いの空間として、市民が安全・快適に利用できるよう遊具等を始めとする公園施設の維持・更新を行います。

主な取組

- (1) 防災中枢拠点である中央公園の機能強化
- (2) 魅力的で多様な機能を備えた公園整備
- (3) 適切な維持管理と計画的な遊具等の更新

施策② にぎわい空間の創出



SDGs 目標No. : 11

施策の方向

公共空間が持つ本来の目的を妨げないよう一定のルールのもとで、にぎわい創出の場として、道路・公園等の利活用を関係機関と協力して進めていきます。

また、呉ポートピアパークの有効活用について、民間事業者の意見を取り入れ、有効的な活用策を調査・検討します。

- 主な取組** (1) 公共空間を利活用したにぎわい空間の創出
 呉ポートピアパーク，狩留賀海浜公園などの管理・運営

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|------------------|-----|--|-----|--|
| 老朽化した遊具の整備箇所（累計） | | | | |
| 路上イベント等の件数（年間） | | | | |
| 公園イベント等の件数（年間） | | | | |

政策分野 6 : 都市基盤分野

6 港湾機能の充実・魅力向上

現状・課題

- 近年、トラックドライバー不足の深刻化に伴い国内物流を支える海上輸送の役割が注目されています。また、平成30年7月豪雨の際には、道路、鉄道などの機能が停止する中、緊急輸送手段として内航フェリー・RORO船が活躍するなど、港湾施設は経済活動を支える重要な役割を担っています。しかし、港湾施設の多くが耐用年数を迎えており、災害に強く安定した物流拠点の整備や維持管理などにかかる費用の増加等が懸念されています。
- 港湾には、産業・物流機能だけでなく、親水空間や防災拠点としての機能、更には広域的な交流拠点など多様な活用が期待されています。
- 放置艇は台風襲来時などに陸上へ乗り上げて、被害の拡大や復旧活動の妨げになるなど問題が生じる可能性があります。

施策①

港湾機能の充実



SDGs ゴールNo. : 9, 14

施策の方向

ストックマネジメントによる港湾施設の長寿命化の推進や物流拠点の整備など呉港の将来構想を検討するとともに、既存施設の適切な維持・管理や定期航路（RORO船）の誘致など、港湾施設の既存ストックを最大限生かした利便性の高い物流システムの構築を推進します。

主な取組

- (1) 物流拠点の整備
荷さばき地，上屋，起重機などの整備
- (2) 港湾施設の整備
係留施設（岸壁，栈橋など），防波堤などの整備
- (3) 港湾施設の維持管理

施策②

港湾機能の魅力向上



SDGs ゴールNo. : 11, 14, 15

施策の方向

災害発生時において、港湾機能が可能な限り発揮できるよう耐震岸壁を活用した呉港全体の災害体制の構築を進めるとともに、港と市街地が隣接した呉市の特性を生かした海の玄関口として、港湾緑地を活用した交流促進、クルーズ客船の誘致など広域的な交流によるにぎわいの創出など、港湾機能の魅力向上を図ります。また、災害発生時の放置艇による2次被害を防止するため、放置艇対策を推進します。

主な取組

- (1) 港湾機能の活用促進
港湾緑地の活用など
- (2) 安全・安心な環境の確保
呉港BCP訓練、船だまりの整備、既存ストックを活用したプレジャーボートの係留可能場所の確保による放置艇の解消
- (3) 他港との交流・連携
クルーズ客船の誘致など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|--------------------|-----|--|-----|--|
| 老朽化した港湾施設の整備箇所（累計） | | | | |
| 放置艇解消率 | | | | |

政策分野 6 : 都市基盤分野

7 上下水道の整備

- 現状・課題**
- 人口減少や節水意識の高まりなどを要因として水需要が減少し、収入の減少が見込まれます。こうした中、これまで整備した多くの水道施設・下水道施設の老朽化が進行しています。施設を計画的に改築・更新していく必要があります。
 - 近年多発している大雨による浸水被害を軽減するための重点的な取組が必要です。

施策① 安全で安心な水道水の供給



SDGs ゴールNo. : 6, 9

施策の方向 将来にわたって安全・安心で安定した水道サービスを提供するため、呉市水道アセットマネジメント計画を基に、老朽化の進んだ管路や基幹施設を優先し、効率的かつ計画的に水道施設の改築更新を進めます。

- 主な取組**
- (1) 管路更新事業
 - (2) 水道施設改築更新事業
休山隧道配水池更新事業など
 - (3) 水道施設等の適切な維持管理

施策② 快適な暮らしを支える下水道の整備



SDGs ゴールNo. : 6, 9

施策の方向 下水道施設の改築更新に当たっては、ストックマネジメント計画を基に、事業費の平準化と効率化を図りながら計画的に進めます。

また、雨水による浸水被害が多発している市街地を対象に重点的に排水施設の整備を推進します。

- | | |
|-------------|--|
| 主な取組 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 管きよ改築更新事業 (2) 下水道施設改築更新事業 新宮・広浄化センター下水処理設備更新など (3) 浸水対策（雨水整備）推進事業 二河川第2ポンプ場（合流施設）の建設など (4) 下水道未普及地区整備事業 (5) 下水道施設等の適切な維持管理 |
|-------------|--|

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-------------------------------------|-----|--|-----|--|
| 管路の耐震化率（上水道） | | | | |
| 管きよの耐震化率（下水道） | | | | |
| 雨水整備計画区域 [※] のうち、整備が完了した割合 | | | | |

※ 雨水整備計画区域は、市街地を中心に雨水による浸水被害の発生を軽減する必要がある区域

政策分野 7 : 環境分野

1 環境の保全

現状・課題

- 化石燃料の使用やごみの焼却などに伴い、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素濃度が高まり、気温、海水温の上昇による異常気象の発生と、これに起因する自然災害が増加する傾向にあります。
- 私たちの暮らしを支える多様な生態系を守り、森林や水辺などの豊かな環境を適正に管理していく必要があります。
- 市民の健康や生活環境に影響を及ぼさないよう、良好な地域環境を守る必要があります。
- 市営墓地は、施設の老朽化や少子高齢化・核家族化の進展、家意識の希薄化、価値観の多様化など社会環境の変化により管理が行われていない無縁墳墓が増加し、墓地環境が悪化するなどの問題が生じています。

施策①

地球環境の保全



SDGs ゴールNo. : 7, 11

施策の方向

温室効果ガスの排出量を抑制するため、限りあるエネルギー資源を効率よく活用する省エネルギーの取組を市民や企業と一体となって推進するとともに、気候変動の影響による被害を回避・低減する取組を実施します。

併せて、再生可能エネルギーの普及促進や低炭素型の都市・地域づくりの推進とともに、有害な紫外線を吸収し生態系を守っているオゾン層の保護に取り組み、地球環境の保全を推進していきます。

主な取組

- (1) 地球温暖化対策・気候変動の影響への適応
再生可能エネルギー（太陽光発電など）・コジェネレーションシステム（エネファームなど）の普及促進、低燃費・低公害車の導入など
- (2) オゾン層の保護
特定フロン引渡しの理解・協力の啓蒙活動など

施策② 生物多様性の保全



SDGs ゴールNo. : 15

施策の方向

呉市特有の豊かな環境を次世代に引き継いでいくために、藻場の創出、自然海岸の保全活動、農村環境の保全や森林整備等により、生物が生息する環境を維持するとともに、野生動植物の保護や特定外来生物への対応、自然とのふれあいを通じた身近な自然を守ることの大切さを伝える活動を行うなど生物多様性の保全を推進します。

主な取組

- (1) 生物生息環境の保全
藻場の造成、海浜清掃活動の拡充や啓発、農村環境を守る地域活動の支援など
- (2) 自然とのふれあい活動の推進

施策③ 地域環境の保全



SDGs ゴールNo. : 3

施策の方向

大気、水質、土壌、騒音・振動などの監視や測定を行うとともに、アスベストやダイオキシン類、PCBといった有害化学物質などへの適切な対応、環境美化を推進するための清掃活動などに取り組み、地域環境の保全を進めます。

主な取組

- (1) 生活環境の保全
大気、水質、土壌、騒音・振動などの監視や測定など
- (2) 有害化学物質等への対応
高濃度PCB廃棄物の調査及び処分指導の実施など
- (3) 緑化の推進
緑のカーテンの普及、「みどりづくり活動」を実施する団体への助成など
- (4) 環境美化の推進
各企業や市民団体等との協働による地域清掃やボランティア清掃の実施、地域ぐるみの掃除活動や草刈りの実施など

施策④ 市営墓地の整備



SDGs ゴールNo. : 11

施策の方向

民間墓地等との役割分担の明確化や既存市営墓地の管理運営の効率化、無縁墳墓を増加させないための利用者情報の適正管理に取り組めます。

併せて、承継者が不要で、省スペースかつ安価な使用料で提供可能な合葬式墓地を整備していきます。

主な取組

- (1) 市営墓地の適切な維持・管理
合葬式墓地の整備，墓地使用権承継の推奨など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-----------------|-----|--|-----|--|
| 温室効果ガスの排出量（千 t） | | | | |
| 大気汚染環境基準の達成率 | | | | |

政策分野 7 : 環境分野

2 循環型社会の形成

- 現状・課題**
- ごみの総排出量は、人口の減少に伴い減少していますが、一人当たりのごみ排出量は横ばいで推移し、資源のリサイクル率も低下の傾向にあります。
 - 廃棄物の不法投棄や不法焼却などの不適切な処理への対応が必要となっています。
 - 市民一人ひとりが環境についての正しい知識を学び実践することで持続可能な社会を構築する必要があります。

施策① 循環型社会の形成


SDGs ゴールNo. : 12

- 施策の方向**
- 天然資源の消費を低減し、資源の循環的な利用を促進するため、企業等と一体となって、ごみの減量化を継続して進め、発生抑制やリサイクルの推進、食品ロスの削減などに取り組みます。
- 併せて、監視カメラの設置やパトロールなどにより、不法投棄や不法焼却の防止を図ります。
- 廃棄物を適正、安定的・効率的に処理するため、一般廃棄物処理施設の整備を進めます。

- 主な取組**
- (1) ごみの減量（3Rの推進）
リサイクル意欲の向上促進、食品ロス削減の啓発など
 - (2) 廃棄物の適正処理
監視パトロールの実施や不法投棄防止看板設置、廃棄物処理業等許可・更新事務及び事業所への立入指導・検査など
 - (3) 一般廃棄物処理施設の整備
ごみ・し尿処理施設の適正配置など

施策② 持続可能な社会の基盤づくり



SDGs ゴールNo. : 13

施策の方向

環境問題に自主的に取り組む市民や事業者を増やすため、環境教育・学習の推進を図ります。また、環境ボランティア団体と連携した、環境保全活動を行います。

主な取組

- (1) 環境教育・学習の推進
出前環境講座の開催，一般廃棄物処理施設の見学の実施など
- (2) 環境情報の提供
講演会やパネル展等環境関連行事の開催など
- (3) 市民協働による取組
環境保全活動団体との連携による自然保護活動や自然観察会の実施など
- (4) 環境産業の振興
再生可能エネルギー等の普及促進などの優良事例の情報発信など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|-------------------|-----|--|-----|--|
| 一人1日当たりのごみ排出量 (g) | | | | |
| 一般廃棄物のリサイクル率 | | | | |

政策分野 8 : 行政経営分野

1 情報化の推進

- 現状・課題**
- AI や I o T などの革新的なデジタル技術が進展し、それらがデータを核に駆動することで、社会のあり方が大きく変わろうとしています。このデジタルトランスフォーメーション（デジタル革新）の波は止まることなく、人類社会が次のステージへ向かうきっかけとなると考えられており、これらの技術革新や社会変革に迅速かつ柔軟に対応することが必要とされています。
 - 少子高齢化の進行や産業構造の変化、自然災害や新型コロナウイルスの影響等によるライフスタイル・ワークスタイルの変化など、多様化・複雑化する市民ニーズに対し、限られた職員数（人的リソース）で的確に対応する必要があります。こうしたことから、様々な分野における I C T の活用により業務の効率化を進めるとともに、より質の高い行政サービスを継続的に提供することが求められています。

施策① スマートシティの推進


S D G s ゴールNo. : 9

施策の方向

Society5.0時代の到来を見据え、社会のあらゆる局面で活用できる情報通信基盤として、光ファイバーによる高速通信網を市内全域に整備します。これにより市内のどこにいてもテレワークやワーケーション等の柔軟な働き方や、I o T を活用したスマートな暮らし方を可能にします。

また、スマートシティの実現に向けた推進体制を構築するとともに、スマートモビリティの先駆的実装・M a a S の実現に向けた移動・交通に関するデータや医療データなど、公共や民間が持つビッグデータの蓄積・分析を可能とするプラットフォームの構築などに取り組み、地域課題の解決や地域経済の活性化を図ります。

主な取組 (1) スマートシティの実現に向けた取組

AI, ビッグデータ等の利活用, スマートモビリティ, スマート農業・水産業, G I G A スクール構想の推進, I C T 人材ネットワークの構築など

- (2) 呉市オープンデータの拡充
- (3) 情報通信基盤整備の推進

施策② スマート自治体への転換



SDGs ゴールNo. : 12

施策の方向

マイナンバー制度と連携したオンライン申請や、窓口でのタブレット申請など、従来の書面による申請をデジタル化することで住民の利便性を向上し、持続可能な形で行政サービスを提供し続けられるよう、庁内業務システムの最適化を図り、スマート自治体への転換を推進します。

主な取組

- (1) 行政サービスのデジタル化の推進
オンライン申請や、タブレット申請など
- (2) マイナンバー制度への対応
- (3) 庁内業務システムの最適化
電子決裁の導入など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|---------------------|-----|--|-----|--|
| 呉市オープンデータの項目数（累計） | | | | |
| オンライン申請ができる窓口手続（累計） | | | | |

政策分野 8 : 行政経営分野

2 行財政改革の推進

- 現状・課題**
- 歳入の根幹である市税収入が伸び悩み、義務的経費の大幅な減少は見込まれない状況にあります。
 - 価値観や生活様式の変化に伴い多様化する市民ニーズや新たな行政課題に、迅速かつ的確に対応していく必要があります。
 - 呉市の公共施設は、築30年以上の施設が全体の半数を超え、今後、大規模改修が必要となるとともに、人口減少による利用者数の減少が見込まれています。
 - 市民や企業などと一緒に未来の呉市の姿の実現に向けて取り組むため、市民に開かれた市政を実現していく必要があります。

施策① 健全な財政運営の確保



SDGs ゴールNo. : 16

- 施策の方向**
- 社会経済情勢や市内ニーズの変化に的確に対応した持続可能な市政運営を実現するため、「財政構造の弾力性」や「財政運営の安定性・継続性」を念頭に置いて、歳入の確保や歳出規模の縮減に取り組み、健全で持続可能な財政運営の確保に最大限努めます。

- 主な取組**
- (1) 歳入の確保
市税等の収納率向上、ふるさと納税など
 - (2) 歳出規模の縮減
市債の元金・利子償還など

施策② 効率的な行政システムの確立



SDGs ゴールNo. : 16

施策の方向

行政サービスの安定的な供給に必要な人員の確保や、市民に分かりやすい組織体制の見直し、定員の適正化を図るとともに、事務事業評価の活用や民間の持つ専門的な知識や技術を生かした質の高いサービスの提供などの推進を図ることで、簡素で効率的な行政システムの確立に取り組みます。

主な取組

- (1) 定員の適正化
- (2) 民間委託等の推進
- (3) 事務事業評価の実施

施策③ 長期的かつ総合的な資産経営



SDGs ゴールNo. : 9, 11, 13

施策の方向

次世代に負担をかけないためにも、将来の人口規模、財政規模を踏まえて公共施設等の「量」を縮減するとともに、計画的な保全、耐震化、長寿命化等により「質」を高めます。

主な取組

- (1) 公共施設等総合管理計画に基づく量と質の適正化の推進

施策④ 市民ニーズに対応する行政サービスの提供



SDGs ゴールNo. : 16, 17

施策の方向

コンプライアンスの推進や、適正で効率的な事務の執行を確保するために内部統制機能の充実を図ります。また、包括外部監査や情報公開を実施するとともに、市民意見を市政に反映させる仕組みの活用等により市民に開かれた透明性の高い市政を実現していきます。

主な取組

- (1) 中核市としての行政サービスの提供
- (2) コンプライアンスの推進

- (3) 内部統制機能の充実
内部統制の方針の策定検討など
- (4) 包括外部監査の実施
- (5) 情報公開の推進及び個人情報の適正な管理
- (6) パブリックコメントの推進

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|--------|-----|--|-----|--|
| 将来負担比率 | | | | |

政策分野 8 : 行政経営分野

3 職員・組織の活性化

- 現状・課題**
- 多様化・複雑化する市民ニーズや新たな行政課題に的確に対応していくためには、限られた人材と時間を効率的に活用する必要があります。
 - 職員一人ひとりの生活の充実と、その能力を十分に発揮できる環境を整えていく必要があります。
 - 職員の能力や成果を適正に評価し、職員のモチベーションを向上していく必要があります。
 - 多様な人材が活躍できる環境を整える必要があります。

施策① 働き方改革の推進



SDGs ゴールNo. : 8

施策の方向 出産・育児や介護等と仕事の両立など、職員のライフステージに合わせた柔軟な働き方ができる人事制度を整えるとともに、年次有給休暇の取得やテレワークなどの新しい生活様式に対応した働き方を促進し、仕事の生産性や効率性を向上させる好循環を生み出す、働きやすい職場風土の醸成を図ります。

- 主な取組**
- (1) 柔軟な働き方を可能とする人事制度の整備
テレワーク、時差出勤の推進など
 - (2) 職員のワーク・ライフ・バランスの推進
年休の取得促進、時間外勤務の縮減、ストレスチェックを活用した職場環境の改善など

施策② 職員の能力開発と意識改革



SDGs ゴールNo. : 8

施策の方向 時代の流れに即応した研修や人事交流などの機会を更に充実させ、職員一人ひとりが有する潜在能力を最大限に引き出すとともに、資質と能力の向上に取り組みます。

- 主な取組**
- (1) 職員の育成
国や県との人事交流，研修事業の充実，人事考課など
 - (2) 職員の潜在能力の活用
適材適所の人員配置，得意分野のスキルアップを図る研修など

施策③ 人事任用制度の充実



SDGs ゴールNo. : 8

施策の方向 再任用職員や任期付職員，会計年度任用職員など多様な人材を活用するとともに，職員の適性や能力に応じた適材適所の人員配置や，人事評価制度の適正な運営により，組織としての機能を最大限発揮できる体制の充実を図ります。

- 主な取組**
- (1) 多様な人材が活躍できる職場づくり
再任用職員や任期付職員，会計年度任用職員の採用など
 - (2) 職員のモチベーションの向上
能力や実績に応じた処遇反映の検討など

指 標

| 項 目 | 現 状 | | 目 標 | |
|----------------|-----|--|-----|--|
| 職員の資質向上に関する満足度 | | | | |

政策分野 8 : 行政経営分野

4 都市間交流・連携の推進

- 現状・課題**
- 人口減少や広域的な地域の活性化，住民サービスの向上，災害時の相互応援など，市が単独で対応することが困難な課題が生じています。
 - 平和産業港湾都市として，防衛施設との共存を維持しながら，地域経済の発展や市民の安全・安心な暮らしを確保する必要があります。

施策① 広域連携の推進



SDGs ゴールNo. : 17

施策の方向 近接市町との都市間連携を深め，相互の特徴や資源を有効に活用し，圏域全体の活性化や住民サービスの向上等，暮らしやすく住み続けたい都市の形成につながる施策を連携・協力して取り組みます。

また，横須賀市，呉市，佐世保市，舞鶴市の旧軍港四市が協力して，基地周辺対策や旧軍港市転換法に基づく旧軍用財産の転活用，災害時の相互応援などに取り組みます。

- 主な取組**
- (1) 近隣市町との連携の推進
広島広域都市圏協議会，広島中央地域連携中枢都市圏事業など
 - (2) 旧軍港市との連携の推進

指 標

(参考指標) 広島中央地域連携中枢都市圏ビジョンでは，令和22年（2040年）の圏域人口を 486,000 人としています。